

下関市立市民病院 年報

第2巻

平成25年度



地方独立行政法人

下関市立市民病院

SHIMONOSEKI CITY HOSPITAL

目 次

はじめに	2	看護部	54
病院の沿革	3	放射線部	66
下関市立市民病院組織図	7	検査部	68
委員会組織図	8	臨床工学部	70
各部門の活動状況		栄養管理部	78
内科	9	薬局	81
血液内科	10	地域医療連携室	84
腎臓内科	11	医療安全対策室	86
ペインクリニック内科	15	ドクターズクラーク室	89
循環器内科	16		
消化器内科	17	審議会・委員会、部会活動報告	
小児科	18	薬事審議会	90
外科	21	感染管理委員会	91
呼吸器外科	25	保険委員会	93
脳神経外科	26	輸血療法委員会	94
心臓血管外科	27	治験審査委員会	98
小児外科	30	検体検査管理委員会	99
整形外科	31	診療録管理委員会	100
リハビリテーション科	34	安全管理委員会	101
皮膚科	37	褥瘡対策委員会	110
泌尿器科	38	栄養管理委員会	111
産婦人科	40	広報年報委員会	112
眼科	42	衛生委員会	113
耳鼻咽喉科	43	倫理委員会	114
放射線診断科	45	研修管理委員	115
放射線治療科	46	C S 推進委員会	117
麻酔科	47	クリニカルパス推進委員会	118
救急センター	48	N S T 運営委員会	120
救命センター	49	ボランティア活動	121
病理診断科	51	出前講座	122
歯科・歯科口腔外科	52		

はじめに

院長 小柳 信洋

当院が法人化し、下関市立市民病院となって2年目の平成25年度は、前年度に芽吹いた種を大きく育てる年であり、これからの経営改革という果実を収穫するための準備の年であったように思います。

平成24年度の医業収入は前年度に比較して6億円の増収でしたが、結果として約4億円の赤字となりました。これは、法人化に伴う初期投資ともいえる支出増のためであり、ある意味“想定範囲内”であったかとも言えるかも知れません。具体的には、7対1看護体制獲得のための看護師の増員、DPC準備病院としての体制づくり、医療機器更新のために4億円投資（25年度以降は毎年度2億円を予定）、地域医療センター（仮称）設計開始、経費節減のためのコンサル契約、医師給与制度改革のためのコンサル契約（26年4月より新制度開始）などがあります。

平成25年度について言えば、医業収入は平成24年度に比べさらに4億円の増収となりました。平成23年度と比較すれば実に10億円の増収です。法人化2年間で15%の増収となったわけです。病院職員の皆様の頑張りのお陰だと思えます。平成25年度最終決算では3200万円の赤字ではありましたが、経営改善の礎を築いたといえは多少は仕方ないのかもしれませんが。しかしながら、キャッシュフローの面からは相変わらず厳しい状況と言えます。

当初予定していた平成26年度からのDPC対象病院に関しては、思いもかけない手続き上のミスで残念ながら平成28年度からの適応にならざるを得ません。数%の増収を見込んでいたところですが、7対1看護体制や地域医療支援病院などの指定を受けるなどの十分な準備をした上で改めてDPC対象病院を目指したいと思えます。

看護体制については、平成26年4月に約20名の新卒看護師が病院職員に加わっていただき、入院患者数を一定程度制限すれば7対1看護体制が可能となりました。医療報酬の改訂により7対1看護体制認定基準が極めて厳しくなったところですが、何とかクリアできそうです。

平成26年度は法人化3年目の年であり、市民病院が法人化して良かったかどうかの分水嶺になるものと思えます。病院職員一同の協力をいただきながら努力して参りたいと思えます。

病院の沿革

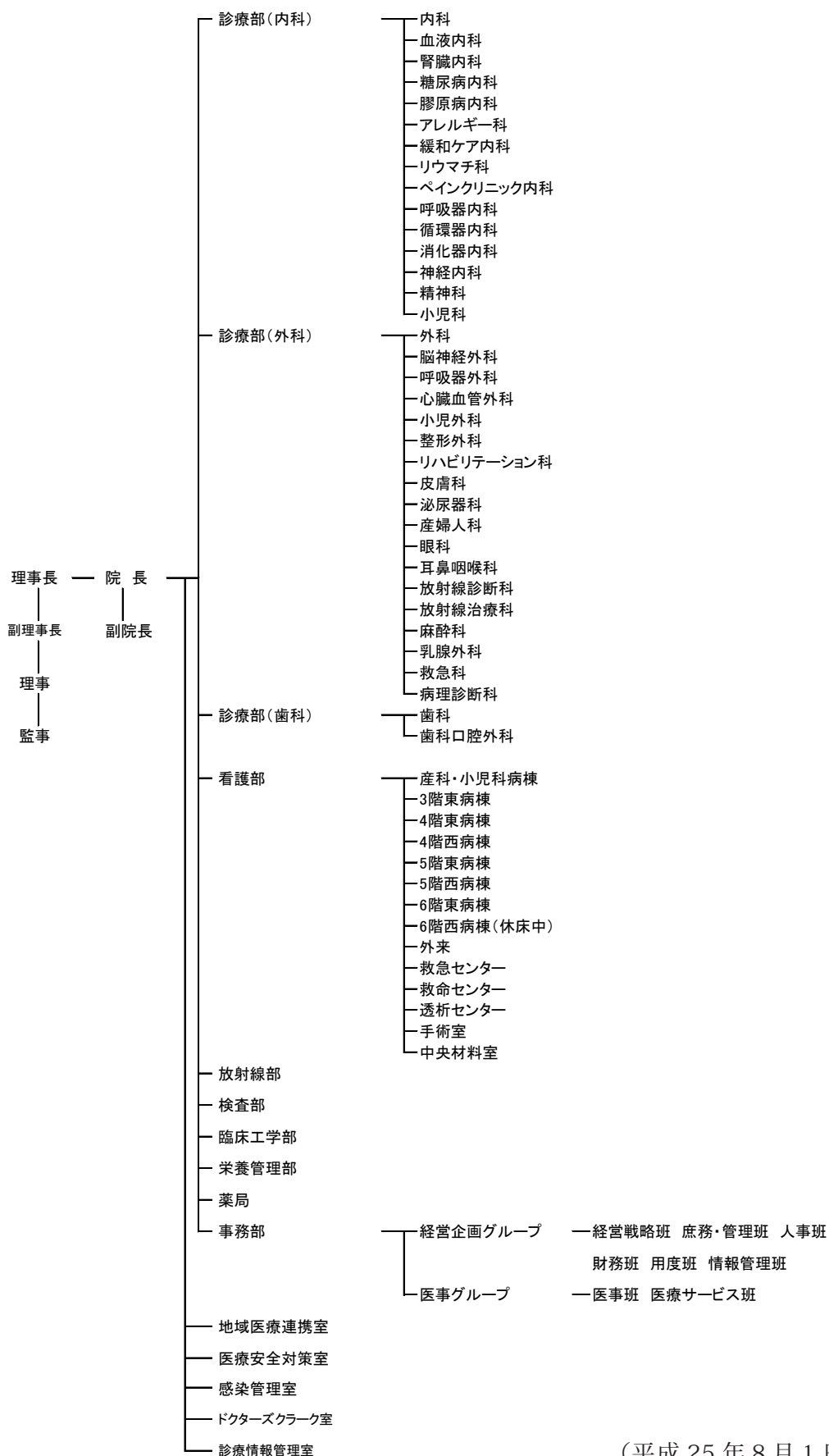
明治 34 年 12 月	下関市立高尾病院（伝染病院）開設
明治 45 年	衛生試験所
大正 15 年 4 月	高尾病院改築
昭和 8 年 5 月	下関市立診療所併設
昭和 22 年 8 月	下関市立診療所を病院に改める。（名称は以前の名称を使用 医師 5 名）
昭和 23 年 6 月	下関市立診療所小月分院開設
昭和 23 年 6 月	日本医療団下関病院を買収、下関市立病院として発足
昭和 25 年 1 月	下関市立中央病院 初代院長 常松順介就任
昭和 25 年 3 月	下関市立高尾病院、下関市立診療所と下関市立病院を統合し、下関市立中央病院として発足（医師 9 名） 一般 53 床、結核 51 床、伝染 50 床、下関市立病院を下関市立中央病院付属新町診療所に改称（13 床）
昭和 25 年 6 月	長府診療所設置
昭和 25 年 10 月	耳鼻咽喉科新設
昭和 26 年 1 月	第 2 代院長 浜崎邦夫就任
昭和 26 年 4 月	弟子待仮診療所設置
昭和 26 年 8 月	新町診療所病室設置（6 室 9 床）
昭和 28 年 3 月	弟子待仮診療所廃止
昭和 28 年 6 月	小月（14 床）、長府（8 床）隔離病舎廃止
昭和 29 年 12 月	小月診療所廃止
昭和 30 年 10 月	吉田、王喜伝染病院隔離病舎廃止
昭和 31 年 1 月	長府診療所廃止
昭和 32 年 7 月	伝染病院 2 階建（53 床）増築
昭和 33 年 1 月	新町診療所を増設、下関市立中央病院新町分院として開設（30 床）、 基準給食実施
昭和 33 年 10 月	基準給食、基準看護実施 2 類 本院 医師 12 名 看護婦 36 名 新町分院 基準看護実施 2 類 分院 医師 3 名 看護婦 11 名
昭和 35 年 3 月	分院改築（2 病棟）
昭和 35 年 7 月	本院、分院保険医療機関指定、分院基準看護 1 類に変更
昭和 36 年 3 月	新築（本院）190 床（分院 30 床）、結核 51 床、伝染 53 床
昭和 36 年 8 月	本院 1 類に変更（結核は 2 類）
昭和 37 年 4 月	地方公営企業法の一部適用
昭和 37 年 4 月	結核 44 床に変更
昭和 38 年 1 月	総合病院の名称使用許可（県）
昭和 38 年 4 月	身体障害者福祉法に基づく指定（耳鼻科、眼科）
昭和 38 年 11 月	診療及び公衆衛生に関する実施修練病院の指定

昭和 39 年 4 月	第 3 代院長 亀田五郎就任
昭和 40 年 1 月	病院開設許可申請事項一部変更許可 一般 304 床、結核 36 床、伝染 53 床、合計 393 床、(76 床増床)
昭和 40 年 2 月	救急病院指定 (救急専用優先病院 10 床)
昭和 41 年 3 月	新町分院廃止
昭和 41 年 6 月	健康保険法による基準寝具の実施について承認
昭和 42 年 3 月	新館 150 床 (改築 74 床、増築 76 床) 増改築完成
昭和 42 年 4 月	消化器科、循環器科、脳神経外科の 3 科を新設
昭和 42 年 9 月	上田中町医師公舎 (16 戸) 完成
昭和 44 年 6 月	人工腎臓室を設ける
昭和 46 年 3 月	大学町医師公舎 (8 戸) 完成
昭和 46 年 4 月	呼吸器科、神経精神科、理学診療科の 3 科を新設 19 科となる
昭和 47 年 5 月	健康保険法による基準看護特類承認
昭和 49 年 7 月	外科病棟 2 単位制実施
昭和 49 年 9 月	内科病棟 2 単位制実施
昭和 49 年 9 月	病院用地取得 71.96㎡ (向洋町 2 丁目 10 - 53)
昭和 50 年 2 月	院内保育所開設 (にこにこ保育園運営委員会)
昭和 50 年 4 月	健康保険法による基準看護甲表特 2 類承認 (結核、甲表 2 類)
昭和 50 年 4 月	診療科目 20 科となる。神経精神科を神経科、精神科に分ける。
昭和 51 年 4 月	医師 30 名、医療技師 34 名、看護婦 195 名、事務 50 名、職員定数 309 名、 病棟 2 - 8 体制実施
昭和 52 年 4 月	医師 30 名、医療技師 35 名、看護婦 200 名、事務 50 名、職員定数 315 名
昭和 54 年 3 月	呼吸器科外科、心臓血管外科、小児外科の 3 科を新設 23 科となる
昭和 56 年 1 月	結核病床 36 床一般病床へ転床
昭和 56 年 7 月	特定病床 15 床承認
昭和 59 年 5 月	移転改築に係る新病院開設許可 (一般 430 床・伝染 30 床)
昭和 60 年 4 月	第 4 代院長 四宮 衛就任
昭和 61 年 3 月	新病院建設起工式
昭和 63 年 3 月	新病院完成
昭和 63 年 4 月	新病院における診療開始 (一般 430 床のうち 377 床・感染症 30 床)
平成元年 4 月	第 5 代院長 徳永正晴就任
平成元年 4 月	閉鎖部分の一般 53 床の診療開始
平成元年 6 月	内科外来の予約診療制実施
平成元年 8 月	登録医制度実施
平成元年 9 月	基準看護 (特 3 類) 一般 6 棟 212 床、(特 2 類) 一般 248 床承認
平成 2 年 7 月	外科、整形外科外来の予約診療制実施
平成 4 年 4 月	臨床研修病院の指定
平成 4 年 6 月	基準看護 (特 3 類) 一般 7 棟 265 床、(特 2 類) 一般 195 床変更承認
平成 4 年 10 月	外来全科の予約診療制実施

平成5年4月	週休2日制導入
平成5年7月	人間ドック受診者ホテル宿泊実施
平成6年10月	中華人民共和国青島市市立医院と友好病院締結
平成7年6月	新看護(2対1看護A)体制実施 11単位 460床
平成7年7月	入院時食事療法特別管理加算実施
平成8年4月	第6代院長 赤尾元一就任
平成8年4月	夜間勤務看護加算実施
平成8年6月	MR棟(増築)完成
平成8年7月	MRを更新、CTを増設する。また、脳ドック、肺癌ドックを創設
平成9年2月	理学療法科をリハビリテーション科へ診療名を変更し歯科口腔外科を追加し24科に
平成9年3月	透析センター(増築)完成
平成9年3月	外来駐車場を40台分増設
平成9年3月	旧NHK下関支局局舎取得
平成9年6月	新病院開設10周年記念講演会開催
平成10年3月	新病院開設10周年記念誌発行
平成10年4月	災害拠点病院の指定
平成10年10月	病院情報システム導入委員会の設置
平成11年3月	心臓部血管連続撮影装置更新 無菌室完成
平成11年4月	感染症医療機関(感染症2類)の指定 感染症病床数30床から6床へ減床 感染症病棟を1階東病棟へ変更(一般9床、感染症6床)
平成11年11月	中央採血室増築工事開始 1階東病棟へ普通個室4室増加
平成12年3月	中央採血室増築工事完成 多目的血管連続撮影装置更新
平成12年10月	病院情報システム稼動(一次)
平成13年3月	病院情報システム稼動(二・三次)
平成13年4月	第7代院長 小柳信洋就任
平成13年4月	外科、整形外科外来の予約診療制実施 院外処方開始
平成14年4月	蓋井島診療開始
平成15年1月	病院機能評価受審(平成15年8月認定)
平成16年3月	救急センター改修(外来化学療法室の設置)
平成17年10月	CTを更新(64列マルチスライス)
平成18年4月	看護職員配置基準 10対1体制(制度変更による)
平成18年8月	地域がん診療連携拠点病院の指定
平成20年2月	ESCO事業供用開始(ESCO事業:下関市立中央病院省エネルギー化事業)

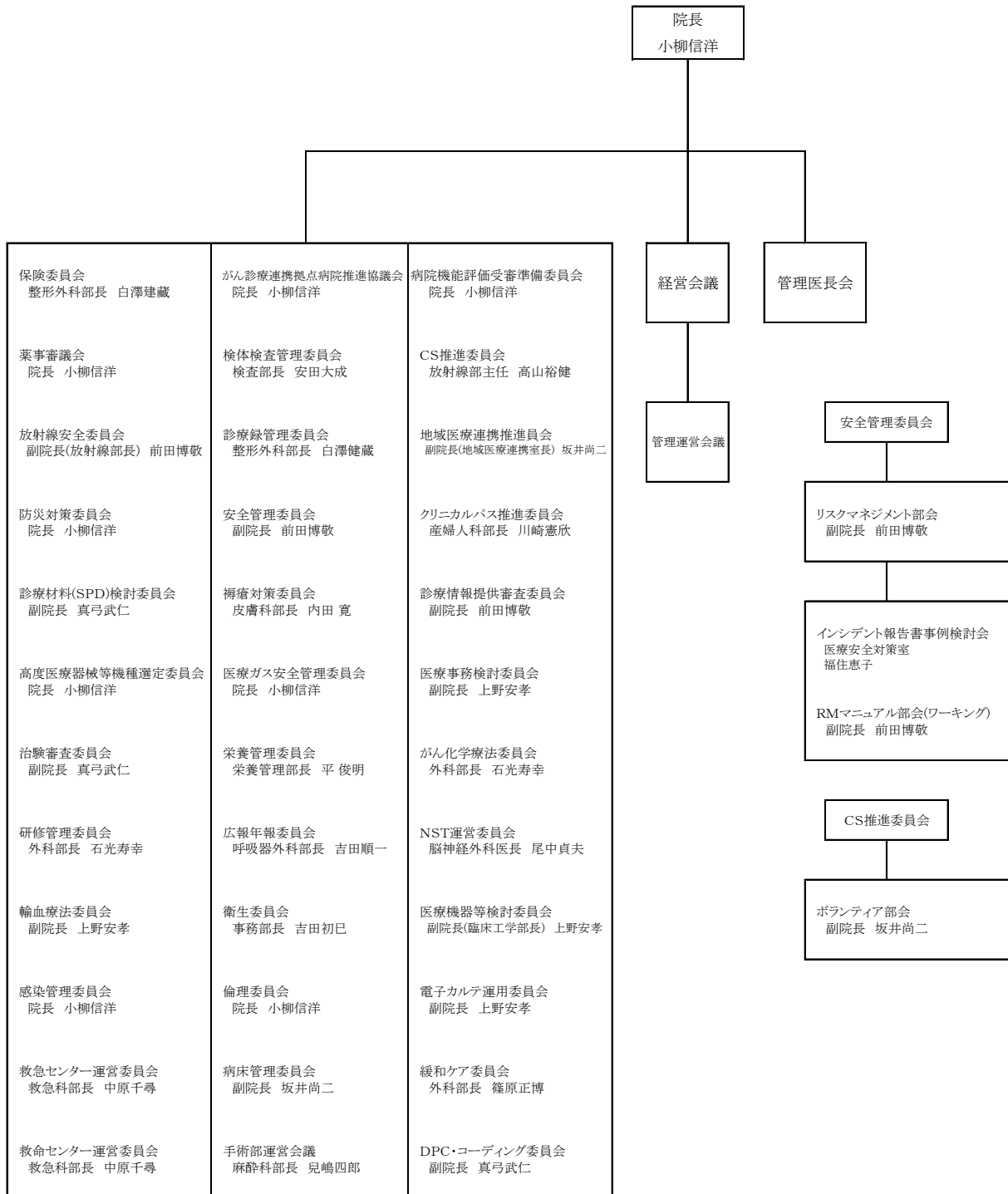
平成 20 年 3 月	リニアック室増築完成、リニアック装置更新
平成 20 年 6 月	病院機能評価（V e r 5.0）受審（平成 20 年 8 月認定）
平成 23 年 2 月	電子カルテシステム稼動
平成 23 年 3 月	地方独立行政法人下関市立市民病院定款議決
平成 23 年 12 月	地方独立行政法人化関連条例議決
平成 24 年 2 月	法人認可取得
平成 24 年 4 月	地方独立行政法人下関市立市民病院設立（下関市立市民病院開設）
平成 24 年 4 月	D P C 準備病院、医療費預り金制度開始
平成 25 年 3 月	クレジットカード払制度開始
平成 25 年 3 月	病棟改修工事（病室、デイルーム等）開始
平成 25 年 7 月	コンビニエンスストア（ローソン）オープン
平成 25 年 11 月	I C U 10 床運用開始
平成 25 年 12 月	病棟改修工事（病室、食堂デイルーム等）完成

下関市立市民病院組織図



(平成 25 年 8 月 1 日現在)

委員会組織図



(平成 26 年 3 月 31 日現在)

内科

【スタッフ】

真弓武仁 副院長 日本内科学会認定総合内科専門医
日本リウマチ学会専門医
井川 敬 内科医長 日本内科学会認定総合内科専門医
日本リウマチ学会専門医
日本循環器学会専門医

【診療】

膠原病、糖尿病、不明熱、甲状腺疾患などを主要な診療対象疾患として診療しているが、実際は様々な疾患の診療を行っている。糖尿病に関しては、依頼のあった場合に周術期の血糖コントロールも行い、関節リウマチに関しては、生物学的製剤の導入を積極的に行った。井川は、肺高血圧の治療や心臓カテーテル検査などで、循環器科グループの診療にも加わった。

【診療実績】

入院疾患と患者数

糖尿病	30	ベーチェット病	1
関節リウマチ	17	シェーンライン・ヘノッフ紫斑病	1
全身性エリテマトーデス	7	リウマチ性多発筋痛症	3
強皮症	4	顕微鏡的多発血管炎	2
多発性筋炎	3	間質性肺炎	2
混合性結合組織病	4	その他	66
合 計			140

血液内科

【スタッフ】

久保 安孝 医長 日本内科学会認定内科医
日本血液学会認定血液専門医

【診療実績】

入院疾患と患者数（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）

急性骨髄性白血病	4人
悪性リンパ腫	18人
骨髄異形性症候群	7人
特発性血小板減少症	3人
成人T細胞白血病	1人
慢性骨髄性白血病	1人
慢性骨髄増殖性疾患	2人
多発性骨髄腫	5人
巨赤芽球性貧血	2人
慢性リンパ性白血病	1人
感染症	9人
急性リンパ性白血病	1人
赤芽球ろう	2人
鉄欠乏性貧血	1人
自己免疫性溶血性貧血	1人
再生不良性貧血	2人
その他	22人
合 計	82人

腎臓内科（内科）

【スタッフ】

坂井尚二、前田大登、吉村潤子、岩田菜津美、吉水秋子

【概要】

スタッフは九州大学2内科腎グループより吉水秋子医師が就職し、1名増員の5名体制となった。腎臓内科専門医は3名おり、診療活動は腎疾患を中心とした専門内科として診療活動を行っている。又どの専門内科にも属さない一般内科の治療にも多く担当している。日常診療だけでなく教育面では、研究会・学会での発表を積極的に行い、研修医の指導にも力を注いでいる。最近では糖尿病をはじめ生活習慣による疾患が増加しており、高齢社会を反映して高齢者の慢性腎不全が増加している。治療だけでなく慢性腎臓病（CKD）の予防・教育も腎臓内科の重要な責務と考えており、病診連携に力を入れている。看護師、臨床工学技士、栄養士などのコ・メディカルとの協力を密にして高品質な治療をめざして診療を行っている。透析センターでの入院・外来維持透析の他に、種々の分野で必要となる急性血液浄化療法（持続的血液透析濾過、血漿交換など）にも透析センター並びにICUにて積極的に対応している。

【診療】

外来は週3回（火曜日～木曜日）であるが、急性疾患や緊急時、院内外紹介には非外来日も対応している。透析センターでは、20床を月～土曜日に午前・午後の2回転で運営し常時約60人の患者様が血液透析を受けている。総合病院としての使命で他施設の各科に入院となる患者様は積極的に受け入れている。また血液透析だけでなく、在宅治療である腹膜透析（CAPD）の導入も行っている。腎疾患はできるだけ腎生検を施行し、EBMに基づいて専門的治療を行い、IgA腎症に対しては症例により治療法である扁桃腺摘出術ならびにステロイドパルス療法を積極的に行い腎炎の改善、寛解に取り組み、寛解例をはじめ良好な成績をあげている。腎不全の予防や治療に密接な関連のある高血圧、糖尿病の治療にも食事治療並びに栄養指導、自己管理指導を積極的に行っており、患者様だけでなく紹介先の先生方の期待に応えるよう努めている。慢性腎臓病（CKD）が注目されるようになり、若年者においては早期発見に検診での尿異常など一般医と腎臓専門医との連携が必要である。また高齢者においては潜在的に腎機能低下を有しており、わずかな誘因で急速に腎機能低下を招く危険性があるため早期診断治療に、今後とも病診連携を深めて治療にあたっていく必要があると考えている。

【腎臓内科 平成 25 年度 入院患者統計】

病名	慢性腎不全	74	治療	内シャント造設術	21
	急性腎不全	22		CAPD手術	3
	慢性腎炎・ネフローゼ症候群	19		PTA	60
	電解質異常	11		経皮的腎生検	10
	尿路感染症	22		血漿交換療法	1
	心不全	26		血球成分除去療法	10
	糖尿病・糖尿病腎症	31		腹水濾過濃縮再静注法	5
	シャントトラブル	73		持続的血液透析濾過	15
	呼吸器感染症	76		総件数	125
	その他	99			
	総症例数	453			

【学術業績】

業績集<発表>

開催年月	演題名	演者	共同演者	学会名
H25.5.26	臨床検査からアプローチした腎臓病	吉村潤子		第 61 回山口県医学検査学会 (山口県総合保険会館)
H25.6.13	腎臓のお話 今注目の新たな国民病を防ごう 慢性腎臓病 (CKD)	坂井尚二		下関未来大学 2013 食と健康学科 (下関市立大学)
H25.6.21 ～ 23	透析室における災害対策	市川智春	河村洋子 吉水秋子 岩田菜津美 前田大登 吉村潤子 坂井尚二	第 58 回日本透析医学会 学術集会・総会 (福岡国際会議場、マリンメッセ福岡、福岡サンパレス)
	当院における透析患者の災害時栄養管理教育について	上村朋子	吉村潤子 吉水秋子 岩田菜津美 前田大登 坂井尚二	
	腹水濾過濃縮再静注法 (KM-CART) を施行した癌性腹水症例の検討	佐々木毅	篠田直子 鈴木あゆみ 前田友美 鈴木雄揮 前田大登 坂井尚二	
	血液透析患者の睡眠覚醒リズムにおけるメラトニン作動薬の効果	岩田菜津美	前田大登 吉水秋子 吉村潤子 坂井尚二	
	急速に腎障害が進行し透析導入した肺癌腎転移の 1 例	前田大登	吉水秋子 岩田菜津美 吉村潤子 坂井尚二 岸弓景 井上政昭	

開催年月	演題名	演者	共同演者	学会名
H25.6.21 ～23	イレウスの原因特定に難渋した腹膜透析患者の症例	吉村潤子	吉水秋子 岩田菜津美 前田大登 坂井尚二 岸 弓景 川西秀樹	第 58 回日本透析医学会学術集会・総会 (福岡国際会議場、マリンメッセ福岡、福岡サンパレス)
	腹膜透析カテーテル留置術と Kugel 法による鼠径ヘルニア修復術を同時に施行した 1 例	吉水秋子	吉村潤子 岩田菜津美 前田大登 坂井尚二 岸 弓景 河田 純 大藪慶吾 鈴木宏往 石光寿幸	
H25.7.7	【総論・基礎】 透析療法の基礎	吉水秋子 松田愛子 前田友美		透析セミナー in 海峡 メッセ'13 (海峡メッセ下関)
H25.7.27	当院における透析室看護師の現状と役割	市川智春	川村洋子 村田由紀 松田愛子 乙咩崇臣 田中洋澄 吉水秋子 吉村潤子 坂井尚二	第 30 回九州 CAPD 検討会 (福岡県中小企業振興センター)
H25.8.3	ループス腎炎の寛解にミゾリビン、プレドニゾロン、シクロスポリンの併用が有効であった症例	吉村潤子	乙咩崇臣 田中洋澄 吉水秋子 坂井尚二	第 23 回九州・山口ループス腎炎治療研究会 (福岡県中小企業振興センター)
H25.10.3	脂質異常症治療ガイド 2013 年度版の使い方	坂井尚二		脂質異常症治療ガイド 2013 年度版普及啓発セミナー 下関会場 (海峡メッセ下関)
H25.10.11 ・12	糖尿病性腎症に C 型肝炎と electron dense deposit を合併した症例	田中洋澄	吉村潤子 乙咩崇臣 吉水秋子 坂井尚二	第 43 回日本腎臓学会西部学術大会 (松山全日空ホテル)
	ループス腎炎の寛解にミゾリビン、プレドニゾロン、シクロスポリンの併用が有効であった症例	乙咩崇臣	吉村潤子 田中洋澄 吉水秋子 坂井尚二	
	高度心不全の血液透析患者に対して薬物療法・ASV で心機能と ADL 改善がみられた 1 例	吉水秋子	前田大登 乙咩崇臣 田中洋澄 吉村潤子 金子武生 坂井尚二	
H25.10.19		吉水秋子		下関医師会平成 25 年度男女共同参画部会総会 (海峡メッセ下関)
H25.10.20	ポスターセッション 手術・手技② (ブラッドアクセス・カテーテル関連、その他)	坂井尚二 (座長)		第 22 回中国腎不全研究会 (広島国際会議場)
	ポスターセッション 医療機器関連⑥ (水処理 / 透析液)	佐々木毅 (座長)		

開催年月	演 題 名	演 者	共同演者	学 会 名
H25.10.26	根昆布の過剰摂取により甲状腺機能低下症をきたした1例	浮池宜史	吉村潤子 王寺裕 坂井尚二 野田敏剛（野田内科医院）	第22回山口県西部医学会(海峡メッセ下関)
H25.11.17	慢性腎臓病 (CKD) と糖尿病	坂井尚二		第85回市民糖尿病教室（下関医師会講堂）
H26.3.2	山口県医師会男女共同参画部会 活動報告インターンシップ ～今年度、インターンシップ学生を引き受けて～	吉水秋子		山口県医師会男女共同参画部会総会（山口グランドホテル）
H26.3.6	ウイルス性髄膜炎とパラシクロピル塩酸塩による意識障害の鑑別が困難であった症例	吉村潤子	尾中貞夫 乙咩崇臣 田中洋澄 吉水秋子 中村隆治 坂井尚二 伊藤真一（いとう腎クリニック）	第20回山口県腎臓病研究会（山口グランドホテル）
H26.3.13	透析センター足回診と臨床工学部のかかわり	藤田 忍	佐々木毅 鈴木雄揮 前田友美 鈴木あゆみ 河村洋子 乙咩崇臣 田中洋澄 吉水秋子 吉村潤子 坂井尚二	第26回山口県西部透析症例検討会（海峡メッセ下関）
H26.3.27	糖尿病合併 CKD 患者の血糖・血圧・貧血管理	坂井尚二		下関市医師会学術講演会（海峡メッセ下関）

ペインクリニック内科（疼痛外来）

ペインクリニックは多種多様な痛みの治療相談に応じる外来です。特に難治性とされる神経そのものの損傷や機能異常で起こる痛みに対しての相談に力を入れています。最近では多くの種類の鎮痛薬が開発され治療成績も向上しつつあります。当外来では患者様と粘り強く治療を進めてゆくことを心がけています。

近年、痛みの治療において漢方薬の効果も確認され、当外来においても積極的に応用し、確かな治療成績を認めています。

【担当医】

藤原義樹（日本麻酔科学会指導医、専門医）

【対象とする疾患】

帯状疱疹後神経痛、
三叉神経痛、腰痛、
偏頭痛、
難治性の腰痛、
線維筋痛症など

平成 25 年（2013 年）は新患数 103 名で、前年比 40% 増でした。

内訳は、帯状疱疹後痛 48 例、三叉神経痛を含む顔面痛 10 例、舌口腔内の痛み 3 例、頸椎症 7 例、腰椎症を含む腰下肢痛 17 例、胸壁痛 5 例、心因性疼痛 5 例、線維筋痛症 4 例、手掌多汗症 1 例、心因性疼痛 4 例、その他となります。今年も帯状疱疹後の神経痛、頸椎症、線維筋痛症の増加が目立ちました。

治療方法としてトリガーポイント注射、硬膜外ブロック、星状神経節ブロック、キセノン光照射などの手技のほか、各種鎮痛薬、漢方薬などを併用しています。

近年、外来における神経ブロック（注射）が減少傾向ですが、疼痛管理のための内服薬の効能が向上しており、注射に頼らなくとも疼痛治療、管理が可能となってきています。

慢性の難治性疼痛に対する麻薬の貼付薬の処方が可能な数少ない診療科でもあります。

循環器内科

【スタッフ】

金子武生 部長 日本循環器学会認定循環器専門医
 辛島詠士 医長 日本循環器学会認定循環器専門医
 井川 敬 医長 日本循環器学会認定循環器専門医、一般内科兼任
 伊奈雄二郎 医長
 上田 仁 医師

【概要】

一般内科兼任の井川医師を含め5名体制で診療を行いました。心臓カテーテル検査の症例数はわずかに減少しましたが冠動脈、下肢血管とも治療数は増加しています。病院が敷地内禁煙となったのに伴い8月より当科が主となって禁煙外来を開始しました。

【診療実績】（平成25年1月～平成25年12月）

1日平均外来患者数は26.0名（前年+1.3名）、年間入院総数は560名（前年+34名）と外来患者数、入院総数ともわずかに増加しました。

心臓カテーテル検査（PCI含まず）	271件		
血管内超音波検査（IVUS）件数	10件		
冠動脈形成術（PCI）	118件	合併症	成功率
緊急PCI（AMIなど）	42件	（1例）	97%
待機PCI	76件	（なし）	93%
下肢血管造影（PTA含まず）	18件	合併症	成功率
下肢血管動脈形成術（PTA）	25件	（なし）	96%
ペースメーカー植込術 （心臓血管外科と共同）	計 25件		
	新規	20件	
	交換	5件	

【業績集】＜発表＞

開催月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2013.5.10	劇症型心筋炎に心破裂を合併し救命し得た一例	上田 仁	辛島 詠士、伊奈 雄二郎、井川 敬、金子 武生、植田 初江	第102回日本循環器学会 中国・四国合同地方会	サンポートホール高松
2013.11.16	薬剤性QT延長症候群の1例	鎗水 彰	辛島 詠士、倉光 正幸、上田 仁、伊奈 雄二郎、井川 敬、金子 武生	第303回日本内科学会九州地方会	ロワジールホテル那覇

【業績集】＜論文＞

論文・症例・原著等	著者	共同著者	雑誌名等
特発性心室細動とJ波	金子 武生	森 博愛、丸山 徹	J波症候群 35頁～42頁 2013 医学出版社

消化器内科

【スタッフ】

王寺 裕、具嶋正樹、松野雄一

※平成 25 年 3 月で小川和広、保利喜史が退職、同年 4 月より具嶋正樹、松野雄一が就任しました。

【概要】

消化管領域を中心に、腫瘍や炎症性腸疾患などの消化器疾患全般に関する診断・治療にあたっています。

胃癌に対する加療として胃粘膜下層剥離術（ESD）を導入しており、ガイドラインに沿った加療を行っています。内視鏡的大腸ポリープ切除の他、胃瘻造設や消化管出血・異物除去などの内視鏡的処置も実施しています。

また、潰瘍性大腸炎やクローン病に関しては、病状に応じて免疫調整剤や白血球除去療法、抗 TNF α 抗体製剤なども適宜併用し治療を行っています。

外科的加療の必要な消化器疾患については、当院外科と密に連携を取りながら適切な加療が円滑に行えるように心がけています。

（尚、肝疾患に関しては肝臓専門医が不在のため、専門的な処置・診療を必要とする場合は他院の専門医と連携し診療を行っています。）

【診療実績】（平成 25 年 1 月～ 12 月）

上部消化管内視鏡検査	2,807 件
大腸内視鏡検査	885 件
上部消化管内視鏡的粘膜切除術（EMR）・ポリープ切除術	8 件
上部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	19 件
下部消化管内視鏡的ポリープ切除・粘膜切除術	111 件

小児科

【スタッフ】

常勤医師：河野 祥二 東 良紘

非常勤：大賀 由紀（医師） 綿野 友美（医師）

永田 良隆（医師） 鮎川 淳子（臨床心理士）

【診療実績】

I 外来実績

(1) 外来総数

	延患者数	新患者数	紹介件数	1日平均	健診	定期予防接種	ヒブ/肺炎球菌 /子宮頸癌	おたふく風邪 /水痘	ロタウィルス /B型肝炎	
1月	507	95	32	26.7	16	45	27/18/3	10/5	14/17	
2月	553	94	26	29.1	23	41	24/23/1	4/4	9/20	
3月	720	133	43	36	36	49	25/25/2	3/3	17/33	
4月	620	138	47	29.5	22	115	H25.4.1より 定期予防接種へ	6/8	20/35	
5月	635	120	19	30.2	25	114		4/4	7/23	
6月	562	92	29	28.1	23	114		3/4	10/29	
7月	602	129	36	27.4	25	116		8/4	9/37	
8月	739	185	55	33.6	17	112		4/2	7/19	
9月	547	94	40	28.8	24	81		3/5	4/16	
10月	618	105	38	28.1	20	58		1/2	10/23	
11月	593	103	33	29.7	18	69		4/6	8/17	
12月	561	95	30	29.5	18	93		6/7	8/9	
合計	7,257	1,383	428	29.6	267	1,007		76/66/6	56/54	123/278

インフルエンザの予防接種：232

(2) 専門外来

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アレルギー外来 (永田医師)	116	118	178	152	107	106	124	144	87	85	101	89	1,407
小児心身症外来 (大賀医師)	123	170	181	72	70	89	58	95	74	76	73	74	1,155
小児神経外来 (綿野医師)	36	27	34	34	30	27	45	42	31	41	31	36	414

II 入院実績（入院疾患別分類）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
上気道炎		1	1			4	1	5	4	3		3	22
気管支炎	1	1	3	2	3	1		1	2	2		1	17
肺炎	2	1	3	6	1	1	2	1	5	3			25
インフルエンザ	4	4	1		1								10
アデノウイルス扁桃炎		1			1						1		3
RS ウイルス感染症	10	8	5					5	3	7	1	3	42
マイコプラズマ感染症				1							1		2
ロタウイルス胃腸炎		3	3	5	2	1							14
感染性胃腸炎	2		1	1	1		5	2	1	5	6	4	28
気管支喘息		1	1	3	3		2	3	12	4	5	1	35
喘息性気管支炎			5		1		1	1	4	2			14
食物アレルギー	1	1	4	4	1		3			1	1		16
熱性けいれん	1		1			2	1		2			1	8
未熟児新生児疾患		2	2	2	2	1	2	2	1	1	1		16
川崎病	1		1	2		1	2						7
無菌性髄膜炎								2	3				5
X連鎖無ガンマグロブリン血症	4	2	3	5	3	3	3	3	3	3	3	3	38
体重増加不良・低身長								2					2
小 計													304
その他：突発性発疹症 5 例、アトピー性皮膚炎・丹毒など 8 例、ITP2 例、クループ 4 例、水痘 4 例、壊死性リンパ節炎 2 例、フィッシャー症候群など 2 例、アナフィラキシー 3 例、肥厚性幽門狭窄症 1 例、アセトン血性嘔吐症 5 例、尿路感染症 7 例、けいれん発作・てんかん 8 例、急性虫垂炎・腸間膜リンパ節炎 5 例、嘔吐症・脱水症 5 例、成長ホルモン負荷・検査入院 4 例、腸重積 2 例、糖尿病 3 例、先天性胆道拡張症 1 例、周期性発熱 2 例、アレルギー性紫斑病 3 例、ネフローゼ症候群 1 例、敗血症 2 例、肺炎球菌性髄膜炎 1 例、白血病の疑い 1 例、神経疾患 5 例、呼吸器疾患 9 例、腎疾患 5 例、消化器疾患 4 例、その他の感染症 7 例、その他 5 例													116
合 計													420

【下関市イルカふれあい体験】

平成 15 年度より、自閉症児を対象に動物介在療法の一つである「イルカセラピー」を山口大学教育学部と海響館の協力を得て実施しています。

平成 25 年度は、新規の参加者は 2 名、年長児オプション 1 名、経験者（前年度までの参加者）27 名の計 30 名で、6 月から 9 月中旬にかけて実施しました。今年度も参加者全員が安全にセラピーを受けることができました。10 年以上継続してきましたが、新規の参加者が少なくなってきており、これからの計画を見直していく必要があるかもしれません。

【業績集】 <発表>

開催月日	演題名	演者	学会名	場所
H25.1.23	平成 24 年 1 年間に当科で経験した無菌性髄膜炎のウイルス検査結果	河野祥二	第 33 回下関小児疾患カンファレンス	下関市立市民病院
H25.5.8	頭部 MRI で脳梁膨大部病変を認めたロタウイルス脳症の 1 例	東 良紘	第 34 回下関小児疾患カンファレンス	下関市立市民病院
H25.6.8	一般演題 5 「日本脳炎・パルボ B19」	座長 河野祥二	第 54 回日本臨床ウイルス学会	倉敷市芸文館
	一般演題サマリーセッション「日本脳炎・パルボ B19」	河野祥二		
H25.6.9	最近 3 年間に山口県内でパラインフルエンザウイルスが検出された入院症例の臨床的検討	河野祥二		
H25.6.23	当科で治療中の X 連鎖無ガンマグロブリン血症の 3 例	河野祥二	第 122 回日本小児科学会山口地方会	ANA クラウンプラザホテル宇部
H25.7.17	感染経路が不明であった淋菌性膣炎の 3 歳女児例	東 良紘	第 35 回下関小児疾患カンファレンス	下関市立市民病院
	視診・触診・病原体検索が診断上重要であった 2 例	河野祥二		
H25.10.23	学校心電図検診で発見された心房中隔欠損症の 6 歳男児例	東 良紘	第 36 回下関小児疾患カンファレンス	下関市立市民病院
	偶然発見された肝胆道系疾患の 2 症例	河野祥二		
H25.12.1	「予防接種をされるすべての先生方へ」 — 今回の予防接種法改正の要点と 13 価肺炎球菌ワクチンへの切り替え —	河野祥二	平成 25 年度山口県医師会予防接種医研修会	山口県医師会 6 階会議室
H25.12.8	出産後 1 週間で風疹を発症した母児例について	東 良紘	第 123 回日本小児科学会山口地方会	山口大学医学部 第 3 講義室

外科

【概括】

地域のがん診療連携拠点病院として、集学的にがん治療に取り組んでいる。チーム医療体制が充実し、良好なチームワークや連携の基、患者さんに安全で安心な医療を提供している。化学療法、放射線治療、I V Rや内視鏡治療、感染対策、合併症対策、栄養管理、リハビリテーション、疼痛緩和、ストーマ管理、地域医療連携など、多数のチームが関与し、集学的がん治療を行っている。手術においては、進行癌に対してはエビデンスに基づいた根治切除を、同時に低侵襲な鏡視下手術を適応している。良性疾患では単孔式鏡視下手術を施行している。

●がんサーボード

診断から治療、術後のサポートまで、外科、内科、放射線科、理学療法科、化学療法チーム、緩和ケアチームが毎週集まり、個々の症例についてがんサーボードで検討している。早期より多数科による、治療戦略を討議している。

●外来化学療法チーム

外来化学療法症例のチームカンファを毎週行っている。有害事象の評価やレジメンを検討している。B型肝炎の再活性化予防なども厳しく管理している。

●緩和ケアチーム

症例カンファを通して、細やかな対応を行っている。また緩和ケアチームは、すべての病棟で、症状緩和の困難事例への介入や、精神的サポート、在宅や転院移行への援助等を行っている。

外来患者さん対象の緩和ケア外来も開設している。がん治療に携わる医師を対象とした厚生労働省認定の緩和ケア研修会や、各種研修会を実施している。

●乳腺カンファ

外科医師、病理医、エコー技師、レントゲン技師、化学療法認定看護師、看護師が定期的に集まり、エコー、マンモグラフィ、CT、MRI、病理診断を含む症例カンファを行い、チーム力を向上させている。

●ストーマ外来

院内、院外のおストメイトを対象に、治療、ケア、相談を受け付けている。皮膚排泄ケア認定看護師による細やかな対応が好評である。また、下関地域の医療従事者へのストーマ研修会を定期開催するなど、ストーマ管理に関する啓発活動を行っている。

【外科スタッフ（平成26年3月現在）】

篠原正博：外科部長（九州大学臨床・腫瘍外科 S55 年入局）

消化器、肝胆膵

日本外科学会 認定医、専門医

食道疾患手術担当

緩和ケア基本教育のための山口県指導医

下関市立市民病院緩和ケアチームリーダー

災害派遣医療チーム DMAT リーダー

日本がん治療認定医機構 認定医

マンモグラフィ検査精度管理中央委員会認定医

吉田順一：呼吸器外科部長（九州大学臨床・腫瘍外科 S56 年入局）

呼吸器・縦隔疾患 日本外科学会 認定医、指導医、専門医
 鏡視下手術担当 日本胸部外科学会 認定医
 呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸器外科専門医
 日本消化器外科学会 指導医、専門医
 日本がん治療認定医機構 認定医、暫定教育医
 日本臨床腫瘍学会 暫定指導医
 日本乳癌学会 認定医

石光寿幸：外科部長（九州大学臨床・腫瘍外科 S59 入局）

乳腺・内分泌疾患 日本外科学会 認定医、指導医、専門医
 消化器疾患 日本消化器外科学会 認定医、専門医
 鏡視下手術担当 日本がん治療認定医機構 認定医、暫定教育医
 マンモグラフィ検査精度管理中央委員会認定
 日本臨床腫瘍学会 暫定指導医
 日本乳癌学会 認定医

宮竹英志：外科医長（九州大学臨床・腫瘍外科 H10 年入局）

肝胆膵系内視鏡下処置・検査担当 日本外科学会 認定医、専門医
 鏡視下手術担当

鈴木宏往：外科医長（九州大学臨床・腫瘍外科 H12 年入局）

乳腺・内分泌疾患、消化器疾患 日本外科学会 認定医、専門医
 鏡視下手術担当

持留直希：外科医師（九州大学臨床・腫瘍外科 H22 年入局）

安藤陽平：外科医師（九州大学臨床・腫瘍外科 H24 年入局）

【業績集＜発表＞】

1. 外科学会発表

開催年月	演題名	演者		学会名	場所
2013.2.15	当院における肺多形癌 (Pleomorphic carcinoma) の手術成績	河野雄紀	大園慶吾、井上政昭、河田純、渡邊雄介、鈴木宏往、宮竹英志、中原千尋、石光寿幸、吉田順一、篠原正博	第 113 回北九州外科学研究会	北九州市
2013.5.24	小腸腫瘍による腸管閉塞の 1 例	持留直希		第 66 回下関消化器症例検討会	下関厚生病院大ホール
2013.7.19	緊急手術で救命しえた膵外傷の 2 例	河田純	篠原正博、大園慶吾、渡邊雄介、鈴木宏往、宮竹英志、中原千尋、石光寿幸	第 68 回日本消化器外科学会総会	サンホテルフェニックス 国際会議場 C

開催年月	演題名	演者	学会名	場所	
2013.8.23	鼠径ヘルニア嵌頓を契機に発見されたS状結腸癌の一例	持留直希	安藤陽平、武本淳吉、松田諒太、鈴木宏往、宮竹英志、中原千尋、井上政昭、石光寿幸、吉田順一、篠原正博	第114回北九州外科学会	北九州市立商工貿易会館
2013.8.30	ヘルニア嚢内の腫瘍 - S状結腸癌の1例	持留直希		第67回下関消化器症例検討会	下関市立市民病院2F講堂
2013.11.23	鼠径ヘルニア嵌頓を契機に発見されたS状結腸癌の1例	持留直希	石光寿幸、安藤陽平、松田諒太、鈴木宏往、宮竹英志、中原千尋、井上政昭、吉田順一、篠原正博	第75回日本臨床外科学会総会	名古屋国際会議場
2013.11.23	多発する肝病変に対して長期制御してきた類上皮性血管内皮腫の一例	安藤陽平	篠原正博、松田諒太、武本淳吉、持留直希、宮竹英志、鈴木宏往、井上政昭、石光寿幸、吉田順一、中原千尋		
2013.11.28 ~ 11.30	胆石性イレウスに対し単孔式腹腔鏡下イレウス解除術を施行した一例	武本淳吉	渡邊雄介、宮竹英志、中原千尋、石光寿幸	第26回日本内視鏡外科学会総会	福岡
2013.6.21	多発する肝病変に対して長期制御してきた類上皮性血管内皮腫の一例	安藤陽平	持留直希、宮竹英志、鈴木宏往、石光寿幸、篠原正博、井上政昭、吉田順一、松田諒太、中原千尋、武本淳吉	第2回下関肝胆膵カンファレンス	東京第一ホテル下関3階桜の間
2013.6.1	ADA高値の胸水を結核性胸膜炎として治療後、M.intracellulareによる肺非定型抗酸菌症が生じた1例	大神信道	大菌慶吾、井上政昭、吉田順一	第108回日本内科学会中国地方会	岡山コンベンションセンター
2013.12.7	術前分子標的薬が奏効した下大静脈腫瘍塞栓を伴う転移性腎細胞癌の1例	吉弘悟	有川誠、持留直希、石光寿幸、恩塚龍土、上野安孝	第95回日本泌尿器科学会山口地方会	霜仁会館

2. 呼吸器外科・救急科学会発表

開催年月	演題名	演者	学会名	場所
2013.4.11 ~ 4.13	外科系を含む集中治療室 (ICU) におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の積極的監視 (MRSA-AS) 10年間のクラスター解析	吉田順一	第113回日本外科学会定期学術集会	マリンメッセ福岡1階アリーナ
2013.5.9	経過観察された肺癌手術症例の検討	井上政昭	第30回日本呼吸器外科学会総会	名古屋国際会議場
2013.10.25 ~ 11.01	THE EXPRESSION OF ATBF1 IS INVERSELY PROPORTION TO THE EXPRESSION OF ESTROGEN RECEPTOR IN LUNG CANCER CELLS	井上政昭	LASLC 15th World Conference on Lung Cancer	Sydney Australia
2013.1.24	下関市立市民病院の救急について	中原千尋	木青医会例会	ひっぱりだこ

開催年月	演 題 名	演 者	学 会 名	場 所
2013.2.16	未成年の子供を持つ進行大腸癌患者を支える看護～アギュララとメズィックの危機理論を用いた看護実践～	上野妙子	第 27 回日本がん看護学会学術集会	石川県金沢市
2013.2.22	救急科における小腸疾患に対する単孔式腹腔鏡下手術の経験	渡邊雄介	Meet the Expert in SHIMONOSEKI ～腹腔鏡下手術の最前線～	海峡メッセ 下関
2013.3.1	食道癌術後の気管支食道瘻の 1 例	渡邊雄介	第 65 回下関消化器症例検討会	関門医療センター 3F 研修室 2

【業績集<論文>】

論文・症例・原著等	著 者	共同著者等	雑誌名等
食道裂孔ヘルニアに併発した特発性食道破裂の 1 例	渡邊雄介	宮竹英志、大藪慶吾、石光寿幸、篠原正博、中原千尋	日本臨床外科学会雑誌 74 巻 8 号 p2134-2138
患者ケアの拡充と地域の化学療法の一に向けて	篠原正博	平岡ひろ子、上野妙子	Oncology Epoch 23 巻 3 号 p8
上腸間膜動脈血栓症救命処置後に発症したコレステロール感染症による腸閉塞に対し単孔式腹腔鏡下手術を施行した 1 例	渡邊雄介	中原千尋、河田純、大藪慶吾、鈴木宏往、宮竹英志、井上政昭、石光寿幸、吉田順一、篠原正博	日本消化器外科学会雑誌 46 巻 10 号 p759-768
山口県の呼吸器・感染症の診療のために	吉田順一		山口県病院協会会報新年号 38 号 p5
集中治療室におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の積極的サーベイランスの有用性に関する検討	吉田順一	山下彰久、古垣浩一	日本外科感染症学会雑誌 10 巻 1 号 p59-65
院内感染対策 医療の質知る重要情報 病院の実力 山口編			讀賣新聞 (2013 年 6 月 2 日)
治療に伴う看護特集 がん患者の術後ドレーン・チューブ管理 肺がん手術	吉田順一	井上政昭、大藪慶吾	プロフェッショナル がん ナーシング 3 巻 4 号 p15-19
Association between ward-specific antimicrobial use density and methicillin-resistant Staphylococcus aureus surveillance:a 60-month study	Junichi Yoshida	Tetsuya Kikuchi, Nobuo Matsubara, Ikuko Asano, Nobumichi Ogami	Infection and Drug Resistance 6 号 p59-66
Pulmonary thromboembolism in lung surgery: use of unfractionated heparin	Junichi Yoshida	Masaki Inoue, Kouichi Furugaki, Mayumi Oyama and Keigo Ozono	Asian Cardiovascular & Thoracic Annals(電子版)

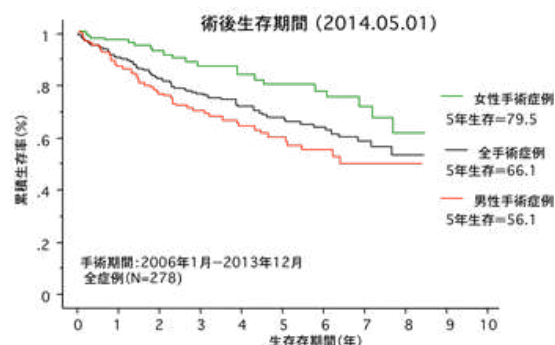
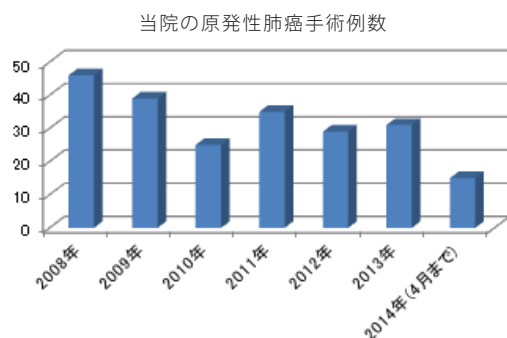
呼吸器外科

呼吸器外科では胸部悪性疾患（原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍等）、良性疾患（気胸、肺嚢胞症等）、感染性疾患の治療を行っています。これらの疾患の治療内容は、当科は外科ですので手術治療を行うことは言うまでもありませんが、手術治療のみでなく気管支鏡検査、CTガイド下生検などの特殊検査や悪性疾患の化学療法も行っています。このような検査や治療は内科が行う治療、または内科でしか出来ない治療と考えるかもしれませんが、呼吸器外科でそれらの検査や治療を行い多くの胸部疾患に対応しています。特に平成25年4月には呼吸器腫瘍センター、呼吸器・感染症センターを立ち上げました。呼吸器腫瘍センターではセンター長である井上医師を中心に胸部悪性疾患（原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍等）の集学的治療を行っています。呼吸器・感染症センターでは感染症専門医でもある吉田医師を中心に呼吸器感染症疾患から呼吸器以外の特異な感染性疾患まで幅広く疾患を対象に治療を行っています。当科の基本的治療方針は、“患者さまが受けたい治療施設となれるように、最良治療の提供”であり、患者さまに満足して頂くように全力で治療を行います。

今回は、当院での手術治療の現状を説明させていただきます。手術治療は殆どの症例で内視鏡（胸腔鏡）を使用して手術を行います。内視鏡手術は基本的に3cmの傷1カ所と1.5cmの傷2カ所で行います。内視鏡を使用するため手術中波、モニターを見て手術を行います。手術後の疼痛は軽く、殆どの患者さまが1週間以内に退院します。手術時に肋骨を切らず、最小限の組織しか切開しないため術後の回復は早く長期間の入院を必要としないからです。この内視鏡を使用した手術は、低侵襲であるため80歳以上の患者さまにも安全に行う事が出来ます。胸部悪性疾患を疑う患者さまがおられましたら、ご紹介頂きますようお願い致します。

【手術症例数】

	全手術症例数	胸腔鏡下手術症例数
原発性肺癌	31例	30例
転移性肺腫瘍	2例	2例
縦隔腫瘍	2例	0例
その他肺切除手術	3例	3例
気胸	8例	8例
膿胸	2例	0例
胸部外傷手術	2例	1例



脳神経外科

【スタッフ】

部長 中村 隆治 (2010.04 ~)

医師 尾中 貞夫 (2012.04 ~)、石橋 秀昭 (2012.04 ~ 2013.03)

【概要】

昨年と同様に外来は予定手術日の木曜日以外は行っています。木曜日でも可能であれば外来にも対応しております。昨年4月より、2人態勢となり急患などの対応で手薄になることもあります。急患にもできる限り対応しております。

脳神経外科での対象疾患は脳血管障害、脳腫瘍、外傷、機能的疾患、先天奇形等幅広く多岐に涉っております。最近では高齢者の物忘れを主訴とする受診が増えており、慢性硬膜下血腫や正常圧水頭症など手術適応症例であれば積極的に手術を行っております。

高齢化の波をうけて手術となる症例は減少傾向にあります。入院患者の多くは脳梗塞患者であり、そのうち半数以上が70歳以上で、t-PAの適応にもなりにくい年齢層が多い状況です。その中で、適応があれば頸動脈内膜剥離術や頸動脈ステント留置など行っております。脳腫瘍症例も転移性脳腫瘍が多く放射線治療、特にガンマナイフと組み合わせて、治療を行っております。

また、最近では脳卒中後の痙縮に対しても、ボトックスやバクロフェンなどの使用によりADL改善につなげたいと考えております。

● 2013年(2013.1月～12月)

1. 入院症例 約300例

2. 手術症例 81例

(内訳) 脳腫瘍5例、脳動脈瘤クリッピング12例(破裂11例、未破裂1例)、
脳動脈瘤コイル塞栓術2例、脳動静脈奇形摘出術1例、血腫除去術8例、
STA-MCA吻合術2例、内頸動脈血栓内膜剥離術1例、慢性硬膜下血腫33例、
水頭症(脳室腹腔シャント術等)7例

【学術業績】

業績集<発表>

開催年月	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2013.4.07	De novo aneurysmが疑われた1手術症例	尾中貞夫	中村隆治	第75回日本脳神経外科学会中国四国支部学術集会	海峡メッセ 下関10F
2013.10.23	True P-com. Aneurysmの1手術症例	中村隆治	尾中貞夫	第198回北九州神経放射線カンファレンス	明治安田生命 北九州ビル 6階

心臓血管外科

1. スタッフ

上野安孝部長、恩塚龍士医長、森重翔二医師

2. 診療概要

心臓血管外科では、主として成人の心臓疾患（虚血性心臓病、弁膜症、先天性心臓病、重症心不全、不整脈など）や大血管疾患（胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、腹部大動脈瘤など）の手術を中心とした診療を行っています。狭心症に対する冠動脈バイパス術では、身体への負担が少なく、合併症も少ないとされている人工心肺を用いない心拍動下冠動脈バイパス術を第一選択として行っています。また、バイパスグラフトは長期開存率に優れた動脈グラフトを可能な限り用いています。腹部大動脈瘤に対しては、人工血管置換術またはステントグラフト内挿術を患者さんの病態に応じて選択し、施行しています。

心臓血管外科では心・大血管疾患のみならず、末梢血管病にも対応しています。末梢血管病（閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞症など）に対する血行再建術（バイパス手術や経皮的血管形成術）や保存的治療を行っています。また、下肢の静脈疾患にも対応しています。下肢の静脈瘤に対する治療は、その病態に応じて抜去、切除術（2泊3日の入院を必要とします）、日帰り外来手術での高位結紮術、あるいは硬化療法を行っています。最近では再発や症状改善度の面から、硬化療法のみ行う症例は減少傾向にあります。

心臓大血管病は慢性に進行する疾患のほかに、突然病態が悪化し緊急手術が必要となる疾患（手術が必要な急性冠症候群、動脈瘤破裂や急性大動脈瘤解離、急性動脈閉塞症など）がありますが、このような疾患に対しては積極的に緊急手術を行い、手術を受けられた方を救命し社会復帰ができるように努めています。

3. 平成 25 年の診療実績

心臓血管外科の平成 25 年度(平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月)の、外来患者延数は 3,083 人、初診 328 人、紹介率 79%、逆紹介率 142% でした。入院延数は 4,421 人・日、平均在院日数 21.3 日でした。

心臓血管外科における平成 25 年（平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日）の手術実績は次の通りであり、総手術件数は 315 件でした。

A. 心臓大血管手術

開心術症例数（人工心肺症例＋人工心肺非使用冠動脈バイパス症例）は 53 例でした。術後 30 日以内の死亡を 1 例認めました。冠動脈バイパス術は両側内胸動脈と右胃大網動脈を用いた心拍動下手術（Off pump CABG）を標準術式としており、17 例に行って安定した成績が得られました。弁膜症手術は 24 例でした。高齢の大動脈弁狭窄症例が 14 例と増加の傾向を認めます。胸部大動脈手術は 12 例（急性大動脈解離 5 例）でした。大動脈解離の緊急手術症例は全例救命できました。

B. 腹部大動脈瘤

腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術は 16 例に行いました。ステントグラフトによる治療を 2 例に行いました。

C. 末梢動脈手術

大動脈閉塞に対するバイパス術及び下肢動脈閉塞に対するバイパス術を 25 症例に施行し良好な結果を得ました。緊急の血栓除去術を 2 例に施行しました。また、その他の末梢血管手術を 4 例に施行しました。経皮的血管形成術を循環器内科に依頼し、25 例に行いました。

D. 下肢静脈疾患

下肢静脈瘤ストリッピングまたは静脈瘤切除術を 60 例に行ないました。また、外来手術にて高位結紮術または静脈瘤切除術を併せて 21 例に行いました。

<心臓手術>

冠動脈バイパス術	17 例（体外循環を用いない冠動脈バイパス術 16 例）
弁膜症手術	24 例 大動脈弁置換 14（+三尖弁形成 2、+冠動脈バイパス 2） 大動脈弁置換+僧帽弁形成 3（+三尖弁輪形成 1、+冠動脈バイパス 1） 僧帽弁形成 3（+冠動脈バイパス 1）、僧帽弁置換 3（+三尖弁輪形成 1） 二弁置換 1、心房細動根治術併施 2
先天性心疾患	0 例
経静脈的ペースメーカー植え込み術	1 例

<大血管手術>

上行弓部大動脈置換術	4 例（A 型大動脈解離、大動脈弁置換併施 1）
大動脈基部置換+上行弓部置換術	2 例（A 型大動脈解離）
弓部大動脈置換術	2 例（真性弓部大動脈瘤）
下行大動脈置換術	4 例（真性胸部大動脈瘤 3、慢性解離性大動脈瘤 1）
腹部大動脈置換術	16 例（破裂症例 1）
腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術	2 例

<末梢血管手術>

腋窩 - 両大腿動脈バイパス術	3 例
下肢動脈バイパス術	24 例
血栓内膜剥離術・血管形成術	2 例
血栓除去術	2 例
内シャント造設術（人工血管）	3 例
下肢静脈瘤ストリッピング手術	60 例
下肢静脈瘤高位結紮術	21 例
腋窩静脈 - 右心房バイパス術	1 例

4. 平成 25 年度の業績

<学会・研究会>

開催月日	演題名	演者	学会名	場所
H26.7.26	「左房・右房交通症を合併した乾癬性心内膜炎の一手術例」	恩塚龍土、上野安孝、森重翔二	第 46 回日本胸部外科学会九州 地方会総会	福岡市
	「成人 Ebstein 奇形に対し三尖弁置換術を施行した一例」	森重翔二、恩塚龍土、上野安孝		

<座長>

開催月日	演題名	演者	学会名	場所
H24.7.26	「弁膜症 3」	(座長) 上野安孝	第 46 回日本胸部外科学会九州 地方会総会	福岡市

小児外科

【スタッフ】

部長 住友 健三（日本小児外科学会専門医・評議員、日本外科学会指導医・専門医）
医師 武本 淳吉

【外来患者数】（平成 25 年 1 月～平成 25 年 12 月）

新患：56 名、再来：135 名 計 191 名

【入院症例】（平成 25 年 1 月～平成 25 年 12 月）

男：24 名、女：9 名 計 33 名

舌小帯短縮症	1	急性虫垂炎	7
臍ヘルニア	1	鼠径ヘルニア	8
包茎	1	停留精巣	10
陰囊・精索水腫	2	良性腫瘍	2
その他	1	計	33

【業績＜発表＞】

開催月日	演題名	演者	学会名
H25.5.30 ～ 6.1	食道アカラシアに対し腹腔鏡下 Heller-Dor 法を施行した一例	武本淳吉、家入里志、住友健三、 河野祥二、大賀由紀、田口智章	日本小児外科学会 (東京)

整形外科

【スタッフ（専門、認定）】

部長 白澤建蔵（脊椎脊髄疾患・関節疾患、日本整形外科学会専門医・脊椎内視鏡下手術技術認定医・脊椎脊髄病医・リウマチ医・スポーツ医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医、日本リウマチ財団リウマチ医）

山下彰久医長（関節・脊椎疾患、日本整形外科学会専門医・脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医）

原田 岳医師（リウマチ・関節疾患）、渡邊哲也医師、上森知彦医師、富永冬樹医師、伊東孝浩医師、岡 和一郎医師の 8 名が勤務した。

【治療現況】

骨折脱臼等の骨関節の救急外傷の治療、脊椎脊髄疾患の外科的治療、変形性関節症及び関節リウマチの薬物及び外科治療、小児の整形外科疾患等を主体に治療を行っている。なかでも脊椎脊髄疾患では、椎間板ヘルニアに対する内視鏡を使用した内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術や腰椎変性疾患（腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症、腰椎変性後弯症いわゆる腰曲がり）に対する instrumentation surgery（特に最近は経皮的椎弓根スクリューによる小侵襲手術を始めた）、思春期特発性脊柱側弯症に対する側弯症手術、骨粗鬆性脊椎圧迫骨折に対する椎体形成術や BKP（バルーンカイフォプラスティ）、頚椎変性疾患（頚椎症、頚椎椎間板ヘルニア）に対する椎弓形成術、透析やリウマチに伴う頚椎病変（環軸椎脱臼、軸椎下垂脱臼）の手術、脳性麻痺に伴う頚髄症手術、脊髄腫瘍や転移性脊椎腫瘍の手術等多岐にわたる実績を持っている。又、関節疾患では変形性関節症やリウマチに対する人工関節手術が多く特に人工膝関節は県内でも有数の症例数を誇っている。骨切り術、スポーツ外傷やリウマチ、膝変性疾患に対する関節鏡手術（膝半月板手術、膝前十字靭帯再建術、滑膜切除術）等幅広く行っている。

【業績集】 <論文>

論文・症例・原著等	著者	共同著者等	雑誌名等
大腿骨転子部骨折における術後 subtype(生田分類)に関する検討	小藺直哉		整形外科と災害外科 2014 年度 63 巻 181-186
先天性腰椎すべり症の 1 例	小藺直哉		整形外科と災害外科 2014 年度 63 巻 87-90
【予防投与抗菌薬】整形外科領域における予防投与抗菌薬 脊椎外科を中心に	山下彰久	吉田順一	日本外科感染症学会雑誌 2014 年度 11 巻 35-42
脊柱後彎変形に対する Pedicle Subtraction Osteotomy の当院での手術成績	石原康平		Journal of Spine Research 2013 年度 4 巻 950-955
脊椎手術の透視時間に関する検討 四肢外傷との比較	宇都宮 健		整形外科と災害外科 2013 年度 62 巻 751-755
Three-dimensional analyses of proximal humeral fractures using computed tomography with multiplanar reconstruction: early stability of fixation after osteosynthesis in relation to preoperative bone quality.	K. Ueda		Eur J Orthop Surg Traumatol. 2013 Sep.

【業績集】 <発表>

開催月日	演題名	演者	学会名	場所
H25.12.14	強直性脊椎骨増殖症 (ASH) による後弯変形に対して脊柱矯正骨切り術を行った一例	白澤建蔵	第 32 回福岡脊椎外科フォーラム	福岡市
	SAI screw を用いた脊柱後方再建手術	富永冬樹		
H25.11.9	高齢者における頸椎頸髄損傷の検討	上森知彦	第 126 回西日本整形災害外科学会	宇部市
	大腿骨転子部骨折術後の免荷の必要性に関する検討	伊東孝浩		
	頸胸椎化膿性脊椎炎で麻痺が急速に進行した症例の検討	岡 和一郎		
	軸椎歯突起後方偽腫瘍に対して手術療法を施行した 5 例	富永冬樹		
H25.6.8	大腿骨頸部骨折骨接合術後に生じた大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折と考えられる症例の発生頻度に関する検討	池村 聡	第 125 回西日本整形災害外科学会	久留米市
	当科における上腕骨近位端骨折骨接合術後の短期成績	上田幸輝		
	当院における骨脆弱性骨盤骨折の検討	宇都宮健		
	当科における MIST の実際 被爆に関する検討	宇都宮健		
	当科における MIST の実際 経皮的椎弓根スクリューの問題点	山下彰久		
	大腿骨転子部骨折における術後 subtype(生田分類)に関する検討	小藺直哉		
	先天性腰椎すべり症の 1 例	小藺直哉		
	胸腰椎骨粗鬆症性椎体骨折に対する BKP の限界を探る 脊柱矢状面バランスとの関連 強直性脊椎骨増殖症 (ASH) による後弯変形に対して脊柱矯正骨切り術を行った一例 SAI screw を用いた脊柱後方再建手術	山下彰久		

【業績集】（研修会主催）

開催年月日	演目	会長	演者	学会名
H25.12.19	頚椎胸椎外科領域における診断・治療の最近の進歩	白澤建蔵	筑波大学整形外科教授 山崎正志	しものせき脊椎カンファレンス（下関グランドホテル）

【整形外科手術実績】

外傷	頚部骨折	143
	骨折 / 脱臼	202
	その他	38
人工関節		156
関節形成		26
鏡視下手術		53
関節外科その他		0
脊椎		279
骨軟部腫瘍		1
神経		20
その他		121
計		1,039

リハビリテーション科

【スタッフ】

医師	山下彰久			
理学療法士	安部裕美子	宮野清孝	道祖悟史 (H.25.8 まで)	
	長谷知枝	水野博彰	鐘井光明	小林健治
	内田景子	池田高超	高菅寛之	白幡雄大
作業療法士	銭本公子	大谷紘子		
助手	山瀬陽加			

【基本方針】

当科においては、急性期のリハビリテーションの役割機能を担い、主として発症まもない患者さまを対象とし、リハビリテーションを実施する。また、入院患者さまを主対象とし、退院後の治療継続が必要な患者さまの外来でのリハビリを実施する。

重点診療方針として以下の3つをあげる。

- ・早期リハビリの充実・促進
- ・患者さまの満足度向上
- ・チーム医療の充実

【施設基準】

- ・運動器疾患リハビリテーションⅠ・Ⅱ
- ・脳血管疾患等リハビリテーションⅡ
- ・脳血管疾患等（廃用）リハビリテーションⅡ
- ・呼吸器疾患リハビリテーションⅠ
- ・心大血管疾患リハビリテーションⅠ
- ・がん患者リハビリテーション

【概要】

本年度は、理学療法士を1名、作業療法士を1名増員し、理学療法士11名、作業療法士2名、助手1名の体制となった。当院の基本方針・当科の重点診療方針に基づき、様々な疾患や外傷に伴って発生した障害をもつ患者さまに対して、発症早期または手術後早期より積極的にリハビリテーションを実施した。特に、脳血管疾患の患者さまに対しては、作業療法士が1名増員されたことにより、介入時間を増加することができ、上肢機能練習、ADL練習の充実が図れた。また、整形外科・心臓血管外科・呼吸器外科の患者さまに対しては、術前から介入し、2次的障害の予防、術後機能の向上、患者さまへの動機付けや信頼関係の構築に効果があったと考える。

チーム医療を推進していく中で、医師・看護師等との連携・協働は不可欠であり、日常的なコミュニケーションを十分とるように心がけた。リハビリカンファレンスは、各病棟で実施し、情報の共有、目標・方針を確認し、獲得できた能力を生活場面でも最大限に活かせるよう取り組んだ。

当院は、がん診療連携拠点病院であり、がん患者さまの治療に積極的に取り組んでいる。その治療の過程において、リハビリテーションの役割は重要で、周術期の合併症や廃用の予防、また QOL（生活の質）の維持向上を目標に積極的にかかわってきた。がん患者さまには、多種多様なニーズが存在し、それに応えるためには、より高い専門性と多職種との協働が必要である。今後も予防から終末期までの様々な病期におけるがん患者さまに対するリハビリテーションに、常に広い視野をもって、関わっていただけるよう取り組みたい。

近年の高齢化に伴い、リハビリテーション処方数は増加傾向にあり、スタッフを増員しているにもかかわらず、まだ十分な介入時間が取れない状況であり、今後の課題の一つといえる。限られた入院期間でのリハビリテーションの質と量を充実させ、患者さまの日常生活能力を最大限に改善し、可能な限り早期の社会復帰、家庭復帰を支援したいと考えている。また、患者さまが、住みなれた地域で生活していただけるよう、他の医療機関、施設等との連携を図り、更に地域住民を含めた総合的な支援体制作りを図っていききたい。

今後は、これまでのリハビリテーション医療の質を保ちながら、急性期病院が担う予防としてのリハビリテーションにも積極的に関わっていききたい。

【2013 年度治療実績】（2013. 4～2014. 3）

*リハビリテーション実施延べ単位数

（▼：マイナス、*：前年の実績なし）

	外 来	前年比 (%)	入 院	前年比 (%)	合 計	前年比 (%)
リハビリテーション	5,229	14.2	43,070	13.5	48,299	13.6
運動器疾患	5,160	13	24,318	1.4	29,478	3.3
脳血管疾患等	53	253	7,525	137.5	7,578	138.1
脳血管疾患等（廃用）	16	*	4,459	▼7.7	4,475	▼7.3
呼吸器疾患	0	*	2,150	41.7	2,150	41.7
心大血管疾患	0	*	3,286	28.4	3,286	28.4
がん患者	0	*	1,332	▼29.7	1,332	▼29.7

*各療法別実施延べ単位数

（▼：マイナス、*：前年の実績なし）

	理学療法	前年比 (%)	作業療法	前年比 (%)
合 計	41,386	▼2.7	6,913	45.7
運動器疾患	26,491	▼7.2	2,987	57.4
脳血管疾患等	3,728	17.1	3,850	114.7
脳血管疾患等（廃用）	4,475	▼7.4	0	*
呼吸器疾患	2,092	37.9	58	*
心大血管疾患	3,268	27.7	18	*
がん患者	1,332	▼29.7	0	*

*リハビリテーション処方数 (▼:マイナス)

疾患別名	処方数(件)	前年比(%)	疾患別名	処方数(件)	前年比(%)
運動器疾患	1,155	11.1	呼吸器疾患	136	40.2
脳血管疾患等	231	14.4	心大血管疾患	223	36.8
廃用症候群	278	▼11.7	がん疾患	91	▼8.1
			合計	2,114	7.5

*退院患者数と自宅復帰率 (▼:マイナス)

疾患別名	退院患者数(人)	前年比(%)	自宅復帰率(%)	前年比(%)
運動器疾患	1,195	9.6	56	▼7.1
脳血管疾患等	234	15.8	31	▼1.9
廃用症候群	279	▼11.4	48	▼8.4
呼吸器疾患	144	48.5	59	33.6
心大血管疾患	225	38.0	76	9.6
がん疾患	82	▼17.2	52	▼29.7
合計	2,159	9.8	53	7.0

*日常生活自立度の改善状況 (BI 値の変化)

	リハビリ介入時	⇒	退院・転院時
大腿骨頸部骨折	12.5	⇒	37.7
脳血管疾患	31.3	⇒	55.6
廃用症候群	31.9	⇒	54.9
呼吸器疾患	30.2	⇒	48.1
心大血管疾患	35.3	⇒	71.9
がん患者	30.9	⇒	73.6

【座長】

開催年月	演題名	座長	学会名
2013.10	「医療の質 ～リハビリ部門～」	宮野清孝	日本医療マネジメント学会第12回九州・山口連合大会(下関市)
2013.10	特別講演「サルコペニアの病態生理～リハビリテーションを栄養の視点から考える～」	宮野清孝	第29回山口県リハビリテーション研究会(宇部市)

【社会貢献活動】

- 2013.6 中四国知的障害者バレーボール大会
山口県男子チームトレーナー帯同 宮野清孝
- 2013.8 全国高等学校野球選手権山口大会
サポートスタッフ 水野博彰・鐘井光明・高菅寛之
- 2013.10 下関海響マラソン大会
サポートスタッフ 安部裕美子・宮野清孝・内田景子・水野博彰
鐘井光明・池田高超・白幡雄大
- 2013.11 第15回全日本ブロック選抜車椅子バスケットボール選手権大会
選抜チームマネージャー 大谷紘子

皮膚科

(平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月)

平成元年 4 月から皮膚科専門医である内田が一人で担当している。
研修医 1 名が 3 カ月研修。

【外来】

患者数 9,400 人、新患数 1,673 人

外来手術 33 件 基底細胞がん 2 例 扁平上皮がん 1 例

皮膚生検 26 件 コレステロール塞栓 1 例

まだに症 31 例 日本紅班熱 1 例

【入院】

- ・ 帯状疱疹 9 例
- ・ 細菌感染症 10 例
- ・ 熱傷 3 例
- ・ 乾癬 1 例

泌尿器科

【概要・診療】

泌尿器科は、日本泌尿器科学会専門医教育施設としての認定を受け、医師2名（吉弘悟；日本泌尿器科学会専門医・指導医、岸弓景(2013年6月まで)；同専門医・指導医、有川誠(2013年7月より)；同専門医・指導医）で診療を行った。外来は、二診は再診予約のみの二診体制である。

【手術】

2013年も悪性腫瘍に対する手術が大多数を占め、手術件数は83件と例年より若干減少し、TUR-Pの減少が目立った。

今年度の特徴として、進行腎癌2例の手術を経験した。1例は下大静脈腫瘍塞栓を有し、術前に分子標的薬による治療を行い、安全に摘出可能であった。もう1例は脾転移を有し、いずれも外科・心臓血管外科（1例目）との合同手術であった。またPSA監視療法の影響で根治的前立腺全摘術は9例と例年より減少した。比較的稀な精索捻転症を1例経験したが、発症より24時間以上経過しており摘出せざるをえなかった。ESWL（体外衝撃波結石破碎）機器の撤去以来、尿路結石関連の手術が減少していたが、今年度は下部尿管結石に対して3例のTUL（経尿道的尿管結石破碎）が行われた。間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張術を1例に行った。

【手術実績】（総数：83件）2013年1月～12月

主な手術	件数	主な手術	件数
TURP（経尿道的前立腺切除）	7	腎尿管全摘術	3
TURBT（経尿道的膀胱腫瘍切除）	3	精索捻転手術	1
腎悪性腫瘍手術	3	TUL（経尿道的尿管結石破碎）	3
腎部分切除術	2	精巣摘除術	2
根治的前立腺全摘術	9	尿道狭窄内視鏡手術	5
膀胱全摘術	4	膀胱水圧拡張術	1
膀胱部分切除術	1	その他	1

【検査】

前立腺生検は50件と例年よりやや減少し、35例（70%）が前立腺癌であり、発見率は例年より高かった。8例がGleason score 6以下でPSA監視療法となった。

【検査実績】2013年1月～12月

主な検査	件数	主な検査	件数
膀胱ファイバー	249	前立腺生検	50

【業績集<論文>】 2013年1月～12月

論文・症例・原著等	著者	共同著者等	雑誌名等
Can docetaxel therapy improve overall survival from primary therapy compared with androgen-deprivation therapy alone in Japanese patients with castration-resistant prostate cancer? A multi-institutional cooperative study	Tomoyuki Shimabukuro	Shigeru Sakano, Kenji matsuda, Satoru Yoshihiro et al.	International Journal of Clinical Oncology 18巻62-67頁(2013) Japan Society of Clinical Oncology
Risk group stratification based on preoperative factors to predict survival after nephroureterectomy in patients with upper urinary tract urothelial carcinoma	Shigeru Sakano	Hideyasu Matsuyama, Yoriaki Kamiryo, Satoru Yoshihiro et al.	Annals of Surgical Oncology 20巻4389-4396頁(2013) Society of Surgical Oncology

【業績集<発表>】 2013年1月～12月

開催月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
12.7	術前分子標的薬が奏効した下大静脈腫瘍塞栓を伴う転移性腎細胞癌の1例	吉弘 悟	有川 誠 持留直希 石光寿幸 恩塚龍士 上野安孝 長尾一公	第95回日本泌尿器科学会 山口地方会	山口大学医学部 霜仁会館

産婦人科

【スタッフ】

副院長：前田博敬 九州大学卒（昭和 54 年）

産婦人科部長：川崎憲欣 熊本大学卒（昭和 56 年）

【診療の概要】

全国的な産婦人科医不足のため、数多くの病院で産婦人科医療、とくに周産期医療からの撤退が社会問題となっています。今年度は常勤医師 2 人体制、産婦人科医療の高度性や緊急性に安全に対応することに限界を感じています。一方、九大産婦人科教室からは非常勤医師を派遣いただき感謝しています。

診療実績は数字で表わせる手術統計および分娩統計を下記に示しています。

手術に関しては総数 87 例（良性疾患 76 例、悪性疾患 11 例）、子宮頸部上皮内腫瘍が増加しています。分娩に関しては分娩総数 115 例でやや減少、帝王切開率 25%、早産率 2.6%、周産期死亡率 0%でした。

【手術統計】（平成 25 年 4 月～ 26 年 3 月）

○良性疾患…手術総数 76 例

子宮全摘術（同時に行った付属器摘除術も含む）	腹式	11	子宮外妊娠の手術	0
	腔式	2	胞状奇胎の手術	1
性器脱の手術	腔式子宮全摘術＋腔形成術	1	帝王切開術	29
	腔閉鎖術	0	子宮切開術	0
子宮筋腫核出術		2	頸管無力症の手術	0
子宮筋腫の動脈塞栓術		0	人工妊娠中絶術	0
付属器切除術・卵巣腫瘍摘出術		3	子宮内容除去術（流産手術）	9
腹腔鏡補助下卵巣腫瘍摘出術		11	子宮内膜ポリープ切除術	0
卵巣出血止血術		1	腹壁癒痕ヘルニア手術	0
卵管結紮術		1	後腹膜腫瘍摘出術	0
外陰部・腔腫瘍切除術		2	卵巣動脈塞栓術（動脈瘤破裂）	1
バルトリン腺の手術		0	腹壁腫瘍摘出術	1
			腔内異物除去術	1

○悪性疾患…手術総数 11 例

子宮頸癌（上皮内腫瘍を含む）	準広汎子宮全摘術	0
	単純子宮全摘術（腹式・腔式）	2
	円錐切除術＋部位別搔爬術	8
子宮体癌（子宮肉腫・子宮内膜増殖症を含む）	子宮全摘・付属器切除・骨盤リンパ節・傍大動脈リンパ節郭清	1
	子宮内膜全面搔爬術	0
悪性卵巣腫瘍（卵管癌・腹膜癌を含む）	子宮全摘・付属器切除・虫垂切除・大網切除・骨盤リンパ節郭清・傍大動脈リンパ節郭清	0
	化学療法後の上記手術	0
	試験開腹・生検	0

※化学療法…1 名、放射線療法…1 名

【分娩統計】（平成 25 年 4 月～ 26 年 3 月）

○分娩総数…115 例（単胎 115、双胎 0）

経膈分娩	86 例	単胎頭位 自然分娩	34
		誘導分娩	47
		吸引分娩	5
		単胎骨盤位経膈分娩（死産例）	0
		多胎経膈分娩	0
帝王切開分娩	29 例	胎児機能不全	0
		CPD・回旋異常・遷延分娩	11
		既往帝切あるいは子宮切開	13
		常位胎盤早期剥離	0
		骨盤位	4
		前置胎盤	0
		糖尿病合併	0
		その他（コンジローマ）	1

緊急搬送	母体搬送	1
	新生児搬送	0
	母体搬送受け入れ	0
妊娠帰結週数	28 週未満	0
	28 週～ 36 週	3
	37 週～ 41 週	112
	42 週以降	0
新生児体重	499g 以下	0
	500g ～ 999g	0
	1000g ～ 1499g	0
	1500g ～ 2499g	7
	2500g ～ 3999g	108
	4000g 以上	0

死産…0

早期新生児死亡…0

形態異常 …0

羊水穿刺…0

眼科

【概要】

平成 25 年度は眼科専門医である科長 登根慎治郎の 1 名が、視能訓練士 河野清美、看護師の橋本裕子、原田香織の協力を得て診療を行った。医師は九州大学眼科の所属。

【診療】

外来は月曜から金曜日の午前中毎日で眼科全般の診療を行っている。

月・水・金曜日の午後は手術前の検査と説明、網膜光凝固術、蛍光眼底検査、視野検査、眼球運動検査や眼鏡合わせなどの特殊で時間のかかる検査や治療、外来小手術を行っている。

眼瞼痙攣に対するボトックス[®]治療、加齢性黄斑変性、網膜静脈分枝閉塞症の黄斑浮腫、網膜中心静脈閉塞症の黄斑浮腫、近視性黄斑変性、糖尿病網膜症の黄斑浮腫に対する VEGF 阻害薬であるアイリーア[®]、ルセンティス[®]硝子体内注射治療なども行っている。

火・木曜日の午後は白内障手術、硝子体手術、外眼部手術など眼科手術一般を行っている。白内障手術総数は 372 症例であり、硝子体関連の手術は 16 症例であった。

【手術症例内訳】（平成 25 年 1 月～ 12 月）

白内障	372 症例
硝子体内注射	42 症例
網膜硝子体関連手術	16 症例
緑内障	2 例
外眼部手術	19 例

【業績集<論文>】

論文・症例・原著等	著者	共同著者等	雑誌名等
「長期間にわたり、寛解増悪を繰り返した原発性眼内悪性リンパ腫の 1 例」	登根慎治郎	吉川洋、有田量一、川野庸一、上野暁史、重藤真理子、後藤浩、石橋達朗	J 眼科臨床紀要 第 5 巻第 4 号

耳鼻咽喉科

【スタッフ】

平成 25 年度は、平 俊明部長と佐藤方宣医師の常勤医 2 名体制の診療でした。

【スケジュール】

月曜から金曜の毎日、午前中は外来の通常診療を行いました。手術日は火曜、水曜、金曜の午後でした。手術日以外の午後は、外来での小手術など予約診療を行いました。

【診療実績】

手術名	件数	手術名	件数
扁桃摘出術・アデノイド切除術	47例	耳下腺摘出術	5例
鼓膜チューブ留置術	34例	顎下腺摘出手術	2例
内視鏡下副鼻腔手術	19例	鼻甲介切除術	2例
ラリngoマイクロサージャリー	18例	深頸部膿瘍切開術	2例
鼓室形成術	13例	鼻腔腫瘍摘出術	2例
気管切開術	12例	鼻中隔矯正術	2例
リンパ節摘出術	10例	その他	13例
乳突洞削開術	8例		
鼓膜形成術	7例	合計	196例

注) その他は 1 例のみの手術。外来手術は含まず

【月別入院患者数】

	延数	入院	退院
4月	246	27	23
5月	231	20	23
6月	169	20	19
7月	278	31	30
8月	394	32	29
9月	333	26	25
10月	338	25	30
11月	290	23	20
12月	292	25	33
1月	220	24	16
2月	382	28	25
3月	279	13	23
合計	3,452	294	296

【月別外来患者数】

	延数	新患
4月	6 4 7	1 0 5
5月	6 2 4	1 1 8
6月	5 8 0	1 0 0
7月	5 6 1	1 2 6
8月	5 6 0	1 1 6
9月	5 3 0	9 6
10月	5 6 0	1 0 7
11月	5 4 1	1 0 4
12月	5 8 4	1 0 4
1月	5 2 6	1 0 1
2月	5 5 6	1 2 1
3月	6 1 4	1 2 2
合 計	6, 8 8 3	1, 3 2 0

今年度は外来入院患者数ともに昨年度と大きな変化はありませんでした。これからも地域医療の中核病院として、より質の高い医療を目指して努力してまいりたいと思います。

放射線診断科

【スタッフ】

瀬戸 明香 日本医学放射線学会放射線診断専門医

山砥 茂也 日本医学放射線学会放射線診断専門医

【診療】

放射線診断科は、単純X線写真、CT、MRI、RIの画像診断を主に行っています。

各種の検査装置から作成された画像データを、サーバーを経由して画像読影システムで読影・診断しています。読影・診断結果は、報告書の形で電子カルテ上に掲載され、各診療科担当医に報告されます。また、病診連携を介して、院外からの画像診断の紹介も受け付けています。

現在の医療では画像診断は重要な位置にあり、正確で、迅速な読影を心がけています。主に放射線診断専門医2名により読影され、大部分は検査当日のうちに診断レポートが確定されます。

また、X線を用いた血管内治療（インターベンショナルラジオロジー：IVR）も行っています。主に動脈内にカテーテルを挿入し、血管撮影装置のX線透視下に、目的の臓器・血管まで誘導し、治療を行います。対象疾患は、肝臓癌などの悪性腫瘍、臓器・消化管出血、外傷性出血、動脈血栓塞栓症など多岐にわたります。緊急検査のことも多く、夜間・休日でも対応しています。

毎週火・木曜午前に外来診療を行い、院外からの画像診断紹介や院内のIVR紹介に対応しています。

【H25年1月～12月の画像診断レポート・IVR件数】

CT（2台：64列、16列）：12,936件

MRI（1台1.5T）：4,557件

RI：304件

単純写真：4,103件

IVR：36件

外来紹介件数：院外 133件、院内 26件

放射線治療科

放射線治療：

日本医学放射線学会専門医による質の高い放射線治療を行っています。各種悪性腫瘍への根治治療、症状・疼痛緩和目的の対症療法を行っています。

平成 20 年 7 月より Varian 社製 CLINAC iX による診療を開始し、定位放射線治療をはじめとした、より精密・正確・高度な放射線治療が可能になりました。

また、平成 21 年 4 月より、医師・診療放射線技師（注 1）・看護師とも女性スタッフによる診療を開始しました。放射線治療は、肌を露出して診察・セッティング・治療を行うことが多いため、女性患者さんにご好評をいただいています。

（注 1）診療放射線技師は、女性 2 名、男性 2 名でのローテーション勤務のため、毎日女性放射線技師が担当するものではありません。男性放射線技師が担当する日もあります。

【放射線治療専任スタッフ】

役職名	氏名	卒業年次	所属学会・資格
医師	有賀美佐子	平成 6 年	放射線治療専門医 日本医学放射線学会会員 日本放射線腫瘍学会会員
看護師	廣田知子	平成 6 年	
診療放射線技師	三隅美津枝	昭和 52 年	第 1 種放射線取扱主任者
	森田浩正	昭和 62 年	
	森本健治	平成 1 年	
	菊池友紀	平成 21 年	

【平成 25 年放射線治療数】（平成 25 年 1 月 1 日～ 12 月 31 日）

部位別照射総数：191 例			
脳・脊髄	3	生殖器・婦人科系	2
頭頸部	14	泌尿器・男性性器	20
食道	24	造血器・リンパ系腫瘍	8
肺癌・気管・縦隔	56	皮膚・骨・軟部腫瘍	34
乳房・胸壁	18	その他（悪性腫瘍）	0
肝・胆・膵	4	良性疾患	0
胃・小腸・結腸・直腸	8	15 才以下の小児	0

*うち定位放射線治療：1、他院よりの紹介：40

【業績集（発表）】

開催年月日	演題名	演者	学会名	場所
2013.9.18	骨転移の疼痛緩和剤ストロンチウム 89 について知ろう！	柳澤浩氏 （日本メジフィジックス腫瘍製品企画部学術担当）	平成 25 年度 放射線治療研修会	下関市立 市民病院

麻酔科

【スタッフ】

兒嶋四郎 坂 康雄 平田孝夫 赤田哲也 長畑佐和子

1. 概要

平成 25 年 3 月より赤田医師（麻酔科標榜医資格あり）が加わり、常勤麻酔科医師 4 名となりました。前年度に引き続き、長畑歯科医師（歯科麻酔専門医）が、週 3 日、指導のもと医科麻酔研修中です。また、九州歯科大学麻酔科から非常勤歯科医師 2 名（火曜：長谷川先生、木曜：山口先生）の応援をお願いし、医科麻酔研修を指導しています。院内からも、外科・整形外科医師の応援麻酔を適宜お願いしています。各先生方のご協力なくしては、手術部運営はうまく行きません。今後とも宜しくお願いいたします。

「患者一人ひとりに安全で優しい、安心できる麻酔の提供」を心掛ける、という科の目標のもとに、個々の症例に対し、それぞれの麻酔薬の特長をいかしながら、麻酔方法・周術期麻酔管理について検討しています。最近は、合併症の多い症例が増加し、周術期麻酔管理に苦勞しているのが現状です。

2. 活動内容：2013 年 1 月～ 12 月

麻酔科管理症例	1,817 例（前年 1,773 例）
（内訳） 全身麻酔	1,609 例（前年 1,520 例） ※硬膜外麻酔併用を含む
脊椎麻酔	204 例（前年 249 例）
脊麻＋硬膜外併用麻酔	2 例
その他	2 例（静脈麻酔）

この 1 年で麻酔科管理症例は 44 例増加しました。ここ最近 10 年でも最も多い数でした。緊急手術は 167 例（前年 188 例）でした。86 歳以上の高齢者は 171 例（前年 133 例）で大幅に増加しました。2 年前に比べると約 2 倍です。高齢者は合併症も多く、周術期管理は難しく、慎重な麻酔管理が求められます。なお、90 歳以上症例は 57 例で、整形外科 42 例（うち大腿骨骨折手術が 34 例：すべて全身麻酔管理）でした。高齢者の転倒予防対策も大切です。

手術侵襲の大きい開頭・肺疾患・心臓大血管手術症例は、あわせて 168 例（前年 157 例）。本院麻酔科の特長でもある完全静脈麻酔 TIVA による全身麻酔は、今回 90%（約 92%）を初めて超えました。

教育・指導面では、スーパーローテートの浮池医師・倉光医師・鎗水医師を、それぞれ 2 ヶ月間研修指導しました。また、11 月～ 12 月には山本（優）救急救命士（豊浦西消防署）の挿管実習 30 例を指導しました。

救急センター（救急外来）

平成 24 年 4 月に赴任し 3 年目となります。

私を含む外科医 2 名が救急科として勤務しており、外傷を含む重症患者を受け入れ診療し、その症状と診断によって各科に入院加療をお願いするようなシステムをとっています。もちろん内科的疾患も診療ししかるべき専門へお願いする体制をとっています。

従来通り、救急センターは上記の 2 名の常勤医の他に 11 名の看護師と 1 名の医療クラークで構成されております。平日日中は師長を含め 3 名～4 名の看護師が勤務しています。非 2 次救急当番日は準夜 1 名（当直外来看護師 1 名合わせて 2 名）、深夜 1 名（当直看護師 1 名と合わせて 2 名）で夜間外来を担当しています。これが当番日には準夜 2 名と当直看護師 2 名の計 4 名で、深夜は 1 名＋2 名の計 3 名で対応しています。当番日は、ほぼ総動員で診療に当たっています。

救急科の医師ですが、前述のように外科医 2 名が勤務しています。それに加え、他科の医師の有志の数人が、時間があるときは救急外来を覗いてくれまして、そのおかげで救急患者の対応時に一緒に診察してくれることが多く、いろいろ助けてもらっています。これにより我々も専門外である分野で勉強することになり、診療能力の向上という副産物様の恩恵を受けています。また、専門である消化器系ですが、周囲の開業の先生方から紹介していただく数も徐々に増えてきており、感謝しております。吐下血の患者はもちろんのこと、消化管精査を含め、急に診察や精査の依頼したいときは救急外来の方にご連絡ください。

一昨年から、紹介していただく先生方になるべく直接お話を聞きお引き受けする体制をとっています。お手数と思われる先生もいらっしゃると思いますが、これは患者の受け入れを選別するという意味でなく、紹介医である先生方がなぜ紹介されているのか、どんな部分を心配されているのかを直接お話しすることで理解することが大事だと考えたからです。赴任して初めの頃は、間接的に話を聞いて紹介先の先生の意図が伝わらないことがありました。また紹介状のみでは、こちらが診察する上で必要だと考える情報がわからないこともありました。電話のひと手間が、患者を受け入れる上でより効率的な診療につながると考えております。今後も紹介していただく先生方には手間をおかけしますが、何とぞご協力をお願いいたします。

平成 24 年 4 月からの救急患者数、救急車数、紹介率ですが、おかげさまで徐々に上がってきております。救急科としてもこれまで以上に救急対応してまいりますので、これまで一層救急科の方へのご紹介宜しくをお願いいたします。

救命センター (ICU,CCU)

病棟主任医 中原千尋

集中治療が必要な重篤な病態と判断された患者は、当院2階にある救命センターにて治療を行います。いわゆる集中治療室であり、当院では心疾患関連の集中治療室であるCCUの機能も併存しています。

2014年7月現在、病床数は10床で運営しています。

当院が2次疾患、および必要に応じ3次疾患に対応するためには救命センターの存在は不可欠で、当院の心肺といえる活躍をしている部署です。

平成24年の年間入室者数は753名で昨年735名と比べ約2.4%の増加となっています。また、1日入室者数平均は2.05人でこれも昨年の2.0人よりも増加しています。1年を通じほぼ満床に近い状態でフル稼働しており、これに伴い、集中治療を要さない重症な患者は一般病棟へ転棟という方針としており、病棟での人工呼吸器管理など病棟の管理能力強化を促す要因の一つとなっています。

持続血液ろ過器(CHDF)などはもちろん、経皮的心肺補助(PCPS)や大動脈内バルーンポンピング(IABP)なども導入しています。年間で数名の患者に対しPCPSを使用しその頻度は増加しています。心臓治療にPCPSが普通に治療選択肢となってきたことで、当院の特徴であった循環器内科・心臓血管外科の併存に加え、循環器疾患への治療技術は一層飛躍したものと考えます。循環器内科の心臓カテーテルによる血管内治療の数も増加しており、CCUとして活躍もしております。

我が下関市立市民病院は下関市の中枢に位置します。救命センターも益々の充実を果たしております。緊急で今すぐの処置、集中管理が必要だと判断されるときにはご連絡ください。

【平成 25 年度 ICU 統計】

	入室者数	入室者数／日	延入室者数	延入室者数／日	平均年齢
1月	55	1.8	239	7.7	67.6
2月	58	2.1	250	9	74.8
3月	71	2.3	277	8.9	72.6
4月	72	2.4	255	8.5	74
5月	75	2.2	286	9.2	74.6
6月	53	1.8	217	7.2	73.7
7月	62	2	235	7.6	73.2
8月	62	2	233	7.5	70
9月	60	1.9	213	7.1	68.1
10月	70	2.3	243	7.8	71.6
11月	77	2.6	267	8.9	72.6
12月	73	2.4	261	8.4	73.2

	平均在室数	死亡数	人工呼吸器 使用数	人工呼吸器 使用延数
1月	4.3	7	25	88
2月	4.3	2	20	81
3月	3.9	0	24	112
4月	3.5	3	18	67
5月	3.8	4	30	125
6月	4.1	6	20	120
7月	3.8	1	24	81
8月	3.8	2	24	88
9月	3.6	10	22	77
10月	3.5	9	27	124
11月	3.5	6	21	77
12月	3.6	3	21	70

病理診断科

【概要】

適切な治療の基礎に適切な診断があり、適切な診断の要となるのが病理診断である。日々高度化する臨床サイドの要求に応えるべく、臨床医との緊密な意思疎通を図り、新たな疾患分類に即応し、免疫染色等の付加的手法を積極的に導入しつつ、正確で迅速な病理診断に努めている。

免疫染色においては、全自動免疫染色装置が導入されており、染色の安定性・再現性が図られ、特に、乳線では、HER2、ER、PgR、MIB1(Ki-67)を、胃癌摘出例では、HER2免疫検査を、全例においてルーティン化して実施し、診断に大いに役立っている。

迅速標本作製においては、川本法を導入することで、脂肪を含む検体の薄切が格段に向上した。また、ギョタックを用いたリアルサイズでの病変マッピングがルーティンになされており、臨床側から評価されている。加えて、診断のスキルアップとしては、College of American Pathologistsの病理診断生涯教育プログラムに参加して診断レベルの向上に努めている。

2011年3月 院内に電子カルテが導入され、病理システム Dr.ヘルパーを採用（西日本旅客鉄道株式会社）の新規導入が図られたが、順調に稼動している。

ホルマリン対策としては、換気を見直し改良したことで、切り出し室のホルマリン濃度が軽減し、第1区域区分となった。

病理医 2名（1名は非常勤）

臨床検査技師 3名（1名は病理専属の細胞検査士、1名は午前中外来検査兼務、
1名は生化学検査兼務）

常勤病理医：安田大成＊1

非常勤病理医：谷村晃＊2

技師：川元博之＊3、佐々木真理＊4、山本美奈＊5

〔所属学会および資格〕

＊1	日本病理学会認定病理専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医
＊2	日本病理学会認定病理専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診指導医、日本病院病理学会、日本臨床病理学会
＊3	細胞検査士、日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会、日本乳癌学会、日本医療情報学会認定医療情報技師、特化物・四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者
＊4	細胞検査士、日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会、認定一般検査技師、山口県糖尿病療養指導士、特化物・四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者
＊5	日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会、特化物・四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者

【病理業務】（平成25年4月～平成26年3月）

組織診（生検、手術）	2429例	細胞診	2844例
術中迅速診断	148例	病理解剖	4例

歯科・歯科口腔外科

【スタッフ】

歯科部長：入学陽一

歯科医長：長畑佐和子（歯科麻酔専門医）

歯科医師：笹栗正明（口腔外科専門医）、宮本郁也（口腔外科指導医・専門医）、

兒玉正明（口腔外科専門医）、高橋理（口腔外科専修医）

喜多涼介（口腔外科専修医）、坂口修（口腔外科認定医）

歯科衛生士：奈須本理恵、浜崎朋美

歯科技工士：高林潤吏、須藤公啓

受付：岡田志津代

【概要】

常勤歯科医師 2 名、非常勤歯科医師（九州歯科大学口腔外科より応援）5 名（毎週月・水・金曜日）、歯科衛生士 2 名、歯科技工士 2 名、受付 1 名の計 12 名で、一般歯科と歯科口腔外科および周術期口腔ケアの診療を行っている。

下関市立市民病院として、また地域の 2 次医療機関として、その役割を果たせるように、他科との連携、充実した検査内容、入院治療など、総合病院ならではの特色を生かし、患者主体の診療を行っている。

【診療内容】

外来患者数 約 40 人 / 日、約 500 人 / 月、紹介 22 人 / 月、新患 150 人 / 月

＜内訳＞ 一般歯科：280 人 / 月

歯科口腔外科：120 人 / 月

周術期口腔ケア：100 人 / 月

外来手術 154 例 / 年

入院患者 57 件 / 年

全麻症例 21 例 / 年

周術期口腔管理 1200 例 / 年

- ・下顎埋伏歯智歯抜歯が 107 例と最も多い。外来での紹介抜歯が増加。
- ・今年是有病者（心疾患・糖尿病など）の入院下の抜歯が 14 例と微増。
- ・上顎および下顎骨髄炎が 14 例と多く、腐骨除去手術が微増。
- ・顎骨嚢胞摘出手術は 11 例と依然として多い。
- ・今年度は鎮静、静脈麻酔を併用し、2 例ほど 1 日入院にて抜歯を行った。
- ・広範囲にみられた下顎エナメル上皮腫の 1 例を九州歯科大学口腔外科に紹介。
- ・重度の口腔底頸部蜂窩織炎の症例が 3 例あり、耳鼻科に紹介、切開消炎術にて軽快した。
- ・周術期口腔ケアを整形外科の患者も行うようになり、患者及び収入が前年比 2 倍となった。

【活動報告】

北九州・下関病院歯科勤務医会理事 年4回会議出席

山口県、病院歯科協議会 年2回会議出席

日本病院歯科口腔外科協議会理事 年1回会議出席

下関看護学校講師

【入院手術症例】

埋伏歯抜歯	11例	下顎骨隆起形成術	4例
有病者の抜歯	14例	上顎洞根治術	2例
炎症・腐骨除去	11例	舌小帯形成手術（幼児）	1例
顎骨嚢胞摘出術	11例		
外傷（骨折など）	3例	合計	57例

【外来手術症例】

下顎埋伏智歯抜歯	96例	良性腫瘍摘出手術	6例
上顎埋伏智歯抜歯	17例	がま腫摘出術	3例
過剰埋伏歯抜歯	4例	上唇・舌小帯形成術	2例
歯根嚢胞摘出術	8例	顎骨内異物除去（アパタイト顆粒）	1例
歯根端切除手術	3例	歯の移植術	1例
下顎骨隆起形成術	7例		
腐骨除去手術	6例	合計	154

【H25年度周術期口腔機能管理患者数】（H25.4～H26.3）

	H25. 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26. 1月	2月	3月	合計
外科	28	27	27	40	36	32	44	43	56	43	46	41	463
心臓血管外科	6	5	5	7	11	8	9	6	9	8	13	14	101
整形外科	0	0	7	22	23	20	41	41	31	27	27	36	275
耳鼻咽喉科	1	1	1	10	20	13	13	9	11	10	19	8	116
泌尿器科	1	0	0	2	1	0	0	0	1	3	3	3	14
歯科	3	2	2	0	0	1	2	1	0	1	5	1	18
血液内科	2	1	1	1	2	1	0	1	2	1	1	2	15
放射線治療科	2	4	6	1	2	4	5	1	3	3	3	0	34
産婦人科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	43	40	49	84	95	79	114	102	113	96	117	105	1,037

【歯科技工物内訳】（H25.4～H26.3）

クラウン	70	メタルコア	117	義歯修理	89
インレー	62	仮歯	75	スプリント	7
前装冠	67	義歯新製	82	ブリッジ	52

看護部

【看護部の概要】

「地方独立行政法人下関市立市民病院」として2年目である平成25年度も、看護部は引き続き「変革」を目指し活動を行いました。

重点事業として、①業務改善「時間外勤務短縮」 ②院内看護教育の充実 ③患者サービスの充実（退院された患者さんへ、看護師からのメッセージを記入した葉書を送付） ④地域住民との関係強化（「市民の保健室」開催） ⑤看護職員の確保の5項目を挙げ、一年間取り組みました。

「業務改善」については、11月に発表会を行い、各部署の努力と成果を互いに認め合いながらも、今後の「継続すべき課題」として再認識することができました。「院内看護教育」については、平成24年度に全て変更したシステムの更なる充実に努めました。とりわけ、新採用者研修を毎月組み入れ実施したことは新採用者の成長に大きく繋がりました。

次に「退院患者さんへの葉書の送付」は、患者さんとの繋がりが今まで以上に強くなったように思われます。看護師からメッセージを送ることで終わるのではなく、逆に患者さんからも励ましやお礼のお言葉を頂き、看護する喜びを感じることが出来ました。「市民の保健室」では、悪天候の中、約80名の方の参加を頂き、好評を得ることができました。今後も様々な形で「地域」「地域住民」への貢献に努めなければならないと感じます。

最後に「看護職員の確保」ですが、平成25年度は17名の新採用者を迎えることができました。対外的な募集のみでなく、自らの組織の再構築を図り、「魅力ある職場」として職員確保に繋いで行きたいです。

以上の成果・課題を踏まえた上で、働きやすい環境作りをめざし、看護師ひとりひとりがやりがいをもち、患者さんへ「安心・安全の看護」を提供出来るよう努力したいと考えています。

【1. 看護部の理念と方針】

病院の基本理念に従い、心のこもった安全で質の高い看護を提供します。

- 1、患者様の立場に立ち、信頼される看護を提供いたします
- 1、安全で心の通った看護に努めます
- 1、常に自己研鑽し、組織の一員として経営に貢献いたします
- 1、職務に責任をもち、協調の姿勢で取り組みます

【2. 看護部の目標】

笑顔のある職場づくり

【3. 院内教育計画プラネット】

教育理念

高い倫理観と誇りのもと、患者中心の看護を展開でき、なおかつ他者（患者、職場の同僚）を思いやる「ハート」を兼ね添え、「ひとりひとりがやり甲斐を感じ輝く」看護師を育成する

教育目的

- ①患者中心の看護を展開するため、倫理、エビデンスに基づいた自律した専門職業人としての成長を図る
- ②患者のみならず、組織の仲間に対する「思いやり」を兼ね備えた「人」としての成長を図る
- ③一人一人が「やり甲斐」を持続するための自己研鑽を図る

当院教育システムの特徴

- ①クリニカル・ラダー制導入
 - ・教育システムを系統化
 - ・組織に於ける「自分の役割」を明確化
 - ・興味を持続化→「やり甲斐」を感じられる
- ②ポートフォリオ作成＝「自分の履歴書」
 - ・教育システム、役割、目標が明確化され身近になる
 - ・「いつでも」「過去・現在・未来の自分」と出会える
- ③年間計画
- ④ポイント制導入
 - ・「自分の努力」が可視化される
 - ・頑張った分、他者からも評価を受けることができる

□院内教育

- 教育委員会が1年間の教育計画を作成・企画・運営・評価する
- ・経年別研修（必須）
 - ラダー1－1は毎月研修
 - ・実践能力開発研修
 - ・その他、研修会など

□院外研修

- 認定看護師研修 ファーストレベル看護管理者研修
セカンドレベル看護管理者研修
日本看護協会主催研修
各学会

【4. 看護部が開催する会議】

名 称	目 的	構 成	開 催 日
師長会	・看護部の業務・教育等運営について協議、連絡調整及び伝達 ・看護の質の向上をはかる	看護部長 副看護部長 師長	第2・4月曜日 15:30～17:00
主任会議	・看護の知識を広く求めて、看護職員の指導・模範となるよう情報交換をして看護実践に取り組む ・CSと看護サービス評価を行う	看護部長 副看護部長 主任	第4水曜日 16:15～17:00
感染管理委員会	・院内の清潔を保持し、感染防止の徹底をはかる	師長 認定看護師 各部署1名	第1木曜日 16:00～17:00

名 称	目 的	構 成	開 催 日
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・下関市立市民病院に勤務する看護職員の教育を行い、専門職としての知識の向上を図る ・教育委員会、委員としてのあり方を再構築する ・教育ニードに沿って、教育の計画・運営をする 	師長 主任 各部署 1 名	第 2・4 金曜日 16:00～17:00
看護記録 検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・下関市立市民病院の看護記録等について検討・修正をし、看護の質の向上を図る 	同上	第 1・3 金曜日 16:00～17:00
業務改善 委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・下関市立市民病院の看護業務に関して調査研究をし、業務の改善・資質の向上を図る ・変化する医療に対応して、基準・手順の管理をする 	同上	第 2・4 木曜日 16:00～17:00
看護部 MRM 委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・看護部の理念である、安全で質の高い看護を保証するために、医療事故防止に努める ・再発防止のための事例検討・学習と防止策の策定・実践・評価を行う 	副看護部長 専従リスクマ ネージャー 各部署リスク マネージャー	第 2 水曜日 16:00～17:00
看護の日 企画委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・看護週間の行事を企画・実施する ・看護の P R をする「看護の心をみんなの心に」 	師長 各部署 1 名	第 2・4 火曜日 (前年 3 月～10 月に開催)

【5. コース別院外研修】

受講研修会名	受講者数	主 催
がん看護専門分野（指導者）講義研修	1 名	国立がん研修センター
がん患者の退院支援・在宅療養支援コース 緩和ケアコース	1 名	
がん看護領域認定看護師サポート研修	1 名	
平成 25 年度京都大学病院 がんチーム医療研修	1 名	京都大学病院がんセンター
平成 25 年度医療安全管理者養成研修	2 名	山口県看護協会
平成 25 年度災害派遣医療チーム研修	1 名	厚生労働省医政局指導課
平成 25 年度看護管理研修 看護管理研修	1 名 1 名	病院管理研究会 医療・病院管理研究協会
13 看護必要度評価者 院内指導者研修	5 名	山口県看護協会
第 24 回中国ストーリーマリハビリテーション講習会	1 名	中国ストーリーマリハビリテーション講習会
認定看護管理者ファーストレベル研修	5 名	西南女学院大学 山口県看護協会
認定看護管理者セカンドレベル研修	1 名	西南女学院大学
平成 25 年度山口県実習指導者養成講習会	2 名	山口県看護協会
平成 25 年度山口県糖尿病療養指導士講習会 4 回	1 名	山口県医師会
2013 年感染管理実践者研修 4 回	1 名	山口県立大学看護研修センター
下関地区感染防止対策研修会	29 名	山口県立大学看護研修センター
2013 年度感染対策セミナー	3 名	日本感染管理支援協会
第 6 回周術期セミナー	1 名	日本看護協会・日本手術看護学会
2013 年クリニカルパス教育セミナー	2 名	日本クリニカルパス学会
第 19 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会	1 名	日本摂食・嚥下リハビリテーション学会
日本集中医療学会学術集会	2 名	日本集中医療学会
看護研究支援部門研究指導	1 名	愛知医科大学看護実践研究セミナー

【6. 研修生・職場体験の受け入れ・院外活動】

実習受け入れ状況

- ・ウエストジャパン看護専門学校
- ・下関看護リハビリテーション学校
- ・下関看護専門学校

職場体験

- | | | | |
|---------------|----|------------------|----|
| ・山口県立下関中等教育学校 | 4名 | ・下関市立東部中学校 | 4名 |
| ・下関市立名陵中学校 | 4名 | ・下関市立山の田中学校 | 4名 |
| ・下関市立吉見中学校 | 2名 | ・山口県立宇部総合支援学校高等部 | 1名 |

市民の保健室 …下関市立市民病院

平成25年9月1日（日）10：00～12：00 参加者 約80名

- 健康相談・血圧・体脂肪測定・骨密度測定、血管年齢、肺年齢測定・お薬相談、病院食、災害食試食・健康体操、放射線部探検ツアー・正しい手洗い方法、乳癌模型触診体験・体圧測定、コンサート・バザー

院外活動“市民健康のつどい”に参加 …彦島保健センター

平成25年10月26日（土）13：00～15：00 参加者 40名

- 健康相談・血圧・体脂肪測定・肺年齢測定・栄養相談

行事救護班

- | | | | |
|-------------|----|--------------|----|
| 海峡祭り | 1名 | 第8回スポーツフェスタ | 2名 |
| 夏休み子供水道教室 | 1名 | 下関市小学校体育大会 | 2名 |
| しものせき海響マラソン | 3名 | 下関市人権フェスティバル | 1名 |
| 下関成人の日記念事業 | 1名 | | |

出前講座…4件（講師派遣人数 4名）

下関ツインズファミリー…「親と子のかかわり」：参加者10名

思春期保健相談士（看護師）1名

下関ファミリーサポートセンター…「親と子のかかわり」：参加者23名

思春期保健相談士（看護師）1名

下関市立本村小学校…「親と子のかかわり」：参加者50名

思春期保健相談士（看護師）1名

下関三井化学…「がんの予防について」：参加者42名

がん化学療法認定看護師 1名

下関未来大学…「食を楽しみながら健康づくり」（看護師1名）

向洋中学校1年生…職業講話（看護師1名）：参加者63名

【7. 学会発表】

開催月日	演題名	演者	学会名
H25.6.22	「透析室における災害対策」	透析センター 市川智春	全国透析医学会（福岡）
H25.7.27	「当院における透析室看護師の現状と役割」	透析センター 市川智春	第30回九州CAPD検討会（福岡）
H25.10.6	「子どもの保育環境を整え、安心して預けられる院内保育園をめざして」	小児科外来 福田直子	山口県小児保健研究会
H26.1.18	「上部消化管内視鏡検査の事前説明が及ぼす効果」	放射線科外来 平尾淳子	山口県看護協会 職場・業務改善発表・交流会
H26.2.8	「多職種で行う外来化学療法症例カンファレンスの現状と課題」	がん化学療法認定看護師 上野妙子	第28回日本がん看護学会学術集会
H26.2.14	「術後多発褥瘡を発症した患者の栄養改善を図り褥瘡治癒の補助となったと考えられる1例」	5階東病棟 兼安美保	第6回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会（岡山）
H26.2.15	「6施設合同調査からみた個人防護具の使用および手指衛生の実施状況」	感染管理認定看護師 浅野郁代	第29回日本環境感染学会総会・学術集会
H26.2.22	「継続指導によりストーマ装具交換が自律した高齢者の考察」	皮膚・排泄ケア認定看護師 藤重淳子	第31回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会

【8. 院内看護研究発表会】

日 時：平成25年6月19日（水）17時30分～19時

平成25年11月20日（水）17時30分～19時

場 所：講堂

方 式：学会方式（前期）、学会方式（後期）

講評者：福住師長・下口師長・松本師長（6月）

活水女子大学講師 竹末加奈（11月）

演題名	発表病棟	座長
3交替から2交替へ勤務形態の変化が子育て中看護師に与える影響	4階西病棟	杉原主任
上部消化管内視鏡検査の検査説明を事前自宅郵送して得られた効果	外来	磯部主任
家族看護に対する看護師の意識変容に関する研究	救命センター	坂本主任
<学会論文発表> 未成年の子供を持つ進行大腸癌患者を支える看護 ～アギュララとメズニックの危機理論を用いた看護実践～	認定看護師 上野妙子	
心臓血管外科全身麻酔手術患者への術前リハビリ導入の確立と効果	3階東病棟	西野主任
回腸導管術施行患者のオリエンテーションの構成要素の検討 ～手術を受けた患者の思いを分析して追求する～	4階東病棟	山中主任
外来維持透析患者に対する災害対策教育の効果	透析センター	津森主任
<推薦論文>：3年目看護研究 認知力が低下している患者の転倒防止対策に取り組む看護師の感情	5階西病棟 田口桂子	

【9. 病棟別疾患の特殊性】

病棟名	疾患名
6階東病棟	消化器内科疾患 血液内科疾患 内科一般
6階西病棟	休床
5階東病棟	消化器外科疾患 胸部外科疾患
5階西病棟	整形外科疾患 消化器外科疾患
4階東病棟	脳神経外科疾患 泌尿器科疾患 耳鼻咽喉科疾患
4階西病棟	整形外科疾患
3階東病棟	循環器疾患 心臓血管外科疾患 腎臓内科疾患
産科病棟	産科（分娩）婦人科疾患
小児棟	15才までの子供の疾患
1階東病棟	二類感染症・SARA など新感染症

※ 1階東病棟閉鎖中、可動時は出向メンバーが看護にあたる

【10. 各部署紹介】

○ 6階東病棟

<スタッフ>

師長 1名、主任看護師 2名、看護師 22名、准看護師 1名、看護助手 5名、クラーク 1名

<概要> 病床数 49床

（独立換気設備を備えた有料個室 3部屋・特定病床 2部屋・HCU 4床を含む）

呼吸器内科医師の退職に伴い、血液内科を主体とした内科系混合病棟になっています。簡易ではありますがクリーン・ルームを稼働させ、白血病や悪性リンパ腫の化学療法を行っております。感染予防に留意し安全に治療が受けられるよう看護に取り組みました。また、呼吸器内科の医師が不在ではありますが、時々入院される呼吸器疾患の患者さまにもこれまでの経験を生かした看護を提供しています。その他、糖尿病の教育入院や腎不全教育入院、消化管病変の入院など多岐に渡る疾患に対応すべく努力を続けています。腎臓内科に関してはシリーズで勉強会を行い知識を深めていきました。日々進歩していく医療に遅れないよう、安心・安全な医療の提供に努めていきます。

< H25 年度症例件数 >

- ・クリーン・ルームの稼働 11回
- ・化学療法 224件
- ・人工呼吸器管理 4名
- ・NPPV 管理 3名
- ・PEG 造設 8名
- ・胃・食道 ESD 9名
- ・内シャント造設 5名
- ・シャント PTA 8名

○5階東病棟

<概要> 52床の病床数を持つ外科病棟です。

治療の中心は、がん治療。主に消化管、呼吸器、乳房の手術を中心にがん拠点病院の役割を担った病棟です。空床利用もあるため全科対象の混合病棟となっています。

看護の内容も大きく変わってきています。内視鏡の手術で術創は小さくなり、傷もドレッシング管理、患者さまのQOLを考えた『低侵襲手術』が普及しています。看護は手術前後のケア、化学療法ケア、がん疼痛ケア、終末期ケアと多岐にわたり、専門的知識を要求されています。化学療法認定看護師、緩和認定看護師を中心にケアの質の向上を目指しています。

病棟の名物は「朝のタッチコール」を行い、一般業務のスタッフの一言スピーチでその日の安全な業務 チームワーク 笑顔の意識づけを行っています

<平成25年1月1日～12月31日>

入院数：967人（男性586人 女性381人） 死亡数：47人
手術数：287人 化学療法（述べ人数）：614人
療養型転院 回復期病院への転院：80人

<主な研修 学会参加>

1. がん看護専門分野（指導者）講義研修
2. がん看護専門分野緩和コース講義研修
3. 山口県実習指導者養成講習会
4. 第51回日本がん治療学会学術集会
5. 中国四国ストーマリハビリテーション
6. 第6回リンパ浮腫の予防に対する患者教育・指導に資する看護師研修

○5階西病棟

<概要>

当病棟は、病床数54床（独立換気設備を伴う個室・有料個室、特定病床3床を含む）を有す、呼吸器系・消化器系・乳房など外科手術、又、一般整形外科（膝全置換・股関節全置換を省く）手術を対象とした外科・整形病棟です。高齢化に伴い転倒による骨折患者様が多く、寝たきりにならぬよう早期離床、早期リハビリを開始しています。認知症患者様も多く、転倒転落予防・行動観察に努め、また、清潔ケアにも留意し、看護しています。

<病棟の取り組み>

1. 看護研究発表
『認知力が低下している患者の転倒防止対策に取り組む看護師の感情』田口桂子
2. 消防訓練：5階西病棟給湯室より出火
3. 業務改善発表 『申し送りに頼らない職場風土づくり』
早くかえり隊：杉原志真、松本七美、高木 香、藤井美津
急性期病院の性質上、整形外科の患者さまは、回復期リハビリを目的とした転院調整に努めました。

<平成25年1月～12月>

全身麻酔術後患者数	380人	脊椎麻酔術後患者数	47人
その他（伝達・局所麻酔）術後患者数	89人	転院等の患者数	240人

（下関大腿骨地域連携パス使用）（39）

○4階東病棟

病棟医長：中村隆治、病棟師長：小戸美智子

<概要>

当病棟は、脳外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科を主とした51症の混合病棟です。平成25年1月～12月の平均在院日数は17.6日、病床利用率は82.6%でした。今年度に入り、病棟の改修工事が行われ、旧デイルームの後に術後管理用の部屋が4床でき、ICUや救急センターからの転入・入院もスムーズに受け入れられるようにしています。また、脳卒中地域連携パスの運用も開始となり、回復期病院との連携にも力を入れています。スタッフも2名の認定看護師に加え、来年度は新たに1名が認知症看護認定看護師を目指し、研修に行く予定です。また災害拠点病院としての役目を果たすべく、DMAT隊員として活躍するスタッフもいます。各自のスキルアップを目指しながら、病棟全体では患者さまから信頼される看護の提供に努力していきたいと思います。

<病棟の取り組み>

1. 院内看護研究発表（11月20日）

「回腸導管術施行患者のオリエンテーションの構成要素の検討～手術を受けた患者の思いを分析して追求する～」飯垣昌文、門野 泉、池田美子、和田恵子

2. 業務改善発表会（11月7日）「時間内に発表するために」高橋理恵

3. 認定看護管理者研修ファーストレベル受講（6月～11月、西南女学院）小戸美智子

4. D-MAT隊員養成研修修了（10月、兵庫）飯垣昌文

5. 地域医療勉強会企画・運営（6・11・1月）和田恵子、高橋理恵

6. 看護協会豊浦支部研修会にて講演（10月19日）

「グリーンケア・エンゼルケアについて」和田恵子

ほか、緩和医療学会（6月、横浜）、日本ホスピス年次大会（7月、東京）等へ参加

7. 山口県介護福祉士下関ブロック研修会・光陽園にて講演（9月）

「摂食嚥下の方への食事介助について～今よりもっとおいしく食べていただくために」高橋理恵

ほか、嚥下サポート研究会（6月、小倉）、口腔ケア学会（6月、九州大学）等へ参加

8. 日本クリニカルパス学会主催教育セミナー参加（7月、大阪）小戸美智子

○4階西病棟

当病棟は病床数53床を有し、主に脊椎系・関節外科系の整形外科周手術期病棟です。整形外科手術は、年間1000件近く、脊椎形手術279例、関節外科手術156例等、一日3例～4例の手術をみています。早期離床を病棟全体の目標とし、他職種ともチームを組みながら、安全・安楽・安心の医療サービスが提供できるように心がけております。

平成24年度から、試行的に開始されている二交代制も継続しており、スタッフのワークライフバランスも考慮しております。

○3 階東病棟

<概要>

当病棟は、52床（有料個室2床・特定病床2床・HCU4床を含む）、循環器・心臓血管外科・腎臓内科を主とした病棟です。また、複数科（内科・整形・外科・眼科・脳外科・泌尿器科）も受け入れ、24時間モニター監視を行い、急変の予見・回避に努め迅速な対応をしております。

平成25年度の看護目標を“患者・家族・看護師共に笑顔で対応、真心で信頼、そして根拠ある看護をしていきます”を掲げスタッフ全員で日々健闘してきました。高齢化は著明で、毎日、現疾患よりもせん妄・不穏・徘徊・転倒予防にと、看護にもとめられるものが多く、業務改善や、医師やコ・メディカルとのコミュニケーションに努めています。

今後も、患者さんが心身共に“こころ”が健やかに回復していけるように、研鑽と成長を継続していこうと思います。

<平成25年度 症例件数>

開心術：28例 F-F・F-P：25例 ストリッピング術[®]：84例
CAG：271例 PCI：118例 PMI：20例（T-PM18例）
下肢AG：18例 下肢PTA：25例 内シャント造設：13例
シャントPTA：27例 CAPD造設術：2例 PET：6例 白内障OP：13例
人工呼吸器管理：3例 ASV管理：32例
VAC管理：6例 ICU転入：198名

○小児病棟

<概要> 病床数21床（独立換気設備を伴う7室）

0歳～15歳までの小児を対象にし、全科の入院に対応しています。この年齢層は、心身の成長発達が著しいのが特徴です。各々の月齢・年齢に応じた対応、コミュニケーションをとりながら安全に考慮しつつ看護を行っています。治療や処置に対して、患児の頑張る力を引き出せるよう、プレパレーションツールを用いながらの援助に努めています。また、感染症疾患で入院されることが多く、疾患・症状によってはベッドチェンジを行い、適切に感染管理を行っています。

プレイルームなどの飾り付けは、スタッフの手作りでシーズン毎に新しい物を作成しています。12月に医療スタッフ主催のクリスマス会があり、毎年好評です。また、入院中に誕生日を迎える患児へバースディカードをプレゼントするなど、入院生活が苦痛に感じないように常にきめ細かい看護を心がけています。お子様の入院で、心痛されているご両親にも心配りをしています。

<基本方針>

- ・安全に考慮し、明るく笑顔で接します
- ・ご家族の方とのコミュニケーションを充分にとり、お互いに協力して、子どもたちの回復に尽くします。

<科別患者数>

小児科：414名 小児外科：39名 整形外科：29名 耳鼻科：35名
歯科：5名 脳外科：6名 眼科：10名 外科：5名 腎臓内科：2名
消化器内科：3名 血液内科：1名 皮膚科：1名 救急科：4名

○産科病棟

<概要>

産科病棟は20床を有する病棟です（有料個室3床含む）。少子高齢化の時代、患者層は産科のみではベットコントロールが困難であるため、婦人科、眼科、耳鼻科、整形外科等の女性患者を対象にケアを行なっています。女性患者対象にきめ細かい、患者さまの視点での看護を展開しています。また、分娩に関しては、母子お二人の命を守るため、異常の早期発見に努め、妊産・褥婦ケアの充実にも力を注いでいます。

平成25年(平成25年1月～12月)の総分娩件数は122件です。内訳は経膈分娩91件、帝王切開術31件です。有料個室は3床あり、利用される患者さまが増えています。

助産師8名、看護師6名、計15名と少人数ですが、日々頑張っています。

<取り組み>

『安心の優しい母子ケアを』…産科的な取り組みとしては、母乳外来の他に助産師保健指導、両親学級や母親学級、産後一週間健診などをスタッフが丸ごと一丸となって取り組んでいます。核家族化で人間関係が希薄している中、常に相談しやすい環境づくりや安心した母子看護が提供できるように今後も取り組んでいきたいと思っております。

<科別患者数(平成25年1月～12月)>

産科：162名　婦人科：23名　整形外科：104名　眼科：79名
小児科：16名　消化器内科：8名　耳鼻科：10名　外科：5名
腎臓内科：11名　歯科：11名　救急科：9名　内科：5名
呼吸器外科：1名　心臓血管外科：5名　循環器内科：3名　血液内科：1名
泌尿器科：2名　脳神経外科：2名

○透析センター

<概要>

当センターでは、腎不全をはじめとする幅広い血液浄化を行っております。血液透析を月曜日～土曜日まで全て2クール行っておりますが、夜間透析は行っておりません。透析のベッドは20床で、腎臓内科の医師は年々充足し副院長を含め6名、看護師9名、臨床工学技士3名で治療に当たっております。また、他施設からの紹介も柔軟に対応しております。最近では、シャントPTAも多数行っております。そしてCAPD(腹膜透析)外来も充実し、月2回午後より診察日を実施し手技の確認や腹部(出口部)の診察、自己管理ノートチェック等を行っております。年々高齢化が深刻であり指導に関しても個々に合わせた指導が重要です。また、長期透析に対する不安の除去や安全な医療サービスの向上に力を入れております。そして、スタッフの知識の向上を図るために、日本透析学会や近隣施設における研修・勉強会などにも積極的に参加しております。

○手術室

<理念>『安心』『安全』『ハートフル』

<概要>手術室 6室、血管造影室 2室、術前診察室 1室

(人員構成) 看護師長 1名、主任 2名、スタッフ 16名、委託業務者数名

(勤務体制) 日勤 土・日・祝祭日は2名の8時間オンコール対応

※血管造影室は土・日・祝祭日の救急当番日のみオンコール対応

全ての手術患者が安全な治療を受けられるよう、質の高い医療・看護の提供を心がけています。また、手術室のみならず血管造影室にも携わり、多岐にわたる業務を行っています。麻酔科医・臨床工学技師・放射線技師や他部門のスタッフ・中央材料室・委託業者など医療従事者以外の職種とも連携をとり、チーム医療を実践している部門です。

<平成 25 年 1 月～ 12 月 手術件数>

外 科	408	泌尿器科	80	麻酔科	0
整形外科	1028	耳鼻咽喉科	127	小児外科	32
心臓血管外科	194	眼 科	521	皮膚科	1
脳神経外科	77	歯 科	18	合 計	2,609
産婦人科	75	内 科	48		

<平成 24 年 1 月～ 12 月 血管造影室件数>

心臓カテーテル検査・治療 IVC フィルター ペースメーカー植え込み他	469
下肢・腹腔アンギオ IVR CT下生検 内シャント PTA 気管支ステント他	207
ステントグラフト	2
脳アンギオ	20
合 計	698

手術・検査件数ともに年々増加傾向にあり、患者構成も高齢・重症複雑化しています。在院日数の短縮で、柔軟な対応・運用効率化が一層求められ、努力しています。今年度は、外科・整形外科にハイビジョン内視鏡機器が導入されました。内視鏡手術症例が主体となり、多様な知識・技術が求められ日々研鑽を重ねています。

○救命センター

病床数：8時30分から24時まで10床運用、0時から8時30分まで8床運用

病棟主任医：中原千尋

病棟師長：石田清子

救命センターは主任2名、スタッフ30名で2：1看護体制です。平成25年11月より変則的に10床運用を開始しました。夜勤帯は、準夜勤務者5名、深夜勤務者4名で業務に従事し、救急患者と侵襲の大きい術後患者を受け入れています。主治医は該当科の主治医制です。入退室基準に基づき医師や救急センター、連携室、また一般病棟の師長と連携を密にしてスムーズに入退室が行われるようにしています。

入室状況を昨年度と比較してみると、救急患者受け入れ体制の充実と共に救急患者の入室が増え、救急科の入院が増加しました。平成25年の年間入室者数は787人（前年753人）、平均在室日数3.6日、一日平均延べ入室者数8.1人、入室患者のうち人工呼吸をした患者が33%、血液浄化法を施行した患者は2.1%でした。

新たに人工呼吸器4台を購入、BIPAPマスクを導入し、日々進歩する医療技術に対応できるよう努力しています。

<平成25年ICU科別入室患者数>

(人)

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
脳神経外科	17	14	13	14	15	11	12	9	14	12	10	11	152
外科	12	6	17	26	26	14	18	12	13	18	18	13	193
循環器内科	10	13	12	10	5	6	6	13	10	9	8	13	115
心臓血管外科	8	10	11	8	7	6	8	8	5	9	9	10	99
内科（腎・消化器含む）	4	5	13	4	5	6	6	4	3	2	4	7	63
整形外科	1	3	1	5	9	6	9	8	9	12	16	12	91
救急科	3	6	2	3	7	2	1	4	3	3	8	5	47
泌尿器科		1	2	1	1	2	1	2	1	4	2	2	19
耳鼻科							1	1			1		3
歯科											1		1
産婦人科										1			1
皮膚科								1					1
小児科									1				1
麻酔科									1				1
計	55	58	71	71	75	53	62	62	60	70	77	73	787

放射線部

【概要】

平成 25 年度は 2 名の新卒女性技師が加わり、総勢 21 名のスタッフで「患者様に安心して受けていただける安全な画像検査」に取り組んできました。

医療機器の安全管理として、始業・終業点検の見直しと方法の再確認を行いました。その情報をスタッフ全員で共有することによって患者さまに安全な画像検査を提供することができるようになりました。また、女性技師が新卒者を含めて 5 名となり検査室の環境美化の向上、和気あいあいとした明るい職場環境に変わり、良いチーム医療を実現することができています。乳房撮影は女性技師が全て対応できるようになり、放射線治療もできるだけ女性技師が係わるようにしています。患者さまの不安が少しでも和らぐよう皆で取り組んでいます。

さらに、今年度は当院放射線部が臨床実習施設として適切であるとのことから、鈴鹿医療科学大学から臨床実習生を 2 ヶ月間受入れました。改めて技師全員が初心に戻り画像検査の基礎から臨床応用、将来の展望まで勉強することにより実習生には充実した臨床実習期間を過ごしてもらうことができました。この経験が放射線部全員の学習及び労働意識の向上に連動したことを実感できています。

【主な放射線機器装置】 ☆は平成 25 年度導入・更新機器

一般撮影装置	3	泌尿器・婦人科専用 X 線 T V 装置 (DR)	1
FPD 一体型撮影装置	1	64MDCT 装置	1
乳房撮影装置	1	16MDCT 装置	1
パノラマ撮影装置	1	1.5 T MR 装置	1
骨密度測定装置	1	デジタルガンマカメラ装置	1
ポータブル撮影装置 ☆	4	バイプレーン血管撮影装置	1
CR システム	4	多目的血管造影装置 (IVR-CT)	1
FPD・カセット型パネル	3	ヘリカル C T 装置	1
外科用イメージ ☆	3	ライナック装置	1
X 線 T V 装置 (FPD)	2		

【関連学会などの認定資格所得など】

	人数		人数
第一種放射線取扱主任者	1	医療情報技師	1
第一種作業環境測定士	1	放射線機器管理士	2
消化器内視鏡技師	1	医療画像情報精度管理士	1
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	3		

【代表的な参加学会・研究会等】 *は役員有

日本放射線技術学会	山口 CT UPDATE セミナー
日本診療放射線技師会	21 世紀山口核医学セミナー
* 山口県診療放射線技師会	* 山口乳腺画像研究会
* 山口 MR 撮影技術研究会	* 山口 IVR 懇話会
山口放射線治療研究会	* 下関乳腺画像診断カンファランス
山口核医学技術検討会	* CSFRT2013
CT テクノロジーセミナー	九州循環器撮影技術研究会
山口 MRI UPDATE	

【検査数】

項 目		件数	合計
一般撮影	一般撮影	37,088	44,959
	病棟撮影	6,020	
	手術室撮影	1,851	
CT 検査	単純	9,782	13,156
	造影	3,365	
MR 検査	単純	4,053	4,516
	造影	463	
透視下内視鏡検査	消化器系	56	286
	気管支系	96	
	ERCP 関係	132	
	その他	2	
DR 検査	上部消化管	697	1,448
	下部消化管	98	
	肝・胆・膵	39	
	泌尿器系	205	
	脊椎骨関係	308	
	その他	101	
核医学検査	脳神経系	22	298
	循環器系	57	
	全身検索系	203	
	その他	16	
血管造影検査	診断他	515	779
	IVR	264	
放射線治療			155
⁸⁹ Sr 治療			2

検査部

【概要】

検査部は、検査部長1名、臨床検査技師29名で構成され、内2名が臨床工学技士で医療器材部兼務となっている。職場は、建物の構造上、外来検査室（一般検査、血液検査、血液管理センター）、生理検査室、免疫血清・生化学検査室、細菌検査室、病理検査室の5部門に分かれている。

当院は、地域拠点また地域がん診療連携拠点病院としての責務を担い、24時間救急体制に伴う日当直による迅速検査業務を実施している。日常検査は、正確なデータを臨床側に提供することを常に念頭におき、検査項目の見直しにも心掛けている。また検査の効率化を図る目的で、機器および検査内容の検討を引き続き行った。

生理部門において、心臓・腹部・体表などほとんどのルーチンでの超音波検査は、技師が行っている。

当直時における検査では、ノロウイルス、レジオネラ、肺炎球菌の迅速検査に加えて、マイコプラズマ抗原検査を実施することとした。また、心電図も技師が行っている。

2011年3月から病院の電子カルテ導入に伴い、検体検査部門システム（富士通社製、HOPE/LAINS-GX）を一新し、大きなトラブルなく、順調に稼働している。また、輸血システム（バイオ・ラッド）、生理検査システム（富士通）、細菌システム（シスメックス）、病理システム（JR西日本）が接続されているが、これらも順調に稼働している。

今年度の新規購入として、超音波装置を更新した。

院内活動では、輸血療法委員会、電子カルテ運用委員会、感染管理委員会、リスクマネジメント部会など多くの委員会、また院内講演、学習支援活動等へ参加し、チーム医療の一員としての活動に努めている。糖尿病教室で、1コマ担当し、検査の意義について講義している。検査部内の勉強会として、不定期ながら実施し、スキルアップを図った。資格として、今年度山口県糖尿病指導士を新たに取得した。院外活動としては、臨床検査技師会、専門学会をはじめ、多くの研修会、勉強会などに積極的に参加し、能力の向上に努力している。

【スタッフ資格取得状況】

資格名	人数	認定団体
認定輸血検査技師	2	日本輸血学会
細胞検査士（国際細胞検査士）	2	日本細胞学会
超音波検査士（腹部領域）	2	日本超音波学会
超音波検査士（体表領域）	2	日本超音波学会
認定一般検査技師	1	日本臨床衛生検査技師会
毒物劇物取扱者	2	厚生労働省
特化物・四アルキル鉛等作業主任者	3	厚生労働省
有機溶剤作業主任者	3	厚生労働省
山口県糖尿病療養指導士	1	山口県医師会
医療情報技師	1	医療情報学会

【検査実績】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	前年比
一般検査														
便検査	169	335	331	391	391	391	391	383	361	312	312	168	3,863	116.5%
尿検査	2,356	2,395	2,227	2,798	2,255	2,580	2,896	2,327	2,896	2,614	2,307	2,365	29,918	107.4%
穿刺液・採取液	29	26	21	29	29	19	27	24	40	39	27	36	346	92.0%
小計	2,554	2,756	2,579	3,218	3,218	2,593	2,998	2,734	3,297	2,965	2,646	2,569	34,127	108.1%
血液学検査														
血液形態 / 機能	4,882	5,186	4,927	5,478	5,478	4,789	5,160	4,726	5,383	5,346	4,801	5,076	61,232	105.3%
出血凝固検査	1,286	1,294	1,152	1,302	1,302	1,200	1,244	1,206	1,294	1,408	1,259	1,297	15,244	105.3%
小計	6,168	6,480	6,079	6,780	6,780	5,989	6,404	5,932	6,677	6,754	6,060	6,373	76,476	105.3%
生化学検査														
生化学	5,682	6,067	5,833	6,421	5,945	5,657	6,185	5,669	6,539	6,364	5,675	5,906	71,943	105.2%
血液ガス分析	479	590	506	570	509	449	581	493	595	637	568	526	6,503	134.2%
尿生化学	425	441	364	467	499	431	468	427	548	572	501	449	5,592	157.3%
小計	6,586	7,098	6,703	7,458	6,953	6,537	7,234	6,589	7,682	7,573	6,744	6,881	84,038	109.4%
血清学検査														
血清検査	4,805	5,104	4,849	5,428	5,428	4,768	5,148	4,751	5,373	5,417	4,829	5,071	60,971	261.1%
血中薬物検査	45	48	35	54	54	55	59	57	80	65	62	63	677	126.8%
小計	4,850	5,152	4,884	5,482	5,482	4,823	5,207	4,808	5,453	5,482	4,891	5,134	61,648	258.1%
輸血関連検査														
血液型検査	239	279	339	325	314	278	295	293	286	342	289	271	3,550	101.1%
不規則性抗体	169	193	228	213	202	183	180	197	193	238	203	229	2,428	107.8%
直接クームス試験	5	2	6	3	3	7	3	6	3	1	1	3	43	134.4%
交差試験	113	143	134	183	119	123	133	156	181	205	176	205	1,871	114.2%
小計	526	617	707	724	638	591	611	652	663	786	669	708	7,892	106.1%
その他検査														
ピロリ菌検査	22	18	18	29	29	17	21	21	19	18	16	21	249	190.1%
心筋マーカ検査	41	37	35	34	34	30	31	56	42	47	41	50	478	122.6%
小計	63	55	53	63	63	47	52	77	61	65	57	71	727	139.5%
細菌学検査														
一般細菌検査	581	602	514	647	663	561	610	575	756	775	735	673	7,692	119.5%
抗酸菌検査	64	75	53	46	48	66	42	73	66	67	84	59	743	118.1%
迅速検査	203	257	186	236	226	213	269	226	343	382	329	312	3,182	97.7%
小計	848	934	753	929	937	840	921	874	1,165	1,224	1,148	1,044	11,617	112.5%
病理検査														
組織検査	180	211	177	234	204	166	233	193	188	227	207	211	2,431	116.9%
組織迅速検査	20	23	11	12	11	16	11	7	18	18	14	14	175	153.5%
細胞診検査	207	251	215	242	245	223	256	267	256	229	224	220	2,835	104.5%
細胞診迅速検査	9	11	5	5	4	6	5	4	11	6	10	6	82	167.3%
小計	416	496	408	493	464	411	505	471	473	480	455	451	5,523	111.5%
生理学検査														
心電図検査	960	1,104	1,027	1,091	1,055	1,003	1,028	1,019	1,324	1,078	1,002	997	12,688	108.5%
脳波検査	11	11	5	22	34	8	11	10	16	8	6	23	165	90.7%
脈波検査	118	123	95	126	102	119	130	99	108	127	125	169	1,441	110.8%
肺機能検査	108	181	152	193	170	167	187	175	156	181	142	96	1,908	102.4%
超音波検査	635	793	696	811	734	651	790	764	798	742	704	712	8,830	109.3%
その他	15	11	21	8	12	4	9	7	12	11	5	7	122	369.7%
小計	1,847	2,223	1,996	2,251	2,107	1,952	2,155	2,074	2,414	2,147	1,984	2,004	25,154	108.7%
合計													307,202	131.5%

臨床工学部

理念

質の高い臨床技術の提供と安全かつ効率的な医療機器の運用に寄与します

基本方針

1. 医療機器の専門家としての自覚を持ち、良質で安全な医療が行えるようチーム医療に心掛けます。
2. 医療の高度化に対応するために、常に自己研鑽に励みます。
3. 医療機器の安全確保と有効性維持のための点検、教育に努め安全・安心の医療に貢献します。

【スタッフ】

臨床工学部部長：上野安孝

臨床工学部技師長：松原伸夫

臨床工学技士：技師長を含め8人（パート職員1人）

委託職員：2.5人（1人は午後勤務）

【概要】

平成24年4月1日、病院の地方独立行政法人化と同時に医療器材部の名称を臨床工学部へと変更。平成25年4月に臨床工学技士1名を増員し業務の拡張・充実を図った。臨床工学部の理念と基本方針を掲げ、市民から信頼される病院である事に寄与できることを目標にしている。

近年の医療及び医用機器の高度化においては、臨床工学技士の果たす役割は大きく、技士の活躍の場は広がりつつある。ますます高度化、複雑化する医療機械を専門的知識のある臨床工学技士が保守・点検・操作することにより診療の安全性を増し、他の医療スタッフとの連携を図りながら、より安全で質の高い医療の提供ができるよう日々努力している。

平成25年4月より内視鏡室に臨床工学技士を1人配属した。技士の介入により機器の使用方法や保守管理、洗浄・消毒の管理などを見直し最適化することが出来、結果として業務の効率化、安全管理の向上に貢献できた。また看護師が行っていた手術室、血管造影質医療ガス安全点検を臨床工学部管理として技士が行うようにした。さらにICU血液ガス分析装置をラジオメータ社ABL 555からシーメンスラピッドポイント500に更新することにより、ランニングコストの削減、機器トラブルの減少が実現できた。人工呼吸器サーボ900Cの保守終了の為サーボS3台、サーボi1台を更新しICUへ設置した。

業務は、臨床技術支援業務（手術部業務、心臓カテーテル関連業務、血液浄化業務、内視鏡室）とME機器中央管理業務の2つに大きく分けられ、専属の臨床工学技士8名（内1名はパート）、委託職員2.5名で、院内の生命維持管理装置や医療機器の操作及び保守点検を行っている。また、部門を血液浄化業務部門、内視鏡室と手術室関連業務・医療機器管理業務部門に分け血液浄化業務部門に4人（臨床工学技士職員3人、パート1人）と内視鏡室に1人、手術室関連業務・医療機器管理業務部門に5.5人（臨床工学技士3人、

委託職員 2.5 人) を配置し、血液浄化と手術室部門の技士 2 人を 1 日交代でローテーションしている。また糖尿病患者における血糖測定器使用説明を 27 名の患者様に実施した。院内活動としては、医療機器等検討委員会、感染管理委員会、リスクマネジメント部会、広報年報委員会、CS 推進委員会など多くの委員会、各種院内講演会への参加、新人職員に対する教育講演の講師、院内職員に対する医療機器研修の企画立案、医療機器安全情報の広報などを通してチーム医療への参画・業務支援に努めてきた。院外活動としては、臨床工学技士会、専門学会などの学術集会、研修会、勉強会などに積極的に参加し最新知識・技術の向上に努めており、手術室業務において体外循環技術認定士資格を 1 人が取得し、対外循環における技術の向上と安全性が期待される。また毎年、東亜大学医療工学科学生 2 名の 1 ヶ月間の病院実習を受け入れ、教育指導している。

血液浄化部門では、平成 25 年 4 月より、水質管理を徹底し高品質な透析液の作成・維持に努めることによりオンライン HDF や間歇補液 HD (I-HDF) などの治療に対応できるようになり、透析の合併症である掻痒症や透析中の血圧低下の改善に寄与できた。

【業務内容・動向】

1. ME 機器中央管理業務

院内での汎用性の高い医療器材部中央管理機器 13 機種 of 中央貸出・返却業務と各種医療機器の定期点検、保守点検、修理は主に臨床工学技士の監督のもとに委託職員が担当している。臨床技術支援が伴う生命維持管理装置・術中モニタリング装置の保守・定期点検、医療機器管理台帳管理は臨床工学技士が担当し、さらに医療機器を安全かつ効率的に運用できるように保守点検・計画的購入を行っている。また、院内での医療機器セミナー及び他職種向けの医療機器取扱いに関する研修会を開催したり、医療機器安全情報を広報しており、患者様に安全かつ有用な医療を提供できるように努めている。

2013 年 5 月 21 日	圧力調整器付酸素流量計 (ポンベ用) 30 台管理登録
2013 年 5 月 15 日	パルスオキシメーター サーフィン PO2 台病棟へ納入
2013 年 5 月 17 日	アトム点滴台デモ開始
2013 年 6 月 22 日	セントラルバージョン更新。5E, 産科病棟、小児棟長時間波形増設
2013 年 6 月 27 日	手術室 2 番フクダ製生体情報モニターデモ設置
2013 年 7 月 30 日	高機能エアーマット 3 台設置、総台数 14 台
2013 年 7 月 30 日	産科病棟、保育器定期点検 V-2100G, V-2100 (アトム)
2013 年 8 月 7 日	カフ圧計ケース 8 個納入 (プラスチック)
2013 年 8 月 28 日	パルスオキシメータ 23 台を納入、分散管理。10 月 25 日配布
2013 年 8 月 30 日	救急外来に除動血圧計設置管理
2013 年 10 月 18 日	電子血圧計エレマノ 1 台、内科外来へ配布
2013 年 11 月 22 日	全自動洗浄消毒装置 TOPLINE20 を 3E, 6E に導入設置
2013 年 12 月 16 日	シリンジポンプ テルモ TE -351 を 5 台 ICU 配置。中央管理
2014 年 1 月 20 日	サーボ S 3 台、サーボ i 1 台購入設置
2014 年 3 月 4 日	ICU 血液ガス分析装置をシーメンスラピッドポイント 500 に更新
2014 年 3 月 6 日	手術室へセントラルミニタ DS-8900 (フクダ電子) 導入
2014 年 3 月 8 日	4 階東セントラル DS7780W, ベッドサイドモニタ DS-7000 6 台設置
2014 年 3 月 13 日	輸液ポンプテルモ TE-161SAP 2 台を 5E に設置、3 台を臨床工学部

2014年3月14日 血圧モニタリングシステムをアルゴンからエドワーズへ変更
 2014年3月31日 TCI シリンジポンプ2台を手術室へ設置

2. 管理機器

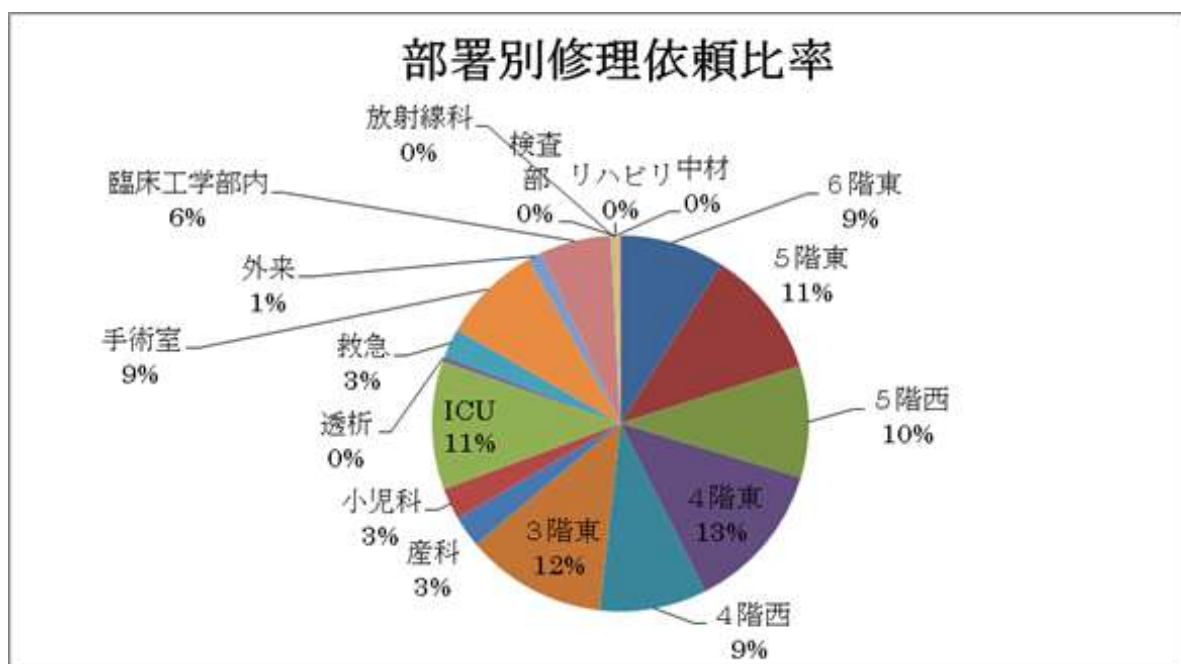
生命維持管理・モニタリング装置

機器名	台数(台)
人工心肺	1
PCPS	1
IABP	2
除細動器	10
体外式ペースメーカ	8
人工呼吸器	18
透析装置	21
CHDF	1
血漿交換装置	1
神経機能検査装置	2
連続心拍出量測定装置	3
自己血回収装置	3

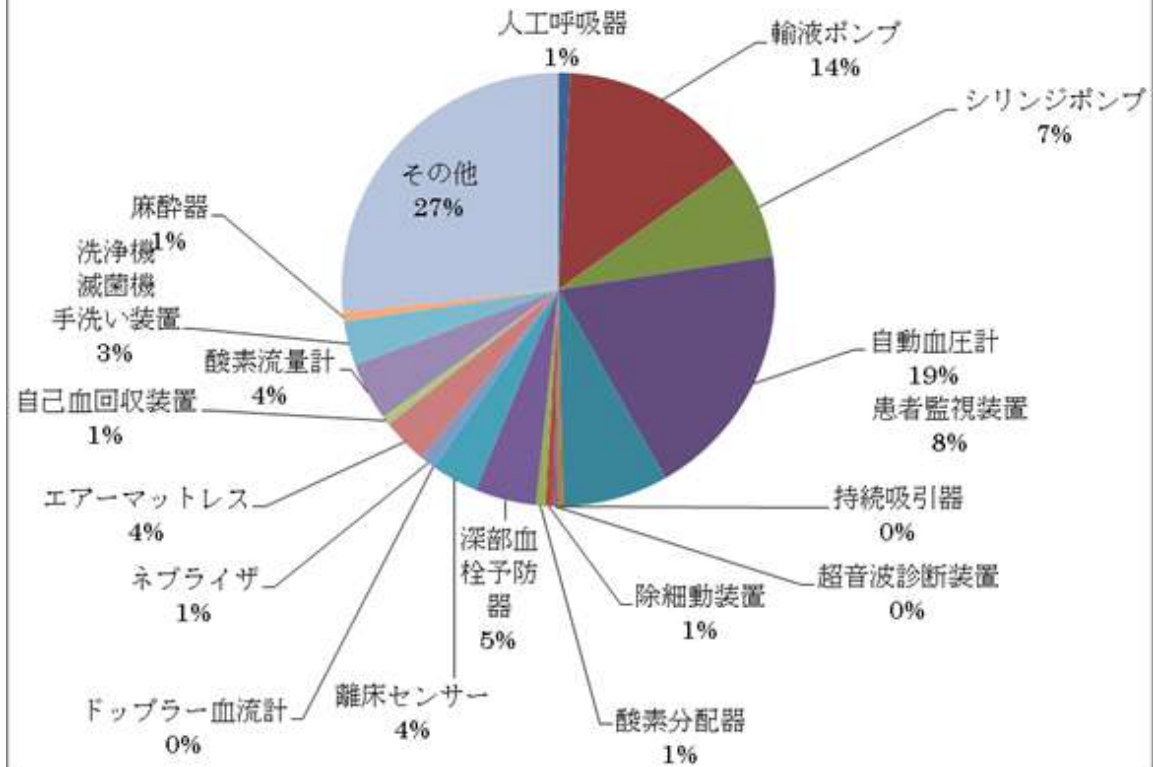
医療器材部中央管理機器

機器名	台数(台)
AED	6
輸液ポンプ	173
シリンジポンプ	124
自動血圧計	21
中央患者管理装置	18
移動式患者管理装置	65
ポータブル吸引機	7
持続吸引機	12
低圧持続吸引機	17
IPC 装置	34
自己血回収装置	1
空気清浄機	12
二又アウトレット	44
離床センサー	33
自動点滴装置	6
超音波ネブライザー	16
経腸栄養ポンプ	4

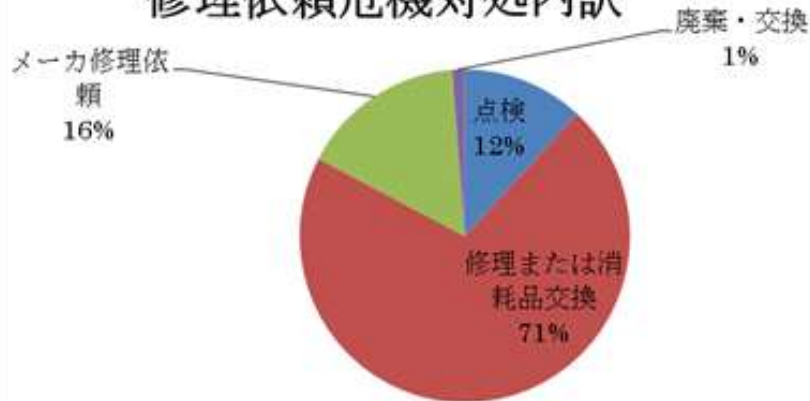
3. 修理関連統計



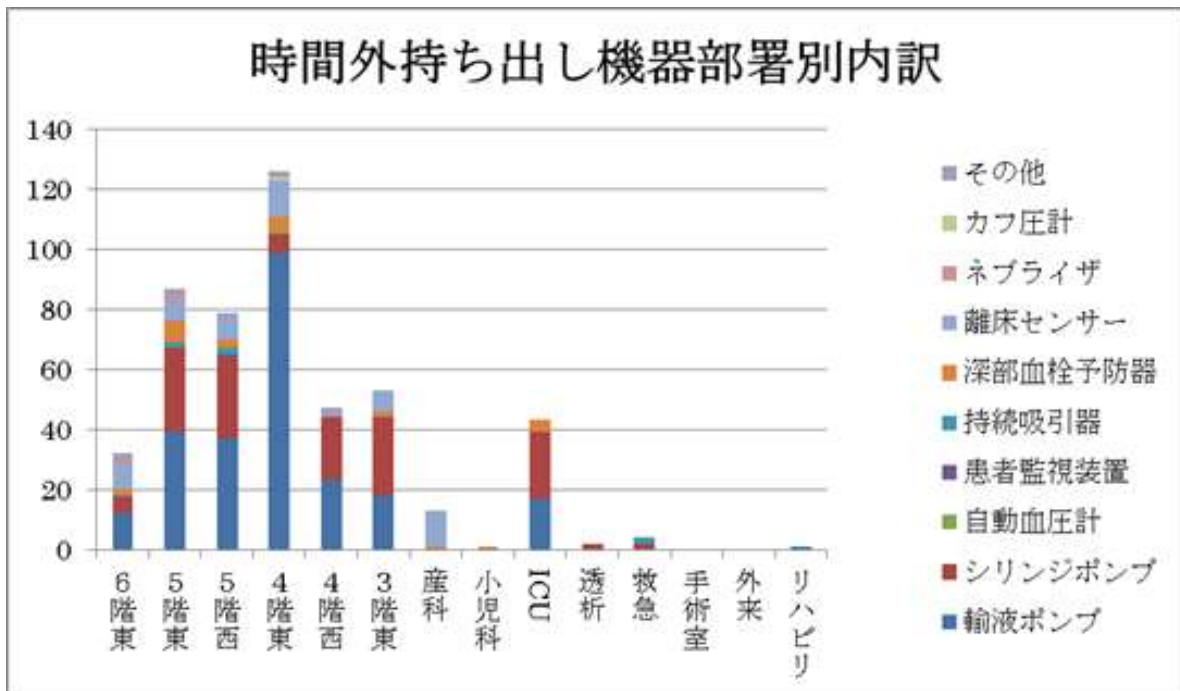
機種別修理依頼比率



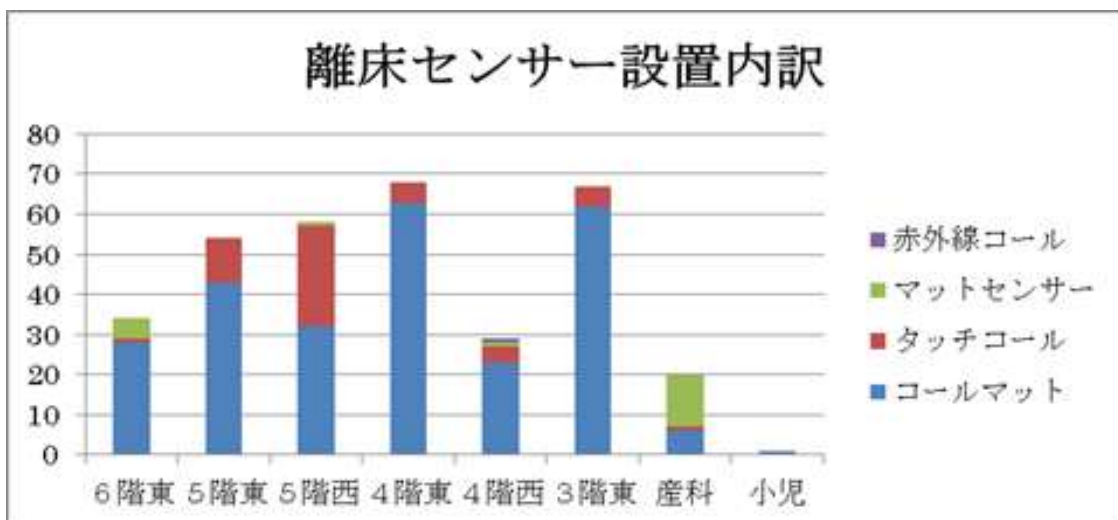
修理依頼危機対処内訳



4. 時間外持ち出し統計



5. 離床センサー設置統計



6. 手術室業務

人工心肺装置、補助循環装置である PCPS（経皮的心肺補助装置）や IABP（大動脈内バルーンポンピング）、術中自己血回収装置の操作及び保守点検、心臓血管外科・整形外科・脳神経外科分野での SEP（体性感覚誘発電位）、経頭蓋高電圧電気刺激による MEP（運動誘発電位）、SCEP（脊髄誘発電位）、SSEP による中心溝の同定、ABR（聴覚誘発電位）の測定および Facial の術中モニタリング業務を行っている。時間外呼出は 5 回でした。

平成 25 年度実績

項目	件数
人工心肺	40
OFF-PUMP	19
IABP	7
PCPS	5
術中自己血回収	181
誘発電位測定	282

7. 心臓カテーテル関連業務

平成24年2月より、検査部が行っていた心臓カテーテル検査・治療業務を開始した。心臓カテーテル検査・治療が安全で正確に行われるようにポリグラフによるモニタリングを行っている。急変時にはPCPS（経皮的心肺補助装置）やIABP（大動脈内バルーンポンピング）などの補助循環装置の組み立て・操作を行っています。また平成25年11月より下肢アンギオ、下肢EVTの症例の立会い業務を開始。11件に立ち会った。時間外呼出は41回でした。

平成25年度実績

患者数	403
緊急患者数	65
項目	件数
CAG	386
PCI	108
LVG	13
右心	53
IABP（カテ中導入）	5
PMI	35
PME（G交換）	5
下肢PTA	38
PCPS（カテ中導入）	1
体外式ペースメーカー	42

8. 血液浄化業務

●人工透析

透析センター（20床）にて月曜日～土曜日まで午前・午後の2クールで透析治療を行っている。緊急時や手術後の透析は救命センターで個人用透析装置を使用して行っている。ICUでの時間外透析、CHDFの技士の呼出対応は16回でした。

平成25年度実績

項目	件数
持続緩徐式血液濾過透析	15
単純血漿交換	1
白血球除去療法	10
腹水濾過濃縮再静注法	5

●特殊血液浄化

様々な疾患に合わせて透析センターと救命センターでCHDF（持続緩徐式血液濾過透析）、エンドトキシン吸着、白血球除去療法、血漿交換・血漿吸着療法、腹水濾過濃縮再静注法などを行っている。

9. 内視鏡室業務

内視鏡室で使用する全ての機器に対して機器管理台帳を作成し、機器の保守管理を担当。また内視鏡検査や治療での介助業務や、スコープの洗浄・消毒を行い消毒薬濃度判定の実施を含め洗浄・消毒の履歴管理など感染管理も行っている。

平成26年3月に高周波装置VIO200Dを更新。消化管出血に対する止血処置や、EMR、ESD、ERCPなどに使用している。ESDにおいては、細かな出力設定を行うことで、よりよい治療に貢献できている。

【学術実績】

(1) 学会・研修会

年月日	学会・研修会名	開催地	参加者
2013/4/14	平成 25 年度山口県臨床工学技士会学術大会・総会	山口市	松原、佐々木、鈴木、前田、藤田
5/25	「CLS サミット in 山口」	山口市	松原
6/1・2	日本体外循環第 11 回教育セミナー 3 年次	名古屋市	松原
6/21～23	第 58 回日本透析医学会学術集会・総会	福岡市	佐々木（演者）、鈴木、藤田
6/29	第 23 回日本体外循環技術医学会中国地方大会	下関市	松原（座長）、鈴木、原田
7/7	透析セミナー in 海峡メッセ 13'	下関市	松原、佐々木、鈴木、原田、藤田
7/12～14	第 29 回日本人工臓器学会教育セミナー、体外循環認定士認定試験受験	東京都	松原
7/13	平成 25 年度医療機器安全講習会	福岡市	鈴木雄、篠田
8/29～9/1	第 6 回血液浄化関連指定講習会	東京都	佐々木
9/1	第 2 回山口県臨床工学技士会ペースメーカー講習会	山口市	松原、原田
9/28	中国地区「ME トレーニングコース Basic 編」	広島市	松原、原田
10/16	山口県臨床工学技士会主催第 13 回心電図基礎セミナー	下関市	松原
10/20	第 22 回中国腎不全研究会	広島市	佐々木
10/29	プリベンティブ・メンテナンス認定講習会	福岡市	松岡
11/23	第 16 回 ME 機器セミナー	宇部市	松原
2014/2/15	第 15 回山口呼吸ケア研究会	山口市	松原
2/22	Yamaguchi catheter Comedical Conference 2014	小野田市	松原
3/9	第 13 回山口県臨床工学技士会主催呼吸器セミナー	山口市	松原
3/13	第 26 回山口県西部透析症例検討会	下関市	松原、佐々木、鈴木雄、鈴木あ、前田
3/15	山口県臨床工学技士会主催 2013 年度中部地区勉強会	宇部市	松原
3/8・9	第 29 回ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	東京都	佐々木、鈴木雄

(2) 学会発表

開催月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
6.21～23	腹水濾過濃縮再静注法（KM-CART）を施行した癌性腹水症例の検討	佐々木毅	篠田直子、鈴木あゆみ、前田友美、鈴木雄揮、前田大登、坂井尚二	第 58 回日本透析医学会学術集会・総会	福岡国際会議場 外
6.29	メーカープレゼンテーション	座長 松原伸夫		第 23 回日本体外循環技術医学会中国地方大会	済生会下関総合病院
10.20	ポスター発表	座長 佐々木毅		第 22 回中国腎不全研究会	広島国際会議場

開催 月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
7.7	透析療法の基礎（技士編）	前田友美		透析セミナー in 海 峡メッセ 13'	海峽メッセ 下関
3.13	足回診と臨床工学技士のか かわり	藤田 忍	鈴木あゆみ、前田友美、 鈴木雄揮、佐々木毅、 吉村	第 26 回山口県西 部透析症例検討会	海峽メッセ 下関

（３）院内医療機器講習会

月日	テーマ	参加者
2013/4/5	サーボベンチレータ 900C 点検、使用方法研修会 1 回目	5 西看護師 7 名、ICU 看護 師 3 名、CE2 名
4/8	平成 25 年度新採用者研修	看護師 21 名、CE1 名
4/11	サーボベンチレータ 900C 点検、使用方法研修会 1 回目	5 西看護師 6 名、CE2 名
4/26	サーボベンチレータ 900C 点検、使用方法研修会 2 回目	5 西看護師 6 名、CE1 名
5/24	BIOTRONIK MRI 対応ペースメーカー研修会	CE4 名
5/28	輸液システムと輸液ポンプ等の適正使用	院外看護師 19 名、院内看 護師 25 名、CE5 名
6/7	フクダ電子ベッドサイドモニター DS-7110 の使用説明	新人看護師 19 名、他看護 師 3 名、CE3 名
6/25	サーボベンチレータ 900C 点検、使用方法研修会 2 回目	5 西看護師 7 名、CE1 名
8/28	サーボベンチレータ 900C 点検、使用方法研修会	ICU 看護師 9 名、CE1 名
8/30	マスク換気 V60 の取扱説明	ICU 看護師 13 名、CE3 名、 医療安全看護師
9/19	MRI 対応ペースメーカー説明会（Accent MRI）	CE5 名
11/21	ペースメーカー勉強会（1 回目）	ICU 看護師 13 名、CE4 名
12/5	ペースメーカー勉強会（2 回目）	ICU 看護師 9 名
2014/3/27	ベッドサイドモニター DS-7000、DS-8100N、 送信機 LX-7230N 取扱説明	看護師 23 名、医師 1 名、 CE4 名

【所属学会】

（社）日本臨床工学技士会	7 名	（社）日本体外循環技術医学会	1 名
（社）山口県臨床工学技士会	7 名	（社）日本臨床微生物学会	1 名
（社）日本臨床検査技師会	2 名	（社）日本環境感染学会	1 名

栄養管理部

【理念】 『食べることを通じてチーム医療の一翼を担い、
患者様の健康回復に貢献するよう努めます』

【概要】

栄養管理部は、平 俊明医師を部長とし、栄養士 5 名（うち管理栄養士 4 名、栄養士 1 名）の病院職員が栄養管理業務を担当している。給食業務は一部委託での運用である。入院患者の栄養管理では、患者の栄養・喫食状態に基づいて、管理栄養士が医師・看護師と共に栄養管理計画を作成している。患者に対する栄養管理内容の説明は、受け持ち病棟ごとにそれぞれの担当管理栄養士が行ない、併せて患者の嗜好や喫食状況などを把握し個別対応による食事提供を心がけている。また、新しい補助食品などを導入し、喫食量の増加に繋がるとともに、低栄養状態や治療による摂食障害の患者に対しては、多職種のスタッフで構成した N S T（栄養サポートチーム）により栄養状態の改善に取り組んでいる。

給食管理においては、嚥下対応のソフト食、誕生食、化学療法による食欲不振の方々にこにこ食（緩和食）を 9 月から提供開始し嗜好、形態の考慮と摂取量の増加に委託業者とともに取り組んだ。行事食も毎月行い、季節感を大切に献立作成に取り組んだ。

入院・外来患者に対しての栄養指導では、病棟担当栄養士が入院時栄養指導に力を入れ、入院時から治療にあわせた食事を食べていただき、患者自らが食事改善できるよう、より実践的な指導を行なった。

院内の活動においては、栄養管理について検討する栄養管理委員会のほか、感染管理委員会、クリニカルパス推進委員会、D P C 委員会、医療事務検討委員会、N S T 委員会、褥瘡対策委員会、リスクマネジメント部会などに参加し、チーム医療の推進に取り組んだ。

【栄養管理部人員構成】 平成 26 年 3 月 31 日現在

平 部長（耳鼻咽喉科部長兼務）

管理栄養士	3 名	パート管理栄養士	1 名	パート栄養士	1 名
〈委託〉 管理栄養士	2 名	栄養士	4 名	調理師	11 名
調理員	7 名	調理補助	8 名	食器洗浄	6 名

【業務動向】

給食数は入院患者数の減少に伴い、前年度に比べて約 2 % 減少した。しかし、非加算の減塩食や低残渣食、嚥下障害食などの食数は増加している。特別食は 4.7 % 増えており、既往歴の確認で治療食への変更と治療における食事管理の重要性への認識向上の傾向が認められたものとする。

栄養指導件数は前年に比べて 2.4 倍（985 → 2341 件）に増加、特に入院患者への指導が 4.8 倍（384 → 1848 件）に増加している。これは今年度 6 月より、各栄養士を病棟制とし、入院時からの積極的な栄養指導を行ったことによる。心臓疾患が 11.7 倍、糖尿性腎症が 7.5 倍となっている。また、外来の糖尿病教室も 8 月から月 2 回参加し指導を行っている。今後も、治療の一環としての栄養指導の件数増加につなげていきたい。

【給食実施状況】（2013.4.1～2014.3.31）

1. 食種別 患者給食数 (単位：食)

食種		合計	全体比%	
一般食	常食	31,602	11.7	
	軟菜(米-5分)	88,843	33.2	
	3分粥	748	0.3	
	流動	9,596	3.6	
	計	130,789	48.8	
非加算食	幼児	2,767	1	
	離乳	344	0.1	
	離乳アレルギー	28	0	
	アレルギー	106	0	
	消化不良	272	0.1	
	出産祝い膳	111	0	
	低残渣	7,426	2.8	
	減塩	13,468	5.1	
	生もの制限	323	0.1	
	嚥下障害	10,761	4	
	にこにこ食	978	0.4	
	濃厚流動(非加算)	8,086	3	
	検査前低残渣	192	0.1	
	腸検査(非加算)	20	0	
	検査後	1,199	0.5	
	非加算計	46,081	17.2	
	特別食	術後	5,351	2
		潰瘍・吐血	3,062	1.2
		肝A・高たんぱく	196	0.1
		肝B・低脂肪	933	0.4
肝C		263	0.1	
膵臓		1,603	0.6	
腎不全		11,395	4.3	
透析		8,685	3.3	
ネフローゼ		914	0.4	
小児腎		197	0.1	
妊娠高血圧症		54	0	
糖尿病性腎症		7,810	2.9	
心臓病		15,969	6	
カロリー制限		31,604	11.8	
腸疾患・腸炎		549	0.2	
濃厚流動(加算)		812	0.3	
腸検査(加算)		301	0.1	
貧血		517	0.2	
加算食計		90,215	34	
特別食計	136,296	51.2		
人間ドック	32	0		
合計	267,117	100		

2. 栄養指導件数 (単位：件)

項目	合計	入院	外来
腎臓病	267	195	72
妊娠高血圧	0	0	0
心・高血圧	614	585	29
糖尿病	676	550	126
小児肥満	3	0	3
アレルギー	64	0	64
肝臓病	16	16	0
膵臓病	21	20	1
胃潰瘍・術後	155	152	3
血液透析	136	123	13
脂質異常症	30	19	11
腸疾患	8	8	8
糖尿病性腎症	144	120	24
その他	26	23	3
非：アレルギー等	64	37	27
非：母親学級	18	0	18
非：糖尿病教室	99	0	99
総件数	2,341	1,848	493

※非：栄養指導非加算



【イベント食実施状況】

実施日		イベント	行事献立
毎月	1日		散らし寿司
5月	5日 ☆	こどもの日	柏餅、豆ごはん
6月	24日 ☆	あじさい弁当	あじさい弁当、くずまんじゅう
7月	7日	七夕	茶そばの冷やし盛り、くずまんじゅう
	22日 ☆	土用の丑	うなぎ料理
8月	11日 ☆	暑中見舞い	水ようかん
9月	23日	秋分の日	栗ご飯、茶碗蒸し
10月	24日	紅葉弁当	紅葉弁当
11月	14日 ☆	世界糖尿病デー	糖尿病献立
12月	22日	(小児病棟クリスマスデザートプレート)	
	24日 ☆	クリスマス	テリーヌ、クリスマスデザート
	31日	大晦日	年越しそば
1月	1日 朝☆	雑煮	
	夕	おせち料理	
	7日 ☆	七草粥	七草粥
2月	3日 ☆	節分	炊き込みご飯、福豆
	9日 ☆	“ふく”の日	ふくの刺し身
3月	3日 ☆	ひなまつり	ひなまんじゅう、散らし寿司

※☆はメッセージカード付き



薬局

理 念

『患者様への安心、良質、適切な優しい薬物療法に寄与します』

基本方針

1. 常に患者様中心の医療を考え、医薬品の適正使用の推進を使命とします。
2. 「くすりの専門家」としての専門知識を携え、医療チームの一員として、高度医療を支えます。
3. 高い知識と技能の水準を維持するよう研鑽に努めます。

【スタッフおよび業務動向】

平成 25 年度は、薬局長以下、総薬剤師数 12 名、調剤補助員 2 名のスタッフで、調剤・注射調剤・院内製剤・無菌製剤・薬品管理・麻薬管理・治験薬管理業務・医薬品情報管理（D I）・薬剤管理指導業務（病棟業務）・チーム医療への参画（感染対策チーム、栄養支援チーム、がん化学療法、緩和ケアチーム、褥創対策チーム、リスクマネージメント、糖尿病教室チーム）に従事した。

平成 25 年度は薬剤管理指導件数拡大にむけて薬局一丸となって取組んだ結果、平成 24 年度算定実績平均 535 件 / 月に対し、25 年度は平均 584 件 / 月と前年比 109% と大幅に拡大できた。なお 7 月には、過去最高の 684 件 / 月を達成し、経営的にも大きく貢献した。

8 月、地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会より、平成 24 事業年度に係る業務実績に関する評価結果において「薬剤師による服薬指導の充実」の項目について、以下の講評があり、最高ランク 5 の評価を得た。

『薬剤師の人数については、前年度と比較して変動がないにもかかわらず、手術予定の外来患者が安全に手術を受けられるように、術前中止薬の鑑別に加え、服薬指導を実施するなど、服薬指導件数については、平成 23 年度実績より 28.1% 増、計画より 30.6% 増と大幅に上回って実施しており、薬剤師が非常に頑張っていることがうかがえる。』

当院薬局の外来手術予定患者における術前中止薬の休薬指導と薬薬連携による中止薬一包化再調剤の取り組みについては、反響が大きく、全国学会で発表した。

11 月、法的に規定のない院内製剤の取扱いについて、クラス分類による倫理審査や同意書要否不要などの院内手続きを定め、医薬品の安全使用のための業務手順書に明記した。

【平成 25 年度実績】

常備医薬品数（平成 25 年 5 月現在）

内服薬	598 品目
外用薬	276 品目
注射薬	472 品目
合計	1,346 品目

後発医薬品院内採用品目

内服薬	52 品目 (8.5%)
外用薬	16 品目 (7.6%)
注射薬	25 品目 (5.3%)
合計	93 品目 (7.2%)

平成 24 年度薬事審議会結果

新規採用	31 品目
削除	38 品目
後発切替	2 品目

払出し管理薬品数

麻薬	21 品目
毒薬	22 品目
向精神薬	12 品目
全身麻酔薬	4 品目
PGE ₁ 膈坐剤	1 品目
血漿分画製剤	18 品目
合計	79 品目

院内製剤件数

院内製剤	品目数	製剤件数
注射剤	1	329
外用剤	30	1,074
内用剤	0	0
合計	31	1,403

無菌製剤処理件数

	処理件数
TPN	1,066
抗がん剤	2,021
合計	3,087

治験薬管理業務

治験実施件数	症例数
6	20

処方箋枚数 (枚)

		年間合計	1 日平均
外来処方箋	院内処方箋	10,903	44.7
	院外処方箋	76,735	314.5
入院処方箋		42,863	117.4
注射処方箋 (入院)		80,383	220.2
注射処方箋 (外来)		10,755	44.3
注射処方箋 (外来化療)		751	3.1
麻薬処方箋	内服・外用	660	1.8
	注射	4,377	12.0
	合計	5,037	13.8

院外処方箋発行率 87.6%

薬剤管理指導算定件数

		合計	月平均
患者数 (人)		4,632	386
薬剤管理指導 (件)	総算定率	7,012	584
	ハイリスク薬	2,517	210
	一般薬	4,495	375
加算 (件)	麻薬指導	160	13
退院時指導 (件)		2,328	194

医薬品鑑別件数

件数	剤数
5,276	36,605

化療レジメン管理

レジメン数
142

外来患者薬剤情報提供件数

一般	手帳
3,593	3,596

血中濃度解析件数 (抗 MRSA 薬)

初期投薬設計	8
TDM 解析	6

医薬品情報提供 (紙媒体)

- ・ 医薬品集 2013 年度全面改訂版
- ・ 医薬品集 2013 年度追補版 4 回発行

長期実務実習生受入実績 なし

【学会発表等】

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名
2013.8.10	山口県病院薬剤師会感染制御委員会 20年の歩み	平田紀子		第17回 山口県感染制御薬剤師教育セミナー (山口グランドホテル)
2013.9.22	外来手術予定患者における術前中止薬の休薬指導と薬薬連携による中止薬一包化再調剤の取り組み	香河里江子	植野孝子、西嶋博子、林祥子、平岡ひろ子、木村仁美、福田倫代、倉光智子、徳永知世、藤川雄也、松岡宏、平田紀子	第23回 日本医療薬学会 (仙台市)
2013.12.8	外来手術予定患者における術前中止薬の休薬指導と薬薬連携による中止薬一包化再調剤の取り組み	藤川雄也	植野孝子、香河里江子、西嶋博子、林祥子、平岡ひろ子、木村仁美、福田倫代、倉光智子、徳永知世、松岡宏、平田紀子	山口県薬剤師会 フォーラム 2013 (山口市)

【薬剤師の他の資格取得者】

日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師	1名
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	1名
日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師	5名
日本医療薬学会 指導薬剤師	1名
日本医療薬学会 認定薬剤師	1名
日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師	4名
日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師	3名
やまぐち糖尿病療養指導士	1名
臨床検査技師	1名

地域医療連携室

当院では平成 14 年 5 月から地域医療連携室の活動をしています。

病病連携、病診連携を推進するために、以下のことを特徴とした業務を行っています。

【コンセプト】 地域の先生方との協力を推進する管制塔としての役割を果たす

【業務】

1. 紹介患者の予約
2. 紹介患者の返書の徹底
返書および退院サマリーの送付の徹底（把握と督促）
3. 逆紹介の把握
4. 病床管理
5. 円滑な退院調整
6. 広報に関して
7. 奇兵隊ネット（連携医療機関へのカルテ開示）

【会議】

地域医療連携推進委員会、 病床管理委員会

【紹介患者予約システムの特徴】

1. ベテラン看護師（スタッフ参照）が対応します（専用電話線・FAXにて対応）。
診察医師の指定にも十分対応しています。
疑問や不明な点があれば何なりとご連絡ください。
2. 事前予約システムです。ファックスなどで事前にご連絡頂ければ、おおよそ 5 分以内にご紹介頂ける患者の予約をします。連絡をいただいた時に、電子カルテの患者登録をします。そのための待ち時間はありません。
3. 紹介患者専用の受付窓口を設けました。紹介患者受付にお越しくください。
保険証の確認等させて頂き、各外来までご案内いたします。
4. 予約頂いた時間に診察を開始いたします。診察開始まで約 30 分以内です。
5. 紹介頂いた先生方への返事を徹底します。
紹介状に対する返事の状態をチェックし、タイムリーに返事を送付いたします。
平成 20 年 1 月から、退院サマリーの送付も徹底させています。
6. 逆紹介を推進します。紹介された患者は当院での医療が必要としなくなれば逆紹介します。

【スタッフ】

連携室室長（副院長）：坂井尚二 室長補佐（副看護部長・専任）：河田うしを
事務担当：竹中順子、村上貴代美
相談員：森口陽之、葛目知沙、河本 務、八垣悦子

【専用回線】

地域医療連携室 TEL：083-224-3860

FAX：083-224-3861

【活動状況】

1. 紹介数

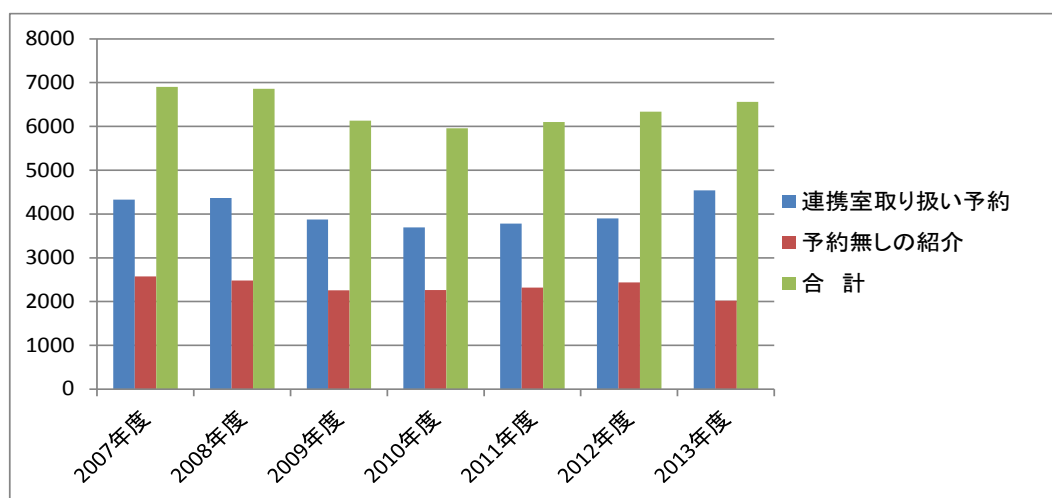
	2011年度	比率 (%)	2012年度	比率 (%)	2013年度	比率 (%)
連携室取り扱い予約	3778	62	3900	62	4538	69
予約無しの紹介	2320	38	2435	38	2021	31
合計	6098	100	6335	100	6559	100

連携室の取り扱い（予約件数）は約70%で、地域の医療機関に活用されています。当院の連携室のもう一つの特徴に、病床管理があげられます。各病棟の空床状況を把握していますので、入院依頼についてもすぐに対応することができます。

ご紹介頂いたその日の入院は、紹介の約50%です。

紹介総数

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
連携室取り扱い予約	4326	4367	3874	3694	3778	3900	4538
予約無しの紹介	2574	2482	2258	2266	2320	2435	2021
合計	6900	6859	6132	5960	6098	6335	6559



※ 2011年2月～3月 電子カルテ導入期のためデータ一部不十分

2. 紹介率 (%)

	紹介率	逆紹介率
2011年度	33.0	36.8
2012年度	32.9	43.4
2013年度	40.2	58.7

医療安全対策室

平成 19 年 4 月 1 日、「医療安全対策室」を設置した。リスクマネジメントに関わる各部会の提案事項を受けてシステム整備・研修のための企画、運営、各部門間の調整（調査）を中心になって行っている。

医療に関する患者からのクレームや有害事象発生時の対応では、医療安全対策室は患者と医療者を結ぶ重要な役割を求められている。

また、医療安全とコミュニケーションの関係は深く、当院においてもその改善の必要性は高い。そのため、平成 25 年度も安全管理委員会の年間目標を「院内コミュニケーションの改善」とした。目標達成のため医療安全対策室は、核となって教育・実施・結果発表・評価までを関与した。このことが、某出版社の目に留まり、「多職種間のコミュニケーション・エラー対策」（仮）のテーマで取材を受け、掲載される予定である。

【医療安全対策室の構成】

室長：前田博敬（副院長） 室長補佐：福住恵子看護師長（専従）
室員：大平佳子産科・小児病棟師長、西野京子外科外来主任看護師、
大久保典子整形外科病棟主任看護師、三隅美津枝放射線部技師長、
岩本秀樹医事グループ班長（室員全員兼任）

【基本理念】

「みて きいて かんじて」

【基本方針】

- 1) 患者の安全を最優先に考える
- 2) 患者と医療従事者との対等な関係を築く
- 3) 院内の安全文化の向上
- 4) 組織全体のシステムの整備

【平成 25 年度の主な活動】

- ①医療安全対策室からのお知らせ」8 回発行
- ②医療安全院内巡視
（看護部 MRM 委員会合同・感染ラウンド・転倒転落防止啓発ラウンド他）
- ③研修の企画・運営：19 回開催

年月日	研修	講師
H25.5.20・21・29	車いす使用前研修会（109 名）	水野博彰氏（当院理学療法士）
H25.5.27	インスリンの基礎知識 （院内：18 名、院外：14 名）	藤崎陽子氏（日本イーライリル（株））
H25.10.6～11.25	全部署巡回研修会（171 名）	
H25.5.28	輸液ポンプシリンジポンプのはなし （院内：30 名、院外：19 名）	芳地朋子氏（テル（株）） ※臨床工学部共催
H25.6.14	暴力対応シミュレーション（70 名）	堂山晃氏（当院事務部職員）

年月日	研修	講師
H25.6.25	エコーガイド下血管穿刺法 (医師5名、看護師3名)	池内忠氏(コビデアインジヤパン(株)) 吉田順一氏(当院感染管理専門医)
H25.7.8	コミュニケーションの改善 第1回(49名)	大江和人氏(田辺三菱製薬(株))
H25.8.28	尿道膀胱留置カテーテルの基礎知識(14名)	中河内祐二氏(メディオン(株))
H25.9.9	医療安全とコミュニケーション 第2回 伝える技術SBAR(86名)	大江和人氏(田辺三菱製薬(株))
H25.10.10	医療安全講演会 説明と記録の重要性 医療における個人情報対策(101名) ※医療安全対策加算対象	橋本勝氏(損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント(株))
H25.11.1	当院のベッドの安全な使い方(20名)	塩ノ谷明紘氏(パナソニック(株))、 西藤崇雄氏(パナソニック(株))
H25.11.11	医療安全とコミュニケーション 第3回 コミュニケーションスキルを学ぶ CUS・2回チャレンジ・ルール・ チェックバック等(69名)	大江和人氏(田辺三菱製薬(株))
H26.1.20	輸血用血液製剤の取り扱いについて	吉山里美氏(日赤血液センター)
	学会認定自己血輸血責任医師・自己血輸血 看護師の役割について(34名)	前田博敬氏、久保安孝氏 永井千春氏、田村将子氏
H26.2.13	第10回リスクマネジメント大会 ※医療安全対策加算対象 インシデントからの改善発表・茶番劇	

④患者クレーム対応

⑤輸血療法の安全に関すること：学会認定自己血輸血看護師・学会認定自己血責任医師の取得

⑥BLS講習会：6回/年開催 山口トレーニングサイト誘致1回(BLS・ACLS)

⑦医療安全に関する研修会講師(新人看護師・看護助手・看護学生への研修会)等

年月日	研修
H25.4.3	新人オリエンテーション 医療安全研修会
H25.8.1	8月採用者新人オリエンテーション
H25.8.27・29	肺血栓塞栓症予防 ESの履き方と注意点
H25.9.27	肺血栓塞栓症予防 ESの履き方と注意点
H25.10.20	10月採用者新人オリエンテーション
H26.1.7	1月採用者新人オリエンテーション
H26.1.24	臨地実習事前オリエンテーション(医療安全) 下関看護リハビリテーション学校
H26.1.30	臨地実習事前オリエンテーション(医療安全) 下関看護専門学校
H26.2.25	ESの正しいはき方

⑧調査

- ・肺血栓塞栓症リスク判定と予防策の指示出し調査(3回/年 定点調査)
- ・ベッド柵はめ込み型オーバーテーブルの使用状況調査：オーバーテーブルの廃止
- ・「院内時計を合わせましょう」関連：院内時計(壁時計、医療機器、パソコンの時刻誤差の調査)
- ・ベッド調査と修理優先度のラベリング

⑨院外研修への参加

年月日	研修	講師
H25.7.10	萩長門下関ブロック 医療安全管理者研修会 (済生会下関病院)	
8.27	職場のメンタルヘルス対策	東亜大学非常勤講師 益田喜久江氏
9.25	リスクマネージャー地域交流会 (関門医療センター)	
10.22	事故防止のためのパーソナリティー分析	東亜大学医療学部 中田敬司氏
10.11・12	日本医療マネジメント学会 山口連合大会 (海峡メッセ下関) セッション「医療安全 (暴言・暴力)」	(座長) 福住恵子
10.17	メンタルヘルスマネジメント	産業保健相談員 青野京子氏
10.22	セルフ・ケア 自己分析法について	産業保健相談員 足立明子氏
10.26	自殺予防対策 死にたいと言われた時の対応について	国立精神神経医療研究センター精神保健研究所 稲垣正俊氏
11.6	医療安全支援センター実践研修 (福岡県)	
11.13	山口県看護協会 リスクマネージャー交流会 (済生会下関病院)	
H26.1.10	日本医療機能評価機構 医療対話推進者養成セミナー (東京都)	

ドクターズクラーク室

【概要】

室長：真弓武仁 副院長

医師事務作業軽減のために6名配置されている。

医師事務作業補助体制加算の届出区分 75対1

診療科ごとの補助担当者は決まっていない。

【主な業務（H25年1月～12月）】

業務名	件数
診断書作成補助	5,530
実施済み注射・処方代行入力	48,436
サマリー作成補助	708
外科系・心臓血管外科症例登録補助（NCD）	575
循環器内科症登録補助（J-PCI）	51
心臓血管外科開心術症例登録補助（JACVSD）	45
心臓血管外科術式登録補助	300
手術部位感染データベース登録補助	318

6階西ナース・ステーションにて診断書の作成補助が主な業務であるが、それ以外にも症例登録補助、サマリー作成補助など業務の幅が広がってきた。診療科ごとの補助担当者が決まっていないため、全依頼診療科を6人で補助している。特定の診療科に関して専門的に知識を深めることは難しいが、それぞれの診療科でどのような疾患に対する治療や手術が行われているかを広く知ることは出来た。癌に関する症例登録補助では専門的な知識が必要となるため今後も知識を深めて行く必要がある。

薬事審議会

【目的・委員】

当審議会は医薬品の診療上の有効性及び安全性及び経済効率を考えた合理的運営を図ることを目的とし、常備医薬品の選定や当院で使用する医薬品の問題を審議する為に設置されている。

当審議会は、院長、副院長4名、医局幹事、感染管理委員会代表、医局選出医師14名、歯科医師、看護部長、事務部長、事務部4名、薬局長、薬剤師2名の総数31名の委員で構成されている。

【動向】

平成25年度は、5月、9月、11月、2月の4回審議会を開催し、常備医薬品に32品目新規採用し、39品目を削除した。長期不使用薬や、複数規格、同種同効薬の整理を積極的に行い、採用品目数の適正化に尽くした。なお、後発薬への切り替えは4品目であった。

【平成25年度 薬事審議会実績】

	品目数
新規採用	32品目
削除	39品目
後発切替	4品目

感染管理委員会

(2013年1月～12月)

当委員会では、当院における患者さまや職員の感染症を予防し、その早期診断と対策に向けて多業種の職員が活動しています。その核となる感染管理室を6階において、医師、看護師、薬剤師、検査技師ほかの職員が常日頃または感染症多発（アウトブレイク）疑い時に、即応しています。

1. 感染症関連の法律

当院は感染症法において、2種感染症指定機関であり、1階東病棟に6床の感染症病室を有しています。また新型インフルエンザ特別措置法に関連して、指定地方公共機関に山口県から指定され、地域の中核機関としての役割が与えられました。

2. 学会認定と地域ネットワーク

当院はかねてより、日本感染症学会の認定研修施設、また日本環境感染学会の認定教育施設でもあります。前者は、感染症専門医を取得するために必要条件であり、今年度も新たな感染症専門医を輩出し、4人目となりました。また後者では、10年前から認定施設であり、平成23年度から構築していた地域の諸病院とのネットワークが、平成24年度から診療報酬加算として認められ、感染対策ラウンド（回診）の相互訪問や合同カンファレンスを継続しています。

3. 抗菌薬ラウンド（回診）

上記の診療報酬加算におけるチェックリストにおいて、適正な抗菌薬使用のため、広域抗菌薬（許可制としている）とメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）に対する薬剤（届出制としている）の管理やラウンドを行うことが望ましいとされています。現在、九州大学病態修復内科感染症グループより赴任した医師（抗菌化学療法認定医）、感染管理室長（抗菌化学療法指導医）、感染管理認定看護師、薬剤師および臨床検査技師が中心に日常の管理を行い、週1回ラウンドしており、抗菌薬を始める前に検体を取り、その結果に基づき適正な抗菌薬を用いるための活動を行っています。

4. サーベイランス（監視）

集中治療室（ICU）は大部屋であり、かつ感染症を生じやすい患者さまが居られるので水平感染を防ぐため、10年超のサーベイランスを行っており、次の論文業績にある報告にて、その成果を述べています。また毎日、電子カルテを検索することにより、上記のMRSAまたは結核について監視しています。

5. 職業感染対策

これは主に職員への感染、または職員からの感染を阻止するための活動であり、針刺し（体液ばく露）とウイルス感染症（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）対策があります。針刺し関係では、近年の特徴としてヒト咬傷が増えており、予防するための器具を導入し

ています。またウイルス感染症対策では、職員以外にも学生、ボランティアの対策も必要となっており、対応準備しています。

6. 業績集<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2013.3.2	SSI (手術部位感染) 3	吉田 順一	[座長]	第 28 回日本環境感染学会総会	横浜市
2013.4.11 ～ 4.13	(ポスターセッション) 外科系を含む集中治療室 (ICU) におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の積極的監視 (MRSA-AS)10 年間のクラスター解析	吉田 順一		第 113 回日本外科学会定期学術集会	マリンメッセ福岡
2013.6.1	ADA 高値の胸水を結核性胸膜炎として治療後、M. intracellulare による肺非定型抗酸菌症が生じた 1 例	大神 信道	大藪 慶吾、井上 政昭、吉田 順一	第 108 回日本内科学会中国地方会	岡山コンベンションセンター

7. 業績集<論文>

論文・症例・原著等	著者	共同著者等	雑誌名等
山口県の呼吸器・感染症の診療のために	吉田 順一		山口県病院協会会報新年号 (38 号) 5 頁 2013 年
集中治療室におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の積極的サーベイランスの有用性に関する検討	吉田 順一	山下 彰久、古垣 浩一	日本外科感染症学会雑誌 10 巻 1 号 59 頁～ 65 頁 2013 年
Is Clostridium difficile infection influenced by antimicrobial use density in wards?	Nobumichi Ogami	Junichi Yoshida, Toshiyuki Ishimaru, Tetsuya Kikuchi, Nobuo Matsubara, Takako Ueno and Ikuyo Asano	THE JAPANESE JOURNAL OF ANTIBIOTICS 66 巻 2 号 29 頁～ 37 頁 2013 年
院内感染対策 医療の質知る重要情報 病院の実力 山口編			讀賣新聞 2013 年 6 月 2 日号
Association between ward-specific antimicrobial use density and methicillin-resistant Staphylococcus aureus surveillance: a 60-month study	J u n i c h i Yoshida	Tetsuya Kikuchi, Nobuo Matsubara, Ikuko Asano, Nobumichi Ogami	Infection and Drug Resistance 6 号 59 頁～ 66 頁 2013 年

保険委員会

保険委員会では、病院の経営上最も重要な収入である診療報酬の保険請求について、毎月1回最終週に会義を開催し検証、検討を行なっている。

主な活動として、保険請求を行った診療のうち、減点査定されたものに対し査定の適否を検討し、不当な査定と思われるものに対しては、審査支払機関へ再審査を依頼している。

また、減点査定一覧表を各医師に配布することで審査の動向を把握し、適宜減点査定されないよう注意喚起を行なっている。

なお、平成25年度の診療報酬保険請求査定減点状況は以下のとおりである。

査定減は、件数、点数とも前年を大きく上回っており、外来診療、入院診療とも同様の傾向であるが、特に入院診療の伸びが大きく全体を引き上げる要因となっている。査定減の主な理由としては、「検査の適正化」、「画像検査の同日施行」、「転院の際の退院時処方」、「病名の不足」などが揚げられる。

近年、社会保険審査支払基金、国保連合会とも査定の強化、厳正化を進めており、病院としても、請求前点検の実施強化など、査定減の縮小化に向け院内全体で取り組む必要がある。

<査定減点数>

(件数)

	外 来	入 院	合 計
4月	223	271	494
5月	204	265	469
6月	187	302	489
7月	180	331	511
8月	200	351	551
9月	196	245	441
10月	206	291	497
11月	155	324	479
12月	203	251	454
1月	193	384	577
2月	159	370	529
3月	150	321	471
計	2,256	3,706	5,962
前年	1,253	2,718	3,971

<減点率>

(%)

	外 来	入 院	合 計
	0.28	0.56	0.49
	0.24	0.30	0.29
	0.39	0.43	0.42
	0.22	0.38	0.34
	0.27	0.39	0.36
	0.33	0.33	0.33
	0.36	0.31	0.32
	0.33	0.25	0.27
	0.34	0.32	0.32
	0.24	0.75	0.63
	0.24	0.62	0.53
	0.22	2.28	1.78
	0.29	0.59	0.52
	0.23	0.43	0.38

輸血療法委員会

【構成】

委員長：上野 安孝 副院長

委員：12名

(医師、看護師長、看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務局より構成。自己血責任医師2名、学会認定自己血輸血看護師2名、認定輸血検査技師1名を含む)

【活動状況】

今年度は、昨今の輸血医療を取り巻く情勢により適応し、安全かつ円滑な輸血療法をさらに推進することを目的として、従来の運用の見直し・改定に重点を置き活動した。また、安全で適正な輸血療法を目的として、輸血医療に携わる全職種を対象としての教育活動も行い、輸血に関する知識や安全性の啓蒙と各部署・職種間連携の強化をはかった。

血液製剤の供給体制や依頼・使用状況、副作用情報などについても、年間6回の委員会を開催し、報告を行った。

1. 輸血実績

(1) 血液製剤等使用量 (平成25年4月～平成26年3月)

輸血依頼総件数	1,871件	
輸血患者数(年通算)	712名	
血液製剤総使用量	7,228単位	(2,948本)
赤血球製剤(Ir-RCC-LR)	3,233単位	(1,617本)
新鮮凍結血漿(FFP-LR)	1,128単位	(564本)
血小板製剤(Ir-PC-LR)	2,250単位	(225本)
自己血(貯血式)	617単位	(542本)
自己血(回収式)	93,006mL	(181件)
アルブミン製剤	6967.5g	(626本)

(2) 貯血式自己血貯血量 (平成25年4月～平成26年3月)

症例数	181件	
自己血貯血量	657単位	(582本)

(3) 輸血管理料

前年に引き続き、輸血管理料(I)および適正使用加算(I)の算定条件を満たしている。主に自己血輸血を伴う手術症例数の増加に伴い、今年度は829件が算定対象となった。

2. 副作用管理と監視体制

(1) 輸血副作用報告

輸血副作用ガイドライン（日本輸血・細胞治療学会）に沿って、症状を17項目に分類、製剤ごとの報告とした。輸血中・後の副作用報告は57件、いずれも非溶血性副作用のみで、中等度以上と判定されたものはなかった。

症状ごとの分類では、発熱ないし熱感・ほてりが計27件と報告の半数近くを占めていたが、輸血前からの発熱および術中術後の発熱と明確に鑑別される例は認められなかった。

輸血副作用報告件数（症状別・製剤別）

症状項目		報告数（重複あり）				
		RCC	FFP	PC	自己血	計
1	発熱	17	3	1	2	23
2	悪寒・戦慄	1				1
3	熱感・ほてり	3		1		4
4	掻痒感・かゆみ	2		2		4
5	発赤・顔面紅潮	4		2		6
6	発疹・蕁麻疹	2		2		4
7	呼吸困難					
8	嘔気・嘔吐					
9	胸痛・腹痛・腰背部痛					
10	頭痛・頭重感					
11	血圧低下					
12	血圧上昇	3		2		5
13	動悸・頻脈					
14	血管痛					
15	意識障害					
16	赤褐色尿（血色素尿）					
17	その他	3		1		4
計		35	3	11	2	—

(2) 輸血前後感染症マーカー検査

「輸血療法の実施に関する指針」にのっとり、輸血前感染症マーカー検査469件、輸血後感染症マーカー検査98件を実施した。輸血後肝炎をはじめとした感染性輸血副作用は認められなかった。

(3) 遡及調査

日本赤十字社からの通知による遡及調査対象は8件であった。

前年度同様、すべて日本赤十字社の献血者血液適合判定基準引き上げに伴うものであり、受血者の健康被害につながるものは認められなかった。

当該製剤の調査対象期間が平成11年～平成24年と長い期間に渡るものであったが、輸血用血液製剤の使用記録保管と検索システムの強化により、すべての製剤において使用状況を追跡することが可能であった。

3. 院内体制の整備

(1) 自己血貯血・輸血に関する同意書・説明書の改定

自己血貯血・輸血の件数増加に伴い、より円滑に業務が進められるよう、一部運用を変更し、「自己血貯血・輸血に関する同意書・説明書」を改定した。

4. 適正使用の推進

(1) 輸血前後感染症検査の実施啓蒙

日本赤十字社からの献血者由来の HIV 感染症例の発表と、それに伴う厚生労働省からの輸血前後感染症検査の推進に関する通知により、検査実施率向上に向けての啓蒙を行った。

5. 教育活動

院内職員を対象に、輸血療法に関する研修を行った。また、輸血療法委員会委員もその教育活動に講師として参加・協力した。

(1) 院内研修会（医療安全対策室共催、平成 26 年 1 月 20 日）

「輸血用血液製剤の取り扱い」	山口県赤十字血液センター 学術・品質情報課 課長	吉山里美
「学会認定自己血輸血責任医師」	副院長 学会認定自己血責任医師	前田博敬
「自己血輸血学会認定看護師の役割と 当院の自己血採血の現状」	主任看護師 学会認定自己血輸血看護師	永井千春

(2) 新人看護職員研修（平成 25 年 8 月 20 日）

「検体に関する注意事項」	副主任 臨床検査技師 認定輸血検査技師	大菌 優子
--------------	------------------------	-------

6. 対外活動

(1) 山口県輸血療法委員会合同会議への出席

山口県健康福祉部薬務課主催の山口県輸血療法委員会合同会議へ出席し、山口県内の献血および血液製剤の供給・使用状況について協議を行った。

(2) 輸血用血液の供給に関する懇談会への出席

山口県赤十字血液センター主催の懇談会へ出席し、中四国地方をブロック単位とする赤十字血液センターの広域運営体制に関する諸問題、および、6 月より稼動開始した西部供給出張所（下関市・山陽小野田市を管轄）による血液製剤供給体制に関する問題点について、県内医療機関の代表者とともに協議した。

(3) 各種調査への協力

厚生労働省をはじめとする種々の輸血療法関連調査について、調査協力および回答を行った。

血液事業の広域運営体制に関する調査	日本赤十字社
輸血療法の実施に関する調査	山口県健康福祉部薬務課
輸血用血液製剤の供給に関する懇談会に関する調査	山口県赤十字血液センター
山口県輸血療法委員会合同会議事前調査	山口県健康福祉部薬務局
血液製剤使用実態調査	厚生労働省医薬食品局血液対策課
輸血業務に関する総合的調査	厚生労働省医薬食品局血液対策課
輸血製剤年間使用量に関する総合的調査	厚生労働省医薬食品局血液対策課
輸血用血液製剤及び関連業務に関する調査	日本赤十字社

治験審査委員会

【目的】 医薬品の臨床試験の実施に関する省令 (GCP) により病院長による設置が義務付けられ、治験依頼者（製薬会社）が立案した治験計画が、科学的、倫理的及び医学的に適正であるか、さらに被験者の立場に立ち、その治験の実施が妥当かどうか等、治験を実施するにあたり必要な事項について審議する。

【委員構成】

医師 3 名、薬剤師 1 名、看護師 1 名、事務局職員 2 名、外部委員 2 名の計 9 名

【平成 25 年度開催実績】 年 12 回

【平成 25 年度実績】 昨年度から実施の治験に加えて医療機器の S J - 1 1 0 0 1 および M R S A 感染症に対する B A Y 1 1 9 2 6 3 1 が新規に承認され開始、原発性骨粗鬆症に対する H C - 5 8 のがんに対する追跡調査 (約 2 年半) が開始された。

治験名称	依頼会社名	診療科
原発性骨粗鬆症に対する HC-58 の第Ⅲ相臨床試験 - 椎体骨折抑制効果及び安全性について、プラセボを対照とした二重盲検比較試験	旭化成ファーマ株式会社	整形外科
原発性骨粗鬆症に対する HC-58 の第Ⅲ相臨床試験のがんに関する追跡調査		
腰椎椎間板ヘルニア患者を対象とした SI-6603 のプラセボに対する優越性検証試験 (第Ⅲ相試験)	生化学工業株式会社	整形外科
NSAID 長期投与時の胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制における、TAK-438 (10mg、20mg) の第 3 相二重盲検比較試験	武田薬品工業株式会社	整形外科
NSAID 長期投与時の胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制における、TAK-438 (10mg、20mg) の第 3 相長期継続投与試験		
C.difficile 感染症に対する抗菌薬治療を受けている患者を対象とした MK-6072(C.difficile トキシン B に対するヒトモノクローナル抗体) 及び MK-3415A(C.difficile トキシン A 及びトキシン B それぞれに対するヒトモノクローナル抗体) の単回投与による有効性、安全性及び忍容性についての第Ⅲ相二重盲検無作為化プラセボ対照試験 (MODIFY II)	MSD 株式会社	感染管理室 (呼吸器外科)
原発性骨粗鬆症による急性期脊椎圧迫骨折に対する SJ-11001-A と SJ-11001-B の安全性及び有効性を評価する多施設共同治験	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカルカンパニー	整形外科
日本人の MRSA 感染症 (皮膚・軟部組織感染症又はそれに伴う敗血症) 患者における BAY 1192631 の有効性及び安全性についてリネゾリドと比較検討することを目的とした多施設共同、前向き、実薬対照、無作為化、非盲検比較試験	バイエル薬品株式会社	感染管理室 (呼吸器外科)

なお、GCP 第 28 条により、治験業務手順書、治験審査委員会委員名簿、治験審査委員会の審議概要を平成 21 年 4 月から当院のホームページで公開している。

検体検査管理委員会

【精度管理調査】

平成 25 年度、日本臨床衛生検査技師会、日本医師会をはじめ、多くの精度管理調査に参加した。

日本臨床衛生検査技師会の成績は、参加したすべての分野（臨床化学、免疫血清、微生物、一般、病理、細胞、血液、輸血、生理）において 100%であった。日本医師会の成績は、総合標点 99.5 点であり、D 判定はなかった。

ほか、主な院内精度管理は、

生化学検査	：	市販コントロール血清（毎日）
血清学検査	：	市販コントロール血清（毎日）
一般検査	：	市販コントロール試料（毎日）
血液検査	：	市販コントロール試料（毎日）
血中薬物検査	：	市販コントロール血清（1 回 / 週）
アレルギー検査	：	市販コントロール血清（測定時）
血液ガス分析検査	：	市販コントロール試料（1 回 / 週）
凝固線溶検査	：	市販コントロール血漿（毎日）
輸血関連検査	：	市販コントロール試料（毎日）
糖尿病関連検査	：	市販コントロール試料（毎日）

外部精度管理

血液学的検査	：	QAP (シスメックス 2 回 / 年)
	：	山口県臨床検査技師会サーベイ (1 回 / 年)
生化学的検査	：	QAP (シスメックス 1 回 / 月)
	：	山口県臨床検査技師会サーベイ (1 回 / 年)
微生物学的検査	：	山口県臨床検査技師会サーベイ (1 回 / 年)
組織・細胞検査	：	山口県臨床検査技師会サーベイ (1 回 / 年)
輸血検査	：	山口県臨床検査技師会サーベイ (1 回 / 年)
生理検査	：	山口県臨床検査技師会サーベイ (1 回 / 年)

上記以外にも、多くのメーカー精度管理を実施、参加した。

【検体検査管理加算】

当院は、検体検査管理加算Ⅱを届出ている。

【精度保証施設認証】

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会が認定している「精度保証施設認証」を申請し、2014 年 4 月 1 日より 2 年間、精度保証施設として認証を受けた。

診療録管理委員会

当委員会は診療録の管理に関する諸問題を解決するための活動を行っている。

定期的に小委員会を予定し、未整理カルテの把握や督促を行い、必要に応じ、他の委員も出席する総会を開催し、方針や決定事項を確認している。

構成スタッフは白澤（委員長、整形外科部長）、吉武、下村、藤田（病歴室、入院診療録関係）、下野（メディカルサービス、外来診療録関係）、岩本（医事班長）が担当している。

安全管理委員会

Ⅰ 安全管理委員会（毎月第4水曜日開催）12回／年開催

医療事故を防止するためには、医療に係る各職員がその必要性和重要性を自分の課題と認識して事故防止に努め、医療の質の向上を図るとともに事故防止体制を確立することが必要である。この目的に鑑み、当委員会は平成14年に発足し、以下の4つの部会（1）リスクマネジメント部会、（2）インシデント事例検討部会、（3）各種ワーキングチーム、（4）ヒヤリ・ハットミーティング、（5）医療案件検討部会を基盤としている。

コミュニケーションが良好であれば医療事故は減少することを提唱した「松本宣言」に振り返り、さらに平成25年度も、大目標に「院内コミュニケーションの改善」を掲げ、部署ごとに多職種間で中目標、小目標（具体的行動）を設定し取り組んだ。

また、院内自殺対策の一環として、平成25年度に発生した、入院患者さんの転落自殺事故から、2階以上の全ての階の窓の解放制限を行い、故意に転落できないように対策を講じた。

医療安全対策室を活動母体としては、以下のことを行った。

平成25年度に実施したマニュアルや手順書の改正と承認は以下の通りである。

- 自殺企図対応マニュアル作成・・ホットスポット対策（2階以上の階の窓に開放制限）
- 抗悪性腫瘍剤を除く血管外漏出対応マニュアル作成
- 暴言暴力対応マニュアル改定
- 転倒転落マニュアル改定：頭部打撲時の対応フロー、記録様式作成
- 注射器の使用基準作成
- 放射線部払い出しのDVD・CD運用マニュアル作成
- 肺血栓塞栓症 / 深部静脈血栓塞栓症ガイドライン改正（エラスコットなど）
- 院内各部署患者確認マニュアル作成及び改正
- 患者カルテ2重登録時の対応マニュアル作成
- RI検査施行患者の排泄物対応マニュアル追加（外来対応）
- 院内時計を合わせましょう：手順書作成
- 手術室麻薬運用手順書作成（薬剤部・OP室と共に）・・麻薬落下インシデントより
- 術前注意薬の外来服薬指導手順とマニュアル作成・・術前患者の外来服薬指導の不備により手術延期等のインシデントから
- 救急カート運用手順書作成
- 宗教的輸血拒否患者の対応マニュアル使用開始

【医療安全講演会】

①「インフォームドコンセントの要件」 講師：慶應義塾大学准教授 前田正一

②第9回院内リスクマネジメント大会（○は優秀賞獲得）

年間報告：医療安全対策室室長補佐 福住恵子

発表部署：医局 研修医が見たヒヤリ・ハット

検査部 信頼できるデータのために

○外来 ザ・チーム医療

（薬剤師さんのおかげで中止薬の説明がスムーズになりました）

5 E 掲示板にも落とし穴

II リスクマネジメント部会（毎月第2木曜日開催）11回／年開催

安全管理・医療事故防止などに関する重要事項について、院内全部署から選ばれたリスクマネージャーが真剣に討議し有効な対策を提案し、安全管理委員会に議案を提出し、決定事項については安全管理委員会よりリスクマネジメント部会および院内に広報した。

インシデント事例報告については、高リスクレベルあるいは発生頻度が多い事例について例会で検討し、部会に通知した。また適宜、インシデント報告の状況を報告した。

III インシデント事例検討部会（毎月第3金曜日開催）12回／年開催

提出されたすべてのインシデント・アクシデント報告（ヒヤリハット報告含む）について、安全管理委員会委員長ほか9名のメンバーが全事例を確認し、対策の必要度をトリアージしている。取り上げた事例について関連部署でSHEL分析し、リスクマネジメント部会で報告した。また、ヒヤリ・ハットミーティング報告事例は事例検討部会に還元した。

インシデント・アクシデント報告（転倒転落事故報告含む）の25年度集計は後半に示す（平成25年4月～平成26年3月発生状況）。

IV リスクマネジメント・マニュアル部会

本部会は、医療安全対策室と協力し、リスクマネジメント部会を充実させるための企画立案を行っていく重要な役割を担っている。発生したインシデント事例を組織横断的にSHEL分析し、事故防止のシステム作りに生かしていくマニュアル案の作成が主たる業務である。本年度も、主としてワーキングチームを結成して取り組んだ。

平成25年度は昨年度のワーキングチームを温存し、新たにBLS講習会チームメンバーに3名の看護師を加えた。（＊印）（●はリーダー）

①肺血栓塞栓症／深部静脈血栓塞栓症予防ガイドラインの改正

●心臓血管外科部長：上野安孝

呼吸器外科部長：吉田順一

産婦人科部長：川崎憲欣

循環器科部長：金子武生

リハビリテーション科医長：山下彰久

薬剤部主任：西嶋博子

産科病棟主任助産師：末永清美

整形病棟主任看護師：原田紀子

医療安全対策室室長補佐：福住恵子

② B L S 講習会

- 小児科病棟看護師：久木山久美子 I C U 看護師：堂下美保、竹内陽子
4 E 看護師：谷畔由香 4 W 主任看護師：大久保典子
小児科病棟看護師：石村未央 産科婦人科病棟：藤井三津
* 4 W 副主任看護師：田中久枝、吉松幸代
* 救急センター看護師：工藤真理子 医療安全対策室室長補佐：福住恵子

③ 転倒転落防止対策チーム

- リハビリテーション科医長：山下彰久 臨床工学部技師長：松原伸夫
主任薬剤師：平岡ひろ子 3 E 副主任看護師：戸根崇子
4 E 看護師：福田一恵 小児科外来主任看護師：発田正美
5 E 副主任看護師：吉田英子 5 W 看護師：田口桂子
6 E 師長：平田理恵 リハビリテーション科主任：安部裕美子
事務部医事グループ主事：草永晋太郎（医療安全対策室員）主任看護師：西野京子、
産科・小児棟師長：大平佳子、放射線部技師長：三隅美津枝、
4 W 主任看護師：大久保典子、医療安全対策室室長補佐：福住恵子

④ ドレン・チューブ類固定標準化チーム

- 皮膚排泄ケア認定看護師：藤重淳子 感染管理認定看護師：浅野郁代
手術室主任看護師：原田久美子 救命センター主任看護師：津森千佳子
I C U 副主任看護師：竹内陽子 （医療安全対策室員）主任看護師：西野京子、
産科・小児棟師長：大平佳子、医療安全対策室室長補佐：福住恵子

⑤ 宗教的輸血拒否患者対応ガイドライン作成チーム

- 副院長（心臓血管外科）：上野安孝 副院長（内科）真弓武仁
呼吸器外科部長：吉田順一 産婦人科部長：川崎憲欣
小児科部長：河野祥二 麻酔科部長：兒嶋四郎
消化器内科医長：王寺裕 整形外科医長：山下彰久
医療安全対策室副室長：福住恵子

⑥ 血管外漏出対策ワーキングチーム

- 脳神経外科医師：尾中貞夫 皮膚科部長：内田寛
皮膚排泄ケア認定看護師：藤重淳子 副主任薬剤師：木村仁美
6 E 副主任看護師：高比良里枝 5 W 副主任看護師：小田恵子
4 W 看護師：深町雪乃 小児棟副師長：大平佳子
4 E 副主任看護師：福田一恵 I C U 副主任看護師：青木由希
3 E 看護師：岡本美沙 がん化学療法認定看護師：平田雅子
産科主任助産師：山中裕子 救急センター看護師：工藤真理子
医療安全対策室室長補佐：福住恵子 主任看護師：大久保典子

⑦インスリン関連ワーキング

●循環器科医師：伊奈雄二郎

副院長：前田博敬

5 E 主任看護師：福田真純

産科・小児棟師長：大平佳子

I C U 副主任看護師：福田正子

臨床工学部技師長：松原伸夫

医療安全対策室室員）副主任看護師：大久保典子、放射線部技師長：三隅美津枝、

副室長：福住恵子、医事グループ長補佐：岩本秀樹

副院長：真弓武仁

6 E 主任看護師：平田理枝

3 E 副主任看護師：春日馨

外来主任看護師：発田正美

主任薬剤師：平岡ひろ子

情報管理班班長：渡邊耕平

V 医療案件検討部会（開催は必要に応じて随時）4回／年

平成 25 年度は緊急案件 4 件を審議検討した。

部会メンバーは、安全管理委員会及び関係科・部署の責任者を構成メンバーとした。

リスクレベル 3 以上の事例、または対応に苦慮している事例、他部署から疑義が出た事例について、病院としての考え方、対応のあり方、倫理上の問題を組織横断的に検討した。開催した事例の関連科の医師・看護師からは、有意義な会であったとの評価を得た。審議結果を事例を通して看護部、医局等へ還元した。

VI ヒヤリ・ハットミーティング（毎月第 1・3 月曜日開催）17 回／年

（平成 22 年 11 月～開始）

インシデント・アクシデント報告のうち、リスクレベルの高いもの、早期に対応を要する事例、医療上のクレームなどを選択し、幹部職員に報告、早期に指示を得ることを目的として開催している。内容によっては早めの方針決定や医師への周知が必要なものがあり、My-Web や関連会議で周知・確認を行った。

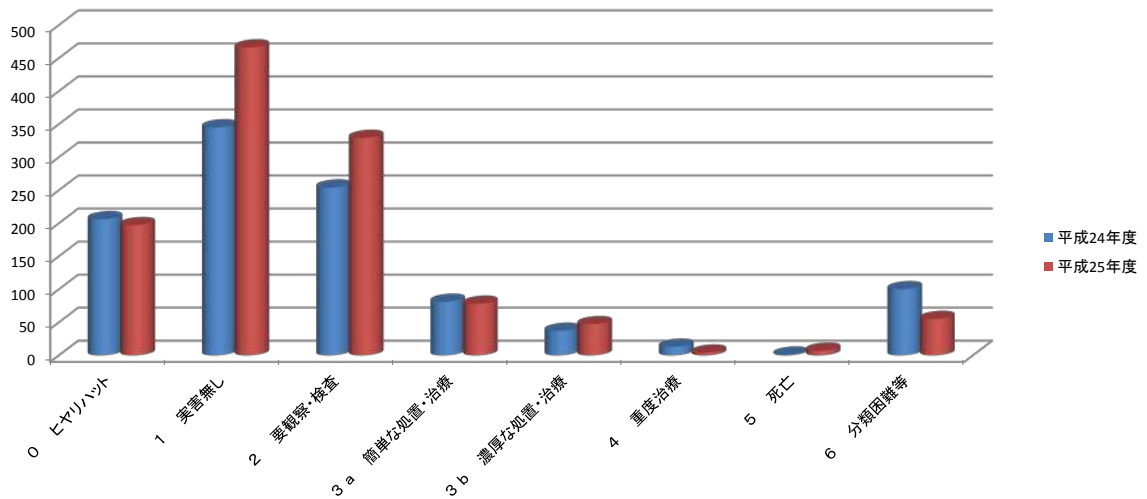
VII インシデント・アクシデント報告数：1,202 件／年（転倒転落を含む）168 件増加

リスクレベル分類の 0～5 については多くの施設が採用している分類である。

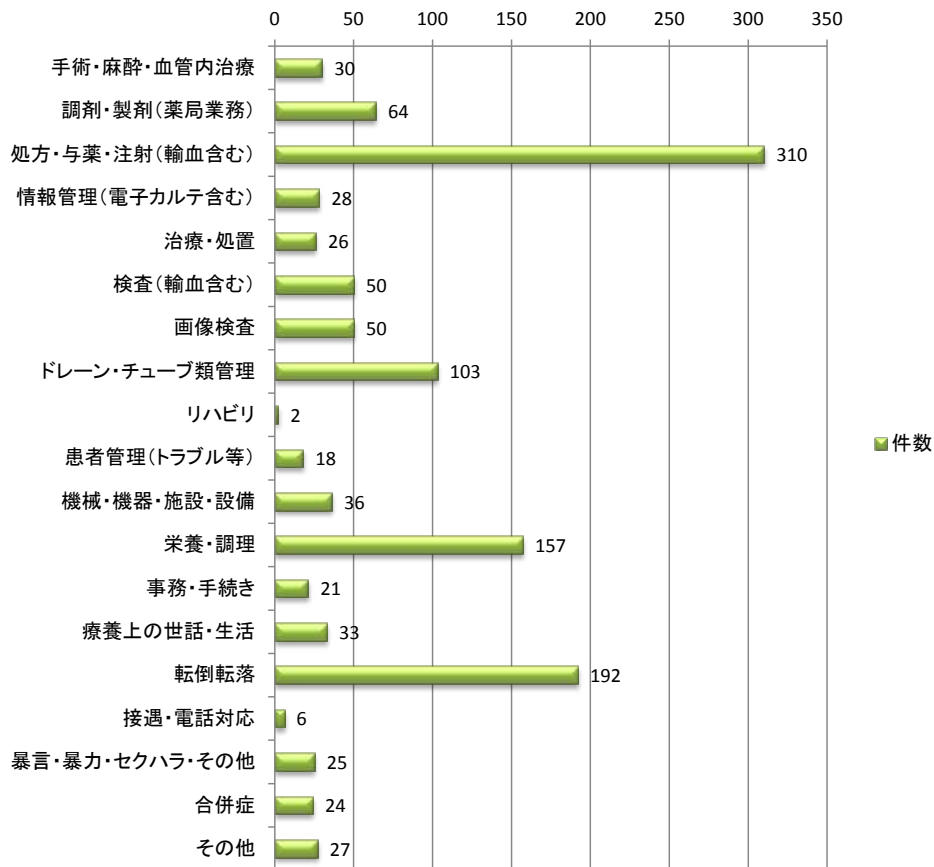
当院では、患者に実施されるものではない医療に関連したクレーム、医薬品の紛失・破損、医療従事者に発生したもの、分類困難なもの等、広く収集するためにリスクレベル 6 を設定している。

平成 25 年度の年間報告数は 1,202 件であった。当院での領域別報告数の上位は、1 位：処方・与薬・注射、2 位：転倒転落、3 位：栄養・調理、4 位：ドレン・チューブ管理、5 位：調剤・製剤（薬局業務）で昨年度同様の順位であった。（別項に報告）

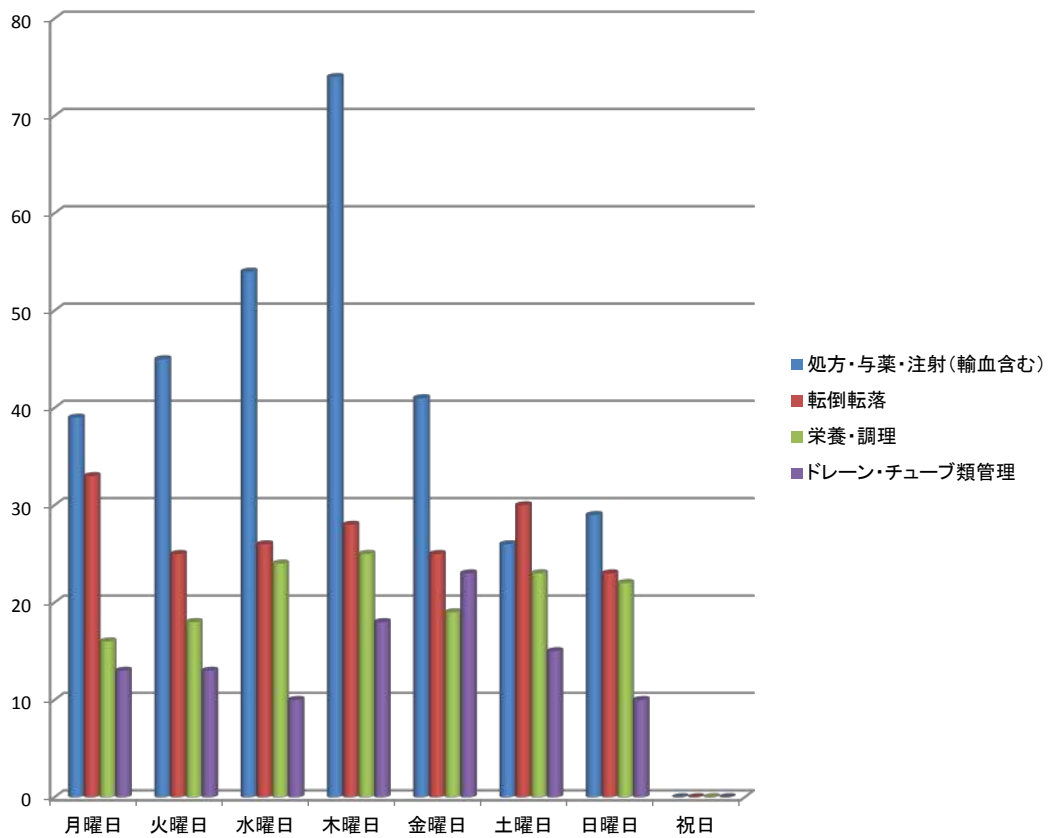
<リスクレベル別発生件数>



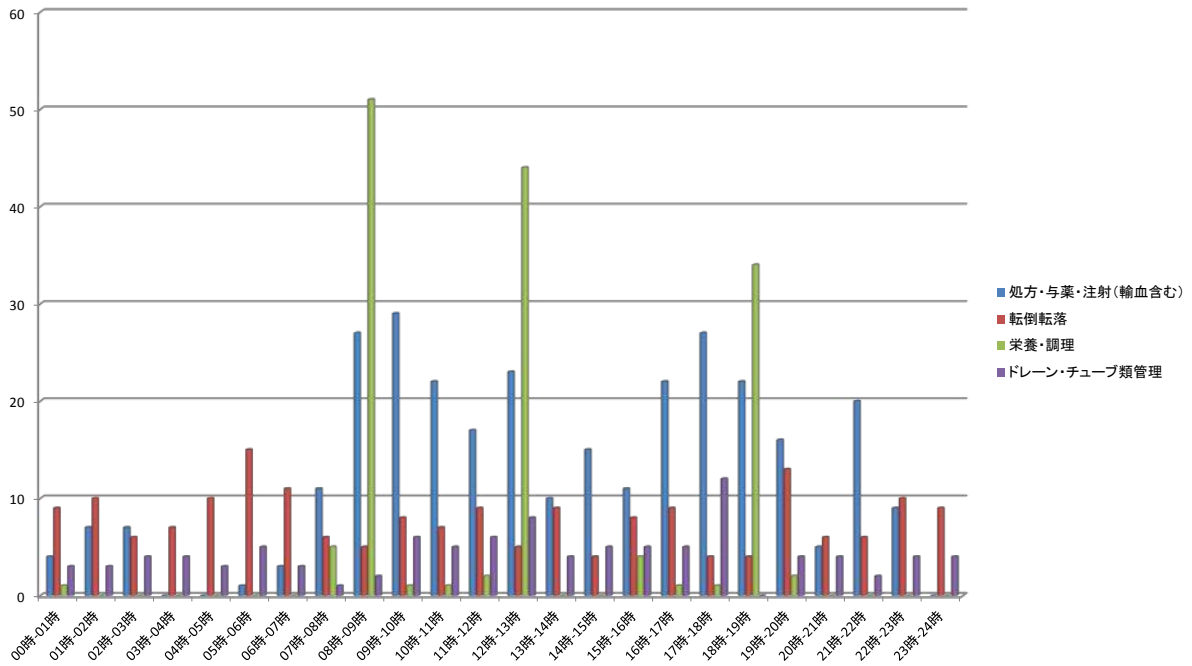
<インシデント・アクシデント報告 出来事の領域分類>



<報告数上位4位の曜日別>



<報告数上位4位の時間帯別>



安全管理委員会委員名簿（平成 25 年 4 月 1 日現在）

委員会役職名	氏 名	院内役職名
委員長	前 田 博 敬	副院長・医療安全対策室室長
副委員長(第一)	上 野 安 孝	副院長・医療機器安全管理責任者
副委員長(第二)	福 住 恵 子	医療安全対策室室長補佐(看護師長)
委 員	真 弓 武 仁	副院長
〃	坂 井 尚 二	副院長
〃	吉 田 順 一	感染管理室・室長
〃	吉 弘 悟	医局幹事
〃	川 元 博 之	検査部技師長
〃	湯 本 ひとみ	看護部長
〃	平 田 紀 子	薬局長・医薬品安全管理責任者
〃	大 津 修 一	参与
〃	吉 田 初 已	事務部長
〃	吉 川 英 俊	事務部次長(経営企画グループ長)
〃	濱 村 勝	医事グループ長
〃	岩 本 秀 樹	医事グループ長補佐(医事班長)
オブザーバー	小 柳 信 洋	院 長

※委員の任期は、平成 24 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

リスクマネジメント部会（平成 25 年 4 月 1 日現在）

委員会役職名	氏 名	院内役職名
部会長	前 田 博 敬	副院長
副部会長	福 住 恵 子	医療安全対策室・室長補佐
部会員	小 柳 信 洋	院長
〃	上 野 安 孝	副院長
〃	坂 井 尚 二	副院長
〃	川 崎 憲 欣	産婦人科部長
〃	兒 嶋 四 郎	麻酔科部長
〃	中 村 隆 治	脳神経外科部長
〃	河 野 祥 二	小児科部長
〃	金 子 武 生	循環器内科部長
〃	平 俊 明	耳鼻咽喉科部長
〃	井 上 政 昭	呼吸器外科部長
〃	中 原 千 尋	救急科部長
〃	長 畑 佐和子	歯科・歯科口腔外科医師
〃	久 保 安 孝	血液内科医長
〃	河 田 うしを	副看護部長
〃	山 中 裕 子	主任（産科・小児科）
〃	大 平 佳 子	看護師長（産科・小児科）
〃	松 田 美穂子	主任（3階東）
〃	福 田 一 恵	副主任（4階東）
〃	深 町 雪 乃	副主任（4階西）
〃	吉 田 英 子	副主任（5階東）
〃	福 田 真 純	主任（5階西）
〃	平 田 理 枝	看護師長（6階東）
〃	大 藤 由美子	副主任（手術室）
〃	石 田 清 子	看護師長（救命センター）
〃	福 田 正 子	副主任（救命センター）
〃	松 田 愛 子	主任（人工透析室）
〃	上 野 妙 子	副主任（救急センター）
〃	藤 村 美代子	看護師長（外来）
〃	野 村 幸 子	主任（整形外科外来）
〃	西 野 京 子	主任（外科外来）
〃	安 部 裕美子	リハビリテーション科主査
〃	三 隅 美津枝	放射線部技師長
〃	川 元 博 之	検査部技師長
〃	松 原 伸 夫	臨床工学部技師長
〃	平 田 紀 子	薬局長
〃	香 河 里江子	薬局主任
〃	中 川 初 美	栄養管理部主任
〃	吉 見 文 子	栄養士（栄養管理部）
〃	鈴 木 幸	地域医療連携室副主任
〃	大久保 典 子	医療安全対策室
〃	濱 村 勝	医事グループ長
〃	岩 本 秀 樹	医事グループ長補佐
〃	神 西 善 夫	経営企画グループ経営戦略班長

インシデント報告書事例検討会（平成 25 年 4 月 1 日現在）

部会役職名	氏 名	院内役職名
部会長	福 住 恵 子	医療安全対策室室長補佐
部会員	前 田 博 敬	副院長
〃	河 田 うしを	副看護部長
〃	三 隅 美津枝	技師長（放射線部）
〃	西 野 京 子	主任（外科外来）
〃	大 平 佳 子	看護師長（産科・小児病棟）
〃	山 中 裕 子	主任看護師（産科病棟）
〃	林 祥 子	副主任（薬局）
〃	大久保 典 子	医療安全対策室主任
〃	岩 本 秀 樹	医事グループ長補佐（医事班長）

褥瘡対策委員会

【目的】 入院患者様に安全で快適な療養環境を提供するために、褥瘡予防・治療上における各職種の専門性を生かした対策を検討し、全職員へ周知、徹底させる。

【活動概要】 褥瘡対策委員会は毎月1回定期的に開催し、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士および理学療法士等、多職種で構成されており、褥瘡対策に関する協議、症例検討を行っている。NST運営委員会と合同で委員会を開催し、栄養面から褥瘡の治癒をサポートできる体制を構築している。褥瘡の予防、治癒環境を整えるためのカンファレンス、回診を週に1回実施している。

【平成25年度褥瘡発生に関するデータ】

院内褥瘡発生率 1.6%

<年間発生数>

院内発生	109件	院外発生	104件
------	------	------	------

<疾患別>

	がん	骨・関節疾患	脊髄疾患	循環器疾患	脳血管疾患	肺炎	その他
院内発生	30件	29件	10件	15件	7件	5件	13件
院外発生	10件	19件	7件	5件	10件	18件	35件

<部位別>

	仙骨	踵	大転子	腸骨	尾骨	坐骨	その他
院内発生	49件	26件	4件	1件	4件	4件	21件
院外発生	36件	10件	19件	3件	5件	5件	26件

<転帰別>

	死亡	治癒	自宅	転院	現在入院中
院内発生	14件	58件	5件	31件	1件
院外発生	11件	53件	5件	33件	2件

【平成25年度研修内容】

- 新人看護職員研修（移動・移乗、褥瘡予防）
- ポジショニング演習
- おむつの当て方勉強会
- 創傷治療システム（V.A.C.CATS治療システム）説明会

栄養管理委員会

【目的】

当委員会は、院内における栄養管理業務の円滑な運営と、その質の向上を図ることを目的としている。

【構成】

委員長：平 俊明 耳鼻咽喉科部長（栄養管理部長兼務）

副委員長：前田博敬 副院長

委員：医師 3 名、主任看護師 3 名、主任管理栄養士 1 名、事務局 3 名

【活動状況】

会議は 3 回の定例会議を開催した。審議内容は以下のとおりである。

◇平成 25 年度運営方針および事業計画の立案

事業計画を実施するための具体的な内容検討を行った。

- ① 嚥下食基準の確立と試食による内容確認
- ② 緩和食（にこにこ食）の名称の決定と内容確認
- ③ 誕生日のお祝いの試食と内容確認
- ④ 栄養士病棟制と栄養指導のあり方～指導件数の増加と入院時の特別食への変更と指導依頼の具体的な手順

◇治療食栄養成分表の改正

現在の入院患者の年齢構成にあわせ、軟菜米飯食の基準 1800kcal から 1500kcal へ変更。嚥下食、経口移行食と濃厚流動食の新規採用と削除する商品の検討を行った。

◇入院患者の食事アンケート結果について（H25.5 と H25.9）

栄養管理部で行った入院患者に対する年 2 回の食事アンケートの結果、みんなの声について評価を行った。併せて、患者からの意見や検食担当医師からの評価を踏まえ、給食委託の現状について検討を行い、委員会として改善を提言した。

◇給食業務委託について

給食業務の委託業者の入札方法、10 月以降の契約について委員会として再度評価を行った。

◇委託業務（配膳・配茶）について

衛生管理の観点から、湯呑みと箸の洗浄と配膳を栄養管理部の直営または、現在の給食委託業者での実施の検討を行った。

このうち、審議内容やその結果により院内への周知が必要な事項については、関係各部署への周知を行った。

広報年報委員会

(対象：2013年1月～12月)

平成24年4月に法人化し、病院名も下関市立市民病院と改まり、これに同期させてインターネット公式サイトも一新されました。これに1年遅れましたが、平成25年4月から、それまで3種あった広報紙を「まごころ」に統一しました。この広報紙の名称は、公募された中から、病院のロゴでオレンジを基調とし、「心」字をイメージしたものとして採用されました。そこで年報としては、旧制度と新制度に分けて報告します。

●平成25年3月まで

①ブリッジ（医療連携の方向け）60号（3月発行）

表紙は「おくぞの耳鼻科クリニック」院長奥園美子先生に玉稿いただきました。内容では、地域がん診療連携拠点病院として行われた市民公開講座「緩和医療」についての報告がありました。これらの特集は、「まごころ」においても継続されています。

②スクラム（職員向け）2月15日発行

患者さまアンケート結果や、職員ボランティアによる花植隊と新春コンサートについて広報しました。これらの行事も、「まごころ」に引き継がれます。

③ふくふく通信（患者さま向け）41号（2月15日発行）

院長による新年のあいさつと、乳がん患者の会フォワードの紹介などを報告しました。以上にて、3誌は心機一転、次の広報紙に引き継ぎました。

●平成25年春より

紙質も改善した「まごころ」の印刷版を地域の約400施設に送付し、また病院公式ホームページにも掲載しています。

【創刊号】5月15日発刊

表紙を飾ったのは、正面玄関にて多数の職員が、やや冷たい風に立ち向かう姿の集合写真です。内容は、法人化一周年記念講演などを紹介しました。地域の連携医療機関を紹介する「地域の絆」というコーナーでは、いとう脳神経外科・外科クリニック院長伊藤正治先生と吉本医院院長吉本正博先生からお言葉をいただきました。また、「がん拠点病院コーナー」を連載としてスタートさせました。

【夏号】8月15日発刊

「地域の絆」は海老原循環器科・内科院長海老原博徳先生と、昭和病院理事長吉水一郎先生に玉稿賜りました。特集は、「CKD（慢性腎臓病）について」報告しました。職員紹介では、救急科の松田医師が、東日本大震災のその日に石巻赤十字病院に在職していた貴重な体験を伝えました。

【秋号】11月15日発刊

「地域の絆」は、野村整形外科・眼科医院院長野村茂治先生と、安岡病院院長戸田健一先生に執筆賜りました。特集は、循環器内科について報告しました。また、連載の「認定看護師だより」では、緩和ケア認定看護師がコラムで伝えています。

衛生委員会

本委員会は、労働安全衛生法の規程に基づき設置される委員会です。

委員会では

- 1 職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること
- 2 職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること
- 3 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生にかかるものに関すること

などを調査審議しています。

平成 25 年度も毎月第 2 金曜日に衛生委員会を開催し、ラウンドで院内の衛生、危険箇所について点検を行い、その対応について協議を行いました。

また、過重労働対策として月に 80 時間以上の時間外勤務を行った職員の疲労度チェックを実施し、必要に応じて産業医の面談を行うこととしました。

その他、平成 25 年 7 月から実施された敷地内禁煙対策や、職員の心のケアを図る目的でメンタルヘルス相談等に取り組んでいます。

今後も職員の労働安全衛生に取り組んで参ります。

倫理委員会

平成25年度の倫理委員会活動報告をします。

合計9回の委員会が開催され、12件の案件が審議されました。結果、12件全部が承認された次第です。

最近の傾向として、患者様への負担浸襲もほとんど無い（例えば静脈血採血1本だけ）案件でも倫理委員会に懸けるようになって来ています。もちろん採血1本でもその後の個人情報管理という観点から見れば研究の重要度に差はないといえます。看護研究に関する案件も今後益々増えてくるでしょう。病院の活性化から見ても良いことだと思います。倫理委員会の委員が閉口するくらい審査依頼の案件が増えることを期待しています。

研修管理委員会

当委員会は、下関市立市民病院群の臨床研修について具体的事項の立案・計画を行なうことを目的とし、6人の外部委員を含む27名の委員で構成されている。

平成25年度における活動実績は、次のとおりであった。

1. 初期臨床研修医数

- (1) 基幹型 2年次 1名
- (2) 協力型 1年次 3名（九州大学）

2. 協力病院での研修

- (1) 地域医療（2年次） 下関市立豊田中央病院、昭和病院
- (2) 精神科（1・2年次） 下関病院

3. 活動状況

- (1) 早朝講義（研修医及び院内関係者が受講。内容は別表のとおり）
- (2) 研修医合同説明会への参加
 - レジナビフェア（6／30 大阪、3／2 福岡）
 - レジフェア（9／22 福岡）
- (3) 九州大学病院群及び山口大学病院群の病院説明会への参加
- (4) 病院見学会の開催（6回）

平成 25 年度早朝講義日程表

月日	曜日	講 義 項 目	担 当	
4/8	月	医療人としてのマナー		小柳院長
4/9	火	保険診療	保険医	上野副院長
4/10	水	医療安全	医療安全	前田副院長
4/11	木	基本輸液	外科	石光部長
4/12	金	蘇生法	救急科	中原部長
4/15	月	泌尿器科の救急疾患	泌尿器科	吉弘部長
4/16	火	呼吸不全について	呼吸器外科	井上部長
4/17	水	耳鼻咽喉科のプライマリーケア	耳鼻咽喉科	平部長
4/18	木	輸血について	血液内科	久保医長
4/19	金	A M I と急性左心不全	循環器内科	金子部長
4/22	月	小児の救急患者対策（1）	小児科	河野部長
4/23	火	小児の救急患者対策（2）	小児科	河野部長
4/24	水	小児の救急患者対策（3）	小児外科	武本医師
4/25	木	皮膚科の救急疾患	皮膚科	内田部長
4/26	金	脳外科から当直の先生へ	脳神経外科	中村部長
5/7	火	急性腹症	外科	篠原部長
5/8	水	消化器病の救急	消化器内科	王寺医長
5/9	木	心臓血管外科領域の救急疾患	心臓血管外科	恩塚医長
5/10	金	眼科の救急疾患	眼科	登根医長
5/13	月	整形外科的初期治療	整形外科	白澤部長
5/14	火	摂食・嚥下ケア	看護部	高橋認定看護師
5/15	水	産婦人科の救急疾患	産婦人科	川崎部長
5/16	木	糖尿病の薬物療法	内科	真弓副院長
5/17	金	クスリのリスク	薬局	平田薬局長
5/20	月	感染管理	感染管理室	吉田部長
5/21	火	胸・腹部単純写真のみかた	放射線診断科	山砥医長
5/22	水	緊急検査のピットホール	検査部	川元技師長
5/23	木	研修医の先生方へお願い	放射線部	三隅技師長
5/24	金	口腔外科領域の救急治療について	歯科	入学部長
5/27	月	抗菌薬について	感染管理室	吉田部長
5/28	火	皮膚・排泄ケア	看護部	藤重認定看護師
5/29	水	栄養について	栄養管理部	中川主任

CS推進委員会

CS推進部会は、例年どおり毎月第2火曜日に開催し、「みんなの声」の投書に対する回答を含め病院のCSに関する改革について検討しています。

【患者さまアンケート】

例年どおり、平成25年11月と平成26年2月に外来患者さまと入院患者さまにアンケート調査のご協力を頂きました。その結果について小冊子にまとめ、正面玄関の掲示の前にて閲覧できるようにし、病院ホームページや、広報誌「まごころ」などでも公開しています。

結果は昨年度とあまり変わりませんでした。施設の老朽化に関する低い評価のものもありました。また、患者さまから病院についてご意見・感想を書いてもらい、高い評価とともに直接的な意見も多く参考になりました。

しかしながら、接遇や職員のマナーの問題、患者さまの金銭的負担（テレビ利用料など）など問題点もあるため、今後も検討と接遇に関する意識の統一が必要であると考えています。

【その他の活動】

今年度も、「朝のあいさつ運動」「花を植える運動」「院内飾りつけ」など職員の意見からの試みが多くなされました。施設としては、立体駐車場が建設され駐車スペースの確保がなされました。また、寄付金により正面玄関バス停近くの花壇の整備がなされました。

今後も職員一同、市民の信頼を得る病院になるよう様々な企画を行い意識改革ならびに実践ができればと考えています。

クリニカルパス推進委員会

本委員会は、以下のことを審議・実施することを使命として、活動しています。

- (1) 新たなクリニカルパスの作成に関する事項
- (2) 使用中のクリニカルパスの見直しに関する事項
- (3) その他クリニカルパスの推進に関する必要な事項

平成 25 年度の委員会は、委員長：川崎憲欣、副委員長：上野安孝、中村隆治、小戸美智子、下野美奈の他、委員 36 名で構成しましたが、医師 7 名、看護師 23 名、検査技師 1 名、放射線技師 1 名、薬剤師 1 名、理学療法士 2 名、栄養士 1 名、臨床工学士 1 名、ソーシャルワーカー 1 名、事務 3 名と、他職種から集まっています。

活動内容としては、次のとおりです。

- # 月 1 回の委員会会議
- # 審査、作成支援など小委員会に分かれて、適時に活動
- # それぞれの分担下での、クリニカルパス管理
- # 大腿骨頸部骨折・脳卒中地域連携パス（下関市の研究会に出席）・がん地域連携パスを通して、地域医療連携に関与
- # 日本クリニカルパス学会主催の教育セミナー（7 月 20 日、於；大阪市、テーマ；クリニカルパスを役立てよう！～実践ノウハウ～ 2013）に参加（委員の中より 5 名）

クリニカルパスの見直しを進めるにあたって、使われているパスの評価が必要になってきますが、電子カルテ運用にあたり、アウトカム・バリエーション評価の入力のマニュアルを整備しました。

本年度内に作成された新規クリニカルパスは、5 診療科での 9 種でしたが、既存のパスにも精力的に見直しを行い、整理・改良を加えました。現在当院で作成・使用中のクリニカルパスは、以下のとおり計 96 種・15 診療科で（昨年度末は、計 102 種）、全入院患者の約 30% のケースで使用されていました。

内 科	下肢バイパス術	左人工膝関節置換術
糖尿病教育入院パス	脳神経外科	経皮的椎体形成術
消化器内科	両側・慢性硬膜下血腫手術(前日入院)	右大腿骨骨接合術
ポリペク	両側・慢性硬膜下血腫手術(当日)	左大腿骨骨接合術
内視鏡的胃粘膜下層剥離術クリニカルパス	慢性硬膜下血腫手術(前日入院)	右大腿骨人工骨頭置換術
	慢性硬膜下血腫手術(当日)	左大腿骨人工骨頭置換術
胃瘻造設	脳梗塞 14日間入院	抜釘術(上肢)
循環器内科	当日アンギオ	抜釘術(下肢)
心臓カテーテル検査	脳血管撮影	脊髄造影(ミエロ)CT
PCI	頭部外傷 3日間経過観察入院	腰椎後方椎体間固定術
ペースメーカー植え込み術	脳出血(手術なし)	頸椎椎弓形成術
ペースメーカー電池交換	産婦人科	MED法/内視鏡的椎間板摘出術
下肢アンギオ(左肘穿刺)	緊急帝王切開	右膝関節鏡(半月板縫合)
PTA(大腿穿刺)	腹式帝王切開	左膝関節鏡(半月板縫合)
腎臓内科	初産	関節鏡(右膝半月板切除)
PET(腹膜機能検査)	経産	関節鏡(左膝半月板切除)
内シャントPTA	子宮脱	頸椎椎弓形成術
内シャント造設術	子宮筋腫腹式手術	泌尿器科
腎生検クリニカルパス	子宮頸癌初期	前立腺生検
外科	小児科	TUR BT
ラパコレ	低身長検査①カタプレス負荷	TUR P
鼠径ヘルニア	低身長検査②トリプル負荷	眼科
虫垂切除術	低身長検査③ドバストン負荷	右両眼白内障
腹腔鏡下虫垂切除術	インバギ空気整復治療	右片眼偏側手術
乳房部分切除術	感染性胃腸炎	左両眼白内障
乳房切除術(全摘)	気管支喘息	左片眼偏側手術
ERCP	食物負荷試験	右眼瞼手術
ERCP(EST)	小児インフルエンザ	左眼瞼手術
甲状腺全摘術	免疫グロブリン補充療法	(右)局麻硝子体手術
呼吸器外科	小児外科	(左)局麻硝子体手術
CT下肺生検	小児鼠径ヘルニア	耳鼻咽喉科
タルセバ(エルロチニブ)内服治療パス	陰のう水腫	扁桃摘出術
胸腔鏡下肺切除術	停留精巣	内視鏡下副鼻腔手術(両ESS)
イレッサ(ゲフィチニブ)内服治療入院パス	小児虫垂切除術	急性扁桃炎・扁桃周囲膿瘍
	整形外科	喉頭鏡下微細手術
心血管外科	右THA	鼓膜チューピング術
腹部大動脈瘤人工血管置換術	左THA	小児扁桃腺摘出術
ストリッピング	右人工膝関節置換術	

NST運営委員会

【目的】

栄養管理はすべての疾患治療のうえで共通する基本的医療の一つであり、栄養管理をおろそかにするといかなる治療もその効力を発揮できず、逆に栄養障害に起因する種々の合併症を発症してしまふことがあります。適切な栄養療法が行われるためには医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師などの多くの職種が、各々の知識と技能を持ち寄って栄養管理を行っていかねばなりません。栄養管理を症例個々や各疾患治療に応じて適切に実施することを栄養サポートと言い、この栄養サポートを職種の壁を乗り越えて実践する集団（チーム）をNSTと言います。当院にもこのNSTがあり、平成18年度より全科型で開始しました。NSTは嚥下チームも兼ね合わせ、栄養療法として最善の形で経口摂取が出来ることを目標に関わっています。

平成25年度は、尾中脳神経外科医師の委員長2年目のもとの活動を行いました。今までの依頼方法に加え、血性アルブミン値が2.5mg/dl以下の患者を毎週抽出し、栄養管理が必要な患者が漏れることのないように取り組みを開始しました。また口腔ケア、摂食・嚥下障害看護、経腸栄養の3つにグループを作りました。病棟スタッフとして疑問に思っていること・困っていることなどをテーマに身近な問題の解決法が見出せるよう各グループで勉強会の企画・運営を行いました。

【活動内容】

毎月1回の委員会

毎週1回の回診と症例検討会を開催

2013年4月1日～2014年3月31日

回診： 回診患者数 111名

【学会発表】

テーマ	学術大会名	発表者
術後多発褥瘡を発症した患者の栄養改善を図り褥瘡治療の補助となったと考えられる1例	第6回日本静脈経腸栄養学会 中国支部学術集会	兼安美保

ボランティア活動

1. 概要

平成 12 年 6 月から、市民参加によるボランティア活動開始。

目的は、市民の方のボランティア活動を通して、開かれた病院づくりを目指す。地域の方とのつながりを大切にする。

2. 活動について

(1) 登録人数 21 名

(ア) 活動内容

① 外来業務（8：45～11：15 月曜日～金曜日）

活動人員 9 名

受診科案内、車椅子介助、再来受付、代筆など

② 移動図書「ふくふく文庫」（毎週水曜日 13:00～14:00）

活動人員 12 名

(イ) 年間活動

① ボランティア連絡協議会…偶数月 5 回／年

② ボランティア交流会…1 回／年

③ 「市報しものせき」ボランティア募集公募…1 回／年

④ 名陵中学校（ボランティア業務取材）4 名



▶ 名陵中学校生徒もボランティア体験

出前講座

【平成 25 年度実績】

テーマ	実施日	会場	参加者数	講師
親と子のかかわり	9月6日	北部公民館	23人	看護部（小児棟） 久木山 久美子 副主任
食事の工夫でアレルギー疾患を克服	11月6日	ふくふくサポートセンター	27人	アレルギー科 永田良隆 医師
腰痛予防	11月8日	清末老人憩いの家	31人	リハビリテーション科 内田景子 理学療法士
転倒予防教室	11月13日	下関市社会福祉センター	268人	リハビリテーション科 安部裕美子 主査
親と子のかかわり	11月13日	川中公民館	10人	看護部（小児棟） 久木山 久美子 副主任
がんの予防について	1月28日	下関三井化学株式会社	42人	看護部（救急センター） 上野妙子 副主任
転倒予防教室	2月8日	宇部東町民館	26人	リハビリテーション科 水野博彰 理学療法士
親と子のかかわり	2月20日	本村小学校	21人	看護部（小児棟） 久木山 久美子 副主任



平成 25 年度出前講座風景